

Nikon

デジタルカメラ

D3300

活用ガイド

Jp

お使いになる前に、使用説明書と活用ガイド（本書）をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立ててください。

本文中のマークについて

本書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときに活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



本書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- 本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは□10をご覧ください。

安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□xi~xviiをご覧ください。

目次

安全上のご注意.....	xi
ご確認ください.....	xviii

お使いになる前に **1**

各部の名称.....	1
メニューを使う.....	10

撮影前の準備をする **14**

かんたんに静止画 / 動画を撮影する (オート / 発光禁止オート) **24**

ファインダーをのぞいて静止画を撮影する.....	25
撮影した画像を再生する (1 コマ表示モード).....	28
不要な画像を削除する.....	29
液晶モニターを見ながら静止画を撮影する (ライブビュー撮影).....	31
撮影した画像を再生する (1 コマ表示モード).....	34
不要な画像を削除する.....	35
動画を撮影する.....	36
撮影した動画を再生する.....	38
不要な動画を削除する.....	39

GUIDE (ガイド) モードを使う **40**

ガイドモード.....	40
GUIDE モードのメニュー一覧.....	41
GUIDE モードでの操作方法.....	44

被写体や状況に合わせて撮影する

(シーンモード)

46

 (ポートレート).....	46
 (風景).....	46
 (こどもスナップ).....	47
 (スポーツ).....	47
 (クローズアップ).....	47
 (夜景ポートレート).....	48

特殊効果をつけて撮影する

(スペシャルエフェクトモード)

49

 (ナイトビジョン).....	50
 (極彩色).....	50
 (ポップ).....	50
 (フォトイラスト).....	51
 (カラスケッチ).....	51
 (トイカメラ風).....	51
 (ミニチュア効果).....	52
 (セレクトカラー).....	52
 (シルエット).....	53
 (ハイキー).....	53
 (ローキー).....	53
 (HDR ペインティング).....	54
 (かんたんパノラマ).....	54
 (かんたんパノラマ) で撮影する.....	63
パノラマ画像を再生する.....	66

レリーズモードを選ぶ	67
連続撮影で撮影する	68
静音撮影する	70
セルフタイマーを使って撮影する	71
ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを 合わせる	73
ピントの合わせ方を選ぶ (フォーカスモード)	73
フォーカスポイントの選び方を決める (AF エリアモード)	77
フォーカスポイントを自分で選ぶ	79
フォーカスロック撮影	80
マニュアルフォーカスでピントを合わせる	82
画質や画像のサイズを変更する	84
画質モードを設定する	84
画像サイズを設定する	86
内蔵フラッシュを使う	88
内蔵フラッシュが自動的に上がる 撮影モードの場合	88
内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合	90
ISO 感度を設定する	94
リモコン撮影する	96
別売のリモコン ML-L3 を使って撮影する	96

撮影モード P、S、A、M を使う	99
P：プログラムオート	101
S：シャッター優先オート	103
A：絞り優先オート	104
M：マニュアル	105
長時間露出で撮影する（撮影モード M のみ）	107
被写体の露出（明るさ）を設定する	111
明るさを測る方法を設定する（測光モード）	111
AE ロック撮影	113
画像の明るさを調整する（露出補正）	115
フラッシュの発光量を調整する （フラッシュ調光補正）	117
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	119
アクティブ D- ライティング	119
ホワイトバランスを合わせる	121
ホワイトバランスを微調整する	124
プリセットマニュアルを使う	126
画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する （ピクチャーコントロール）	132
ピクチャーコントロールを選ぶ	132
ピクチャーコントロールを調整する	134

ライブビュー撮影（液晶モニターを見ながら 撮影する）

ライブビュー撮影する	139
ライブビュー撮影時のピントの合わせ方を選ぶ （フォーカスモード）	141
ライブビュー撮影時のフォーカスポイントの 選び方を決める（AF エリアモード）	142

動画の撮影と再生

151

動画を撮影する.....	151
動画の設定.....	156
動画を再生する.....	159
動画の編集.....	161
動画の必要な部分を残す.....	161
動画の1フレームをJPEG画像として保存する.....	164

画像の再生と削除

166

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）.....	166
画像情報を表示する.....	168
複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）.....	176
撮影した日付ごとに画像を表示する （カレンダー表示モード）.....	177
画像を拡大表示する.....	179
画像を保護する（プロテクト）.....	181
画像にレーティング（重要度）を設定する.....	183
表示中の画像にレーティングを設定する.....	183
メニュー操作で画像にレーティングを設定する.....	185
スマートデバイスに取り込みたい画像をカメラで 送信指定する.....	186
表示中の画像を送信指定する.....	186
メニュー操作で画像を送信指定する.....	188
画像を削除する.....	190
表示中の画像を削除する.....	190
複数の画像をまとめて削除する.....	191
スライドショーで再生する.....	194

パソコン、プリンター、テレビとの接続 197

ViewNX 2 をインストールする	197
ViewNX 2 を使う	200
パソコンに画像を取り込む	200
画像を見る	202
プリンターで印刷する (ダイレクトプリント)	204
カメラとプリンターを接続する	204
1 コマだけプリントする	205
複数の画像をプリントする	207
プリントしたい画像を指定する (プリント指定)	209
テレビで見る	211
AV ケーブルを使ってテレビと接続する	211
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと 接続する	213

メニュー項目 216

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	216
削除	216
スライドショー	216
プリント指定 (DPOF)	216
レーティング	216
スマートデバイスへの送信指定	216
再生フォルダー設定	217
再生画面設定	217
撮影直後の画像確認	218
縦位置自動回転	218

 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能	219
画質モード	219
画像サイズ	219
ホワイトバランス	219
ピクチャーコントロール	219
アクティブ D- ライティング	219
AF エリアモード	220
測光モード	220
動画の設定	220
撮影メニューのリセット	221
自動ゆがみ補正	222
色空間	223
ノイズ低減	224
ISO 感度設定	225
内蔵 AF 補助光の照射設定	227
内蔵フラッシュ発光	227
光学手ブレ補正	228
 セットアップメニュー：カメラを使いやすくする	
基本設定	229
セットアップメニューのリセット	231
カードの初期化（フォーマット）	231
液晶モニターの明るさ	232
インフォ画面デザイン	232
インフォ画面の自動表示	235
イメージダストオフデータ取得	236
フリッカー低減	238
地域と日時	239
言語（Language）	240
縦横位置情報の記録	240
画像コメント	241

パワーオフ時間	242
セルフタイマー	243
リモコン待機時間 (ML-L3)	244
電子音設定	244
フォーカスエイドインジケーター	245
連番モード	246
ボタン動作のオプション	248
カードなし時リリース	250
デート写し込み設定	251
記録フォルダー設定	253
アクセサリターミナル	256
ビデオ出力	258
ワイヤレスモバイルアダプター	258
Eye-Fi 送信機能	259
ファームウェアバージョン	260
 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能	261
動画編集	261
画像編集の操作方法	262
D-ライティング	264
赤目補正	265
トリミング	266
モノトーン	267
フィルター効果	268
カラーカスタマイズ	270
画像合成	271
RAW 現像 (パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する)	274
リサイズ	275
簡単レタッチ	278

傾き補正.....	278
ゆがみ補正.....	279
魚眼効果.....	280
塗り絵.....	280
フォトイラスト.....	281
カラースケッチ.....	282
アオリ効果.....	283
ミニチュア効果.....	284
セレクトカラー.....	285
編集前後の画像表示.....	287
☑ 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる.....	290

資料

291

使用できるレンズ.....	291
外付けのスピードライトについて（別売フラッシュ）.....	300
ニコンクリエイティブライティングシステム 対応スピードライトについて.....	300
ニコンクリエイティブライティングシステム 対応スピードライトとの組み合わせで使用 できる機能.....	302
使用できるアクセサリ.....	307
推奨 SD カード.....	311
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの 接続方法.....	312
カメラのお手入れについて.....	314
保管について.....	314
クリーニングについて.....	314
カメラ内部のお手入れについて.....	315

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	321
カメラの取り扱い上のご注意	321
バッテリーの取り扱いについて	324
撮影モード別：設定できる機能一覧	326
困ったときは	330
電源・表示関連	330
撮影関連（全撮影モード共通）	331
撮影関連（撮影モード P、S、A、M）	334
再生関連	335
その他	336
警告メッセージ	337
主な仕様	344
レンズキットをご購入のお客様へ	353
AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR/ AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G	353
AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR II	359
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	366
電池寿命について	367
索引	369
ニコンプラザのご案内	376
修理サービスのご案内	377

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



バッテリーを取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしない
発火や感電などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと
失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと
事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない
視力障害の原因になります。
撮影時には、1m以上離れてください。
特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにする
特に幼児・児童の首にストラップをかけない
首に巻き付くと窒息の原因になります。

警告 (カメラとレンズについて)



ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること
指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



カメラの電源がONの状態では、長時間直接接触れないこと

使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



逆光撮影では、太陽を画角から充分にすらすこと

太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶついたりして、ケガの原因となることがあります。



航空機内では、離着陸時に電源をOFFにする

飛行中は無線通信機能を使わない

病院では、病院の指示に従う

本機器が出す電磁波などが、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。

無線通信機器は、あらかじめカメラから取り外してください。

注意 (カメラとレンズについて)

長期間使用しないときは電源(バッテリーやACアダプター)を外すこと



バッテリーを取る
プラグを抜く



バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。



禁止

付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと
機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電機について)



禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



分解禁止

バッテリーを分解しない
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

電池、または電池を入れたカメラに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

専用の充電器を使用すること
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

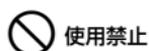


危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒を持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂、発火の原因になりますので、端子カバーを付けて絶縁してください。

危険 (専用リチウムイオン充電池について)



Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aに対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aは、D3300に対応しています。



バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておく、目に傷害を与える原因となります。

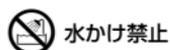
警告 (専用リチウムイオン充電池について)



バッテリーは、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。



変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときにはビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。



バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておく、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意 (専用リチウムイオン充電機について)



充電中のバッテリーに長時間直接接触しないこと
充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

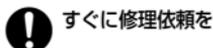
警告 (チャージャーについて)



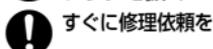
分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



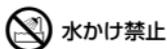
落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと



感電したり、破損部でケガをする原因となります。
チャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにチャージャーをコンセントから抜くこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
チャージャーをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしない
発火や感電などの事故や故障の原因になります。



引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると火災の原因になります。



雷が鳴り出したらチャージャーに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



ぬれた手でチャージャーをコンセントから抜き差ししないこと
感電の原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)



チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと

発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

<https://reg.nikon-image.com/>

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

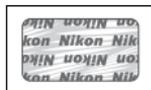
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



● 使用説明書および活用ガイドについて

- 使用説明書および活用ガイドの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書および活用ガイドの誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書および活用ガイドの内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書および活用ガイドのPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

● 著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

● カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

- SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像（□126）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

● AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

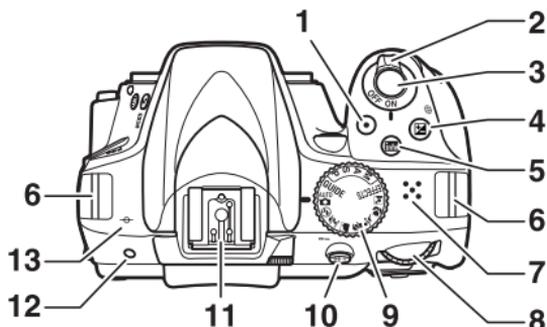
✓ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください（□xviii）。

お使いになる前に

各部の名称

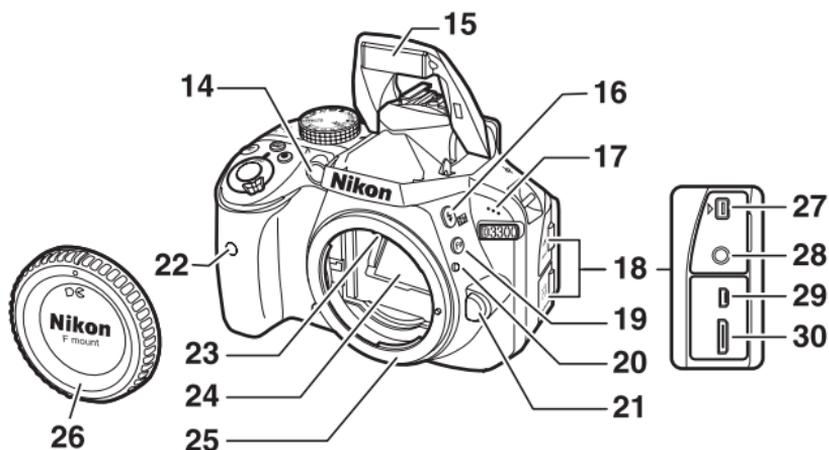
カメラ本体



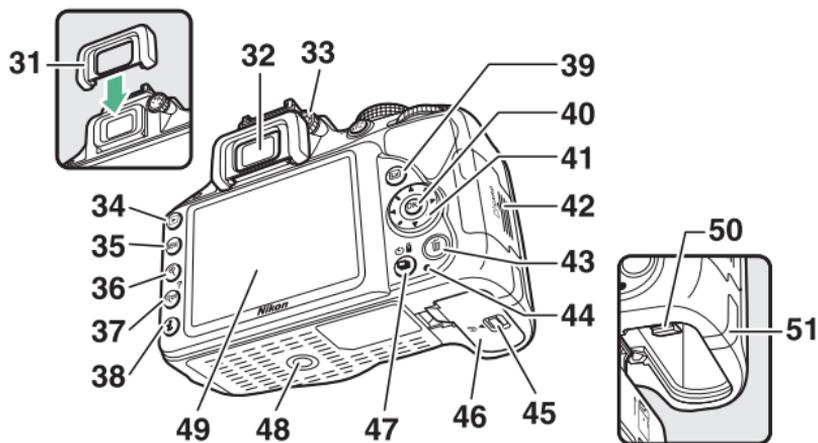
1	動画撮影ボタン	36、152	8	コマンドダイヤル	
2	電源スイッチ	17	9	モードダイヤル	4
3	シャッターボタン	26、27	10	AE-L (AF-L) ボタン	
4	☑ (⊗) ボタン	106、115、117	11	フラッシュ取り付け部 (アクセサリシュー)	300
5	Info ボタン	7、146	12	ML-L3用リモコン受光部 (背面)	96
6	ストラップ取り付け部 (吊り金具)	14	13	⇄ 距離基準マーク	83
7	スピーカー				

✓ スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。



<p>14 AF補助光ランプ 76、227 セルフタイマーランプ 72 赤目軽減ランプ 89、91</p> <p>15 内蔵フラッシュ 88</p> <p>16  (1/2) ボタン 88、90、117</p> <p>17 マイク (モノラル) 156</p> <p>18 端子カバー</p> <p>19 Fn ボタン 248</p> <p>20 レンズ着脱指標 16</p> <p>21 レンズ取り外しボタン 23</p> <p>22 ML-L3用リモコン受光部 (前面) 96</p>	<p>23 レンズ信号接点</p> <p>24 ミラー 318</p> <p>25 レンズマウント 16、83</p> <p>26 ボディーキャップ</p> <p>27 アクセサリーターミナル 310</p> <p>28 外部マイク入力端子 152</p> <p>29 USB/オーディオビデオ出力端子 200、204、211</p> <p>30 HDMIミニ端子 213</p>
--	---



31	接眼目当て	72	44	SDカードアクセスランプ	22、27
32	ファインダー接眼窓	6、19	45	バッテリー室カバー開閉ノブ	15、20
33	視度調節ダイヤル	19	46	バッテリー室カバー	15
34	▶ ボタン	28、166	47	☺ (☺/☺) ボタン	67、68、71、96
35	MENU ボタン	10、216	48	三脚ネジ穴	
36	🔍 ボタン	179	49	液晶モニター	7、28、31、139、166
37	🔍 (?) ボタン	11、176	50	バッテリーロックレバー	15
38	i ボタン	9、167	51	パワーコネクターカバー	312
39	📷 ボタン	31、36、139、151			
40	OK ボタン	11			
41	マルチセレクター	11			
42	SDカードカバー	15、22			
43	🗑️ ボタン	29、190			

モードダイヤル

モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

P、S、A、Mモード

シャッタースピードや絞り値、各種設定を自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができる撮影モードです。

P：プログラムオート (☐101)

S：シャッター優先オート (☐103)

A：絞り優先オート (☐104)

M：マニュアル (☐105)

GUIDEモード (☐40)

ガイドを使って撮影、再生、画像編集、設定の変更をすることができます。



オートモード

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめの撮影モードです。

AUTO：オートモード (☐24)

🚫：発光禁止オートモード (☐24)

スペシャルエフェクトモード

特殊効果をつけて撮影できる撮影モードです。

- | | |
|--|---|
|  ナイトビジョン (□50) |  セレクトカラー (□52、61) |
|  VI：極彩色 (□50) |  シルエット (□53) |
|  POP：ポップ (□50) |  ハイキー (□53) |
|  フォトイラスト (□51、56) |  ローキー (□53) |
|  カラースケッチ (□51、57) |  HDRペインティング (□54) |
|  トイカメラ風 (□51、58) |  かんたんパノラマ (□54、63) |
|  ミニチュア効果 (□52、59) | |



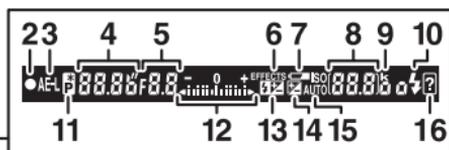
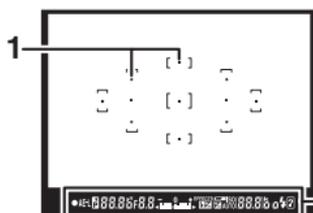
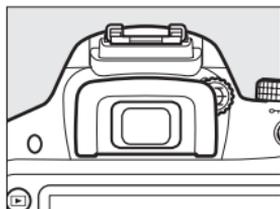
シーンモード

撮影シーンに合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、撮影シーンが決まっているときにおすすめの撮影モードです。

- | | |
|--|--|
|  ポートレートモード (□46) |  スポーツモード (□47) |
|  風景モード (□46) |  クローズアップモード (□47) |
|  こどもスナップモード (□47) |  夜景ポートレート (□48) |

ファインダー

(説明のため、全ての表示を点灯させています)

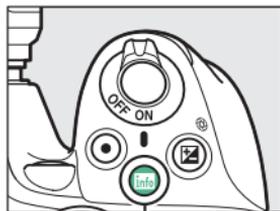


<p>1 フォーカスポイント表示 19、26、79</p> <p>2 ピント表示 26、83</p> <p>3 AEロックマーク 113</p> <p>4 シャッタースピード 100</p> <p>5 絞り値 100</p> <p>6 スペシャルエフェクト モード表示 49</p> <p>7 バッテリー警告表示 21</p> <p>8 記録可能コマ数 18 連続撮影可能コマ数 69 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得 モード表示 126 露出補正值 115 フラッシュ調光補正值 117 ISO感度 94、225</p>	<p>9 1000コマ以上補助表示 18</p> <p>10 レディーライト 30</p> <p>11 プログラムシフトマーク 102</p> <p>12 インジケーター 露出 106 露出補正 115 フォーカスイド* 245</p> <p>13 フラッシュ調光補正マーク 117</p> <p>14 露出補正マーク 115</p> <p>15 ISO-AUTOマーク 226</p> <p>16 警告表示 337</p>
---	--

液晶モニター表示

■■ インフォ画面 (説明のため、全ての表示を点灯させています)

Info ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなインフォ画面が表示されます。



Info ボタン



1	撮影モード AUTO (オート) または (発光禁止オート) で撮影する 24 シーンに合わせて撮影する 46 特殊効果をつけて撮影する 49 撮影モード P 、 S 、 A 、 M を使う 99	5	手ブレ補正マーク 23、228
2	Eye-Fi通信マーク 259	6	フラッシュ発光方式マーク 227 スピードライト 調光補正マーク 305
3	衛星受信状態マーク 258	7	アクティブD-ライティング 119
4	デート写し込み設定マーク 251	8	ピクチャーコントロール 132
		9	レリーズモード 67
		10	電子音マーク 244



<table border="0"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">11</td> <td>絞り値</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>絞りイメージ</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">12</td> <td>シャッタースピード</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シャッタースピードイメージ</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">13</td> <td>AEロックマーク</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">14</td> <td>オートエリアAF設定マーク... ..</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3D-トラッキング設定マーク</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フォーカスポイント</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">15</td> <td>バッテリー残量表示</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">16</td> <td>ISO感度</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ISO感度イメージ</td> <td>94、226</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ISO-AUTOマーク</td> <td>226</td> </tr> </table>	11	絞り値	100		絞りイメージ	100	12	シャッタースピード	100		シャッタースピードイメージ	100	13	AEロックマーク	113	14	オートエリアAF設定マーク... ..	77		3D-トラッキング設定マーク	77		フォーカスポイント	26	15	バッテリー残量表示	21	16	ISO感度	94		ISO感度イメージ	94、226		ISO-AUTOマーク	226	<table border="0"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">17</td> <td>記録可能コマ数</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">18</td> <td>1000コマ以上補助表示</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">19</td> <td>インジケータ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>露出</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td></td> <td>露出補正</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;">20</td> <td>ヘルプあり表示</td> <td>337</td> </tr> </table>	17	記録可能コマ数	18		ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示	126	18	1000コマ以上補助表示	18	19	インジケータ			露出	106		露出補正	115	20	ヘルプあり表示	337
11	絞り値	100																																																								
	絞りイメージ	100																																																								
12	シャッタースピード	100																																																								
	シャッタースピードイメージ	100																																																								
13	AEロックマーク	113																																																								
14	オートエリアAF設定マーク... ..	77																																																								
	3D-トラッキング設定マーク	77																																																								
	フォーカスポイント	26																																																								
15	バッテリー残量表示	21																																																								
16	ISO感度	94																																																								
	ISO感度イメージ	94、226																																																								
	ISO-AUTOマーク	226																																																								
17	記録可能コマ数	18																																																								
	ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示	126																																																								
18	1000コマ以上補助表示	18																																																								
19	インジケータ																																																									
	露出	106																																																								
	露出補正	115																																																								
20	ヘルプあり表示	337																																																								

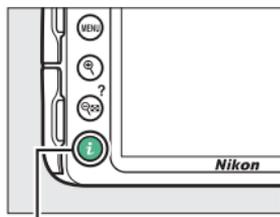
液晶モニター（インフォ画面）を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、**Info**ボタンを押す

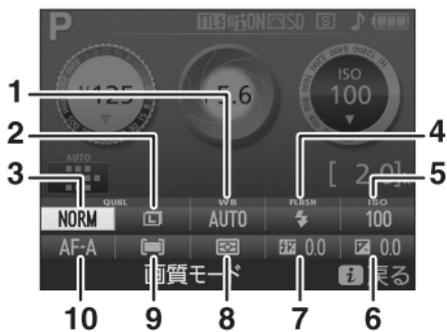
操作を行わないまま約8秒経過したときも、インフォ画面は消灯します（液晶モニターが消灯するまでの時間は、セットアップメニュー [パワーオフ時間] (□242) で変更できます）。

■ 撮影時の設定を変更する

i ボタンを押すと、インフォ画面下部に表示されている撮影時の設定を変更できる画面に切り替わります。マルチセレクターの▲▼◀▶を押してカーソルを動かし、項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。



i ボタン

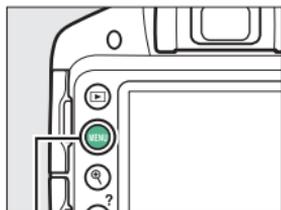


1 ホワイトバランス	121	6 露出補正	115
2 画像サイズ	86	7 フラッシュ調光補正	117
3 画質モード	84	8 測光モード	111
4 フラッシュモード	89、91	9 AFエリアモード	77、142
5 ISO感度	94	10 フォーカスモード	73、141

メニューを使う

再生や撮影、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニュー画面を使います。

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

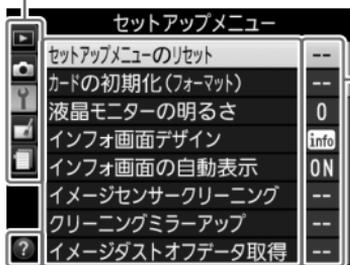


MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

	再生メニュー (☎216)
	撮影メニュー (☎219)
	セットアップメニュー (☎229)
	画像編集メニュー (☎261)
	最近設定した項目 (☎290)



各項目の現在の設定をアイコンで表示します

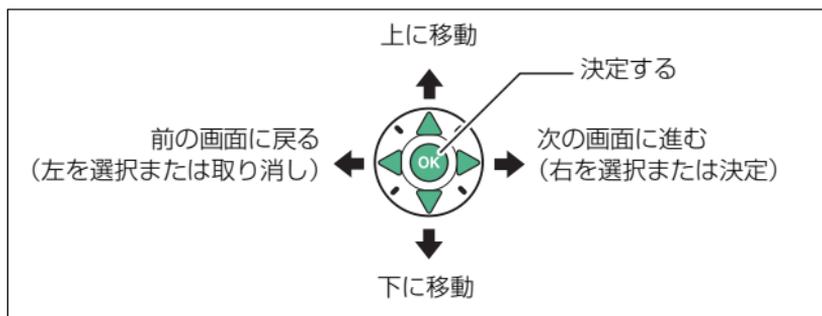
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

ヘルプあり表示 (☎11)

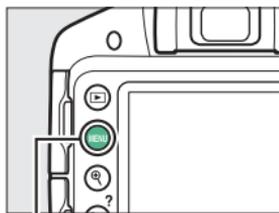
■ メニュー項目の設定方法

メニューの操作には、マルチセレクターと **OK** ボタンを使います。



1 メニュー画面を表示する

- MENU ボタンを押します。

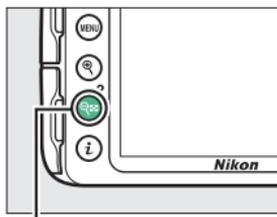


MENU ボタン

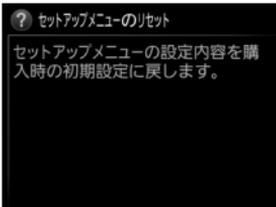
📌 ? (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に **Q&A (?)** ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、**Q&A (?)** ボタンを押しながらマルチセレクターの **▼** を押して、次のページを表示してください。
- **Q&A (?)** ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

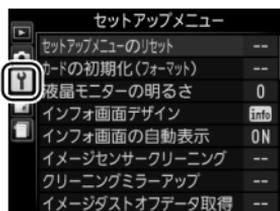


Q&A (?) ボタン



2 メニューのタブを選ぶ

- マルチセクターの◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。



4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。



5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。



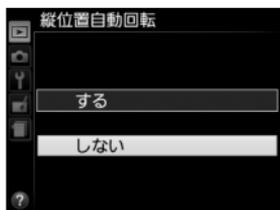
6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。



7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。



8 決定する

- ⊙ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。

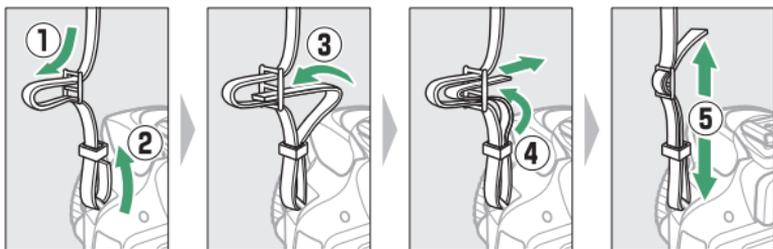


- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ⊙ボタンの代わりに▶を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、⊙ボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し(□27)してください。

撮影前の準備をする

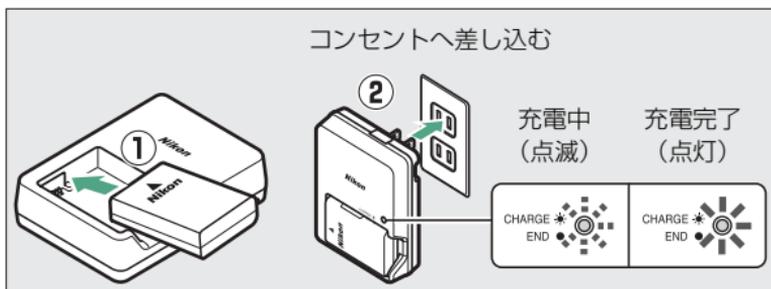
バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

1 カメラにストラップを取り付ける (2カ所)



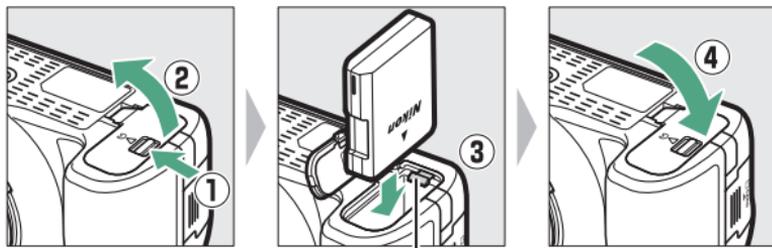
2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- フル充電するには約1時間50分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



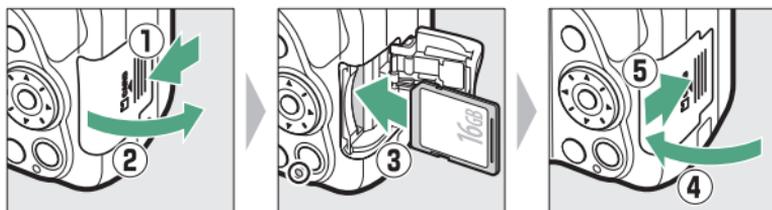
3 カメラにバッテリーとSDカードを入れる

- バッテリーとSDカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



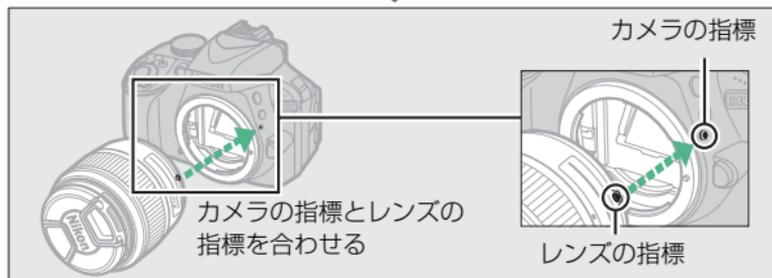
バッテリーロックレバー

- SDカードは、カチッと音がするまで挿入してください。

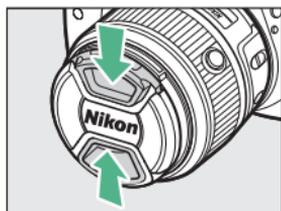


4 レンズを取り付ける

- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。



- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。



5 カメラの電源をONにする



電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がONになります。

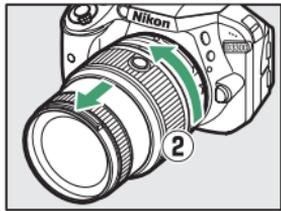
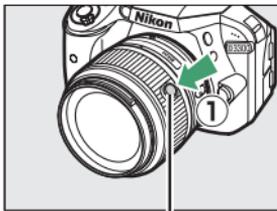


電源スイッチを矢印の方向に回して「OFF」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がOFFになります。



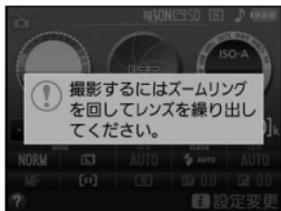
ズームリングボタンの付いたレンズをお使いの場合

ズームリングボタンを押しながら①、ズームリングを矢印の方向に回してください②。ズームリングのロックが解除され、レンズが繰り出します。



ズームリングボタン

- レンズを収納した状態では撮影できません。レンズを繰り出さずに電源をONにして警告メッセージが表示された場合、撮影できる位置までズームリングを回すと、警告メッセージが消えます。



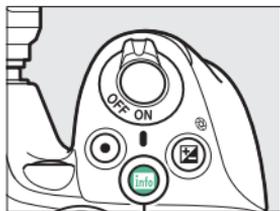
6 日付と時刻を設定する

- ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。
- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせ、◀または▶で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、OKボタンを押します。



7 バッテリーとSDカードを確認する

- infoボタンを押すと、バッテリーの残量とSDカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を液晶モニターで確認できます。



infoボタン

バッテリー残量
(☐21)

- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。



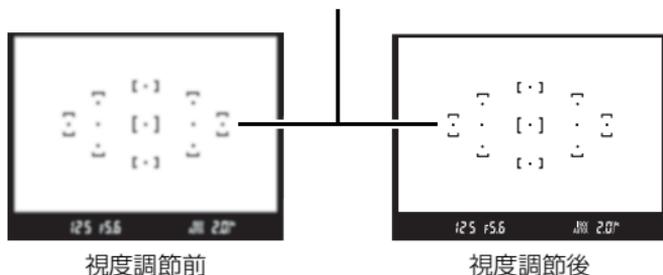
記録可能コマ数

8 ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- レンズキャップを取り外し、ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、フォーカスポイントが最もはっきり見えるように調節してください。



フォーカスポイント



✓ チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、チャージャーをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-24対応のバッテリー以外は充電しないでください。

✓ **チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合**

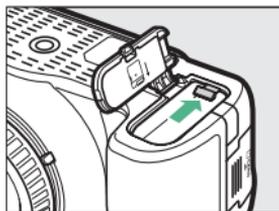
- **バッテリーのセットミス**：チャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。
- さらに不具合が続く場合は、ただちにチャージャーをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店または二コサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

✓ **バッテリーの使用上のご注意**

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（□xi～xvii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（□321～325）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは 0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。
- 周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。

✓ **バッテリーを取り出すときは**

電源をOFFにしてから、バッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。



バッテリー残量

バッテリー残量は、インフォ画面で確認できます。残量が少なくなると、ファインダーにバッテリー警告が表示されます。

- **Info** ボタンを押してもインフォ画面が表示されない場合、バッテリー残量がありません。



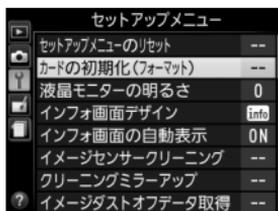
液晶モニター	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
		残量は残りわずかです。
 (点滅)	 (点滅)	残量がなくなりました。バッテリーを充電してください。

SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後は、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
 - SDカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

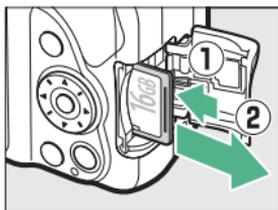
✓ SDカードのフォーマット

このカメラに初めて入れるSDカードや、他の機器でフォーマットされたSDカードは、セットアップメニュー [カードの初期化(フォーマット)] (□231) で、画面の指示に従ってフォーマットしてください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください。



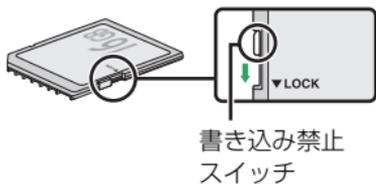
✓ SDカードを取り出すときは

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。



✓ SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告音が鳴り、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。



✓ レンズのフォーカスモードについて

レンズのフォーカスモード (□82) が切り換えられる場合は、オートフォーカス (A、M/A、またはA/M) に設定してください (使用できるレンズについては、□291をご覧ください)。



手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能がONのときは、インフォ画面に手ブレ補正マークが表示されます。

- 撮影メニュー [光学手ブレ補正] に対応したレンズの装着時には、[光学手ブレ補正] を [する] に設定すると、手ブレ補正機能がONになります (□228)。
- レンズに手ブレ補正スイッチがある場合は、手ブレ補正スイッチをONにすると、手ブレ補正機能がONになります。



レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

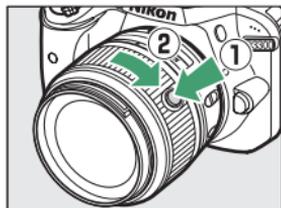
- レンズを取り外した後は、カメラのポディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



ズームリングボタンの付いたレンズの収納方法

- カメラを使わないときは、レンズを収納してコンパクトにすることができます。レンズを収納するには、ズームリングボタンを押しながら (①)、ズームリングを矢印の方向に回してください (②)。ズームリング上の指標を「L」(ロック) の位置に合わせて、ズームリングがロックされてレンズが収納されます。

- レンズの着脱時にズームリングボタンを押さないようご注意ください。
- レンズを取り外す前にレンズを収納してください。



カメラの内蔵時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計 (腕時計など) ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

時計用電池について

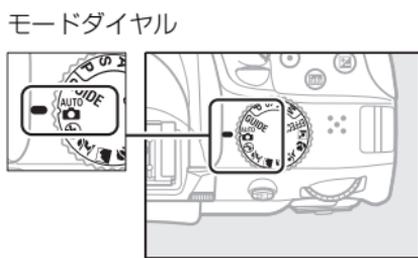
カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約3日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。液晶モニターに [日時未設定] と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

かんたんに静止画/動画を撮影する (AUTO オート/🔌 発光禁止オート)

撮影モード  (オート) と  (発光禁止オート) を使うと、カメラまかせの簡単な操作で静止画撮影と動画撮影を楽しむことができます。 の場合は、必要に応じてフラッシュが光ります。フラッシュを光らせずに撮影したいときは、 で撮影してください。



カメラの電源をONにして、カメラ上面のモードダイヤルを  または  に合わせます。



ファインダーをのぞいて撮影する



- 静止画を撮影するには 📖 25
 • 再生するには 📖 28
 • 削除するには 📖 29

液晶モニターを見ながら撮影する



- 静止画を撮影するには 📖 31
 • 再生するには 📖 34
 • 削除するには 📖 35



- 動画を撮影するには 📖 36
 • 再生するには 📖 38
 • 削除するには 📖 39

ファインダーをのぞいて静止画を撮影する

1 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



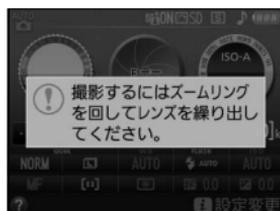
ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

- 撮影するときは、ズームリングを構図を決めてからピント合わせを行ってください。
- ズームリングボタンの付いたレンズの場合（□17）は、ズームリングボタンを押しながら、右図の警告メッセージが表示されなくなるまでズームリングを回してロックを解除してから、ズーム操作を行ってください。

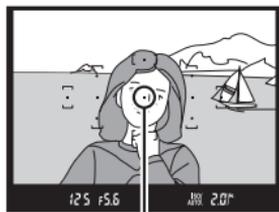


ズームリング



2 構図を決める

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 11点（11カ所）あるフォーカスポイントの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。



フォーカスポイント

3 シャッターボタンを軽く 押して（半押しして）、ピ ントを合わせる

- 被写体に自動的にピントが合います。
- 暗い場所などでは、AF補助光が光ったり内蔵フラッシュが上がる場合があります。
- ピントが合うと、ピピッという電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。



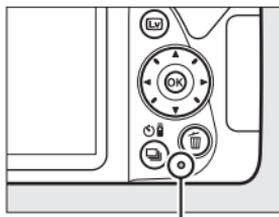
ピント表示

連続撮影
可能コマ数

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体」(P75) をご覧ください）。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。



SDカード
アクセスランプ



✍ シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「シャッターボタンを全押しする」といいます）と、シャッターがきれます。



半押しして
ピントを合わせる

全押しして
撮影する

- 再生中にシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。

撮影した画像を再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、撮影した画像が表示されます。



▶ボタン



- マルチセレクターの◀または▶を押すと、他の画像を表示できます。



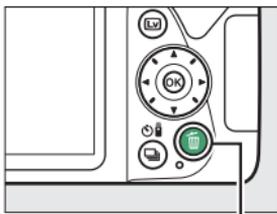
不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示する



▶ ボタン

2 𠂆 ボタンを押す

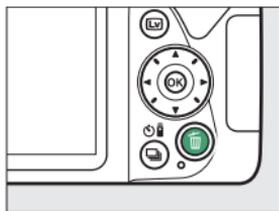


𠂆 ボタン



3 もう一度 𠂆 ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになります。何も操作が行われなまま約8秒経過すると半押しタイマーがオフになり、ファインダー内表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、セットアップメニュー [パワーオフ時間] (□242) で変更できます。



半押しタイマーオフ

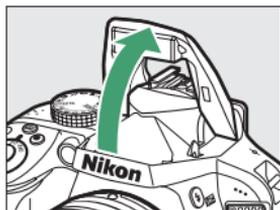


半押しタイマーオン

内蔵フラッシュについて

撮影モード  では、シャッターボタンを半押しすると必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がります (□88)。

- **ファインダー内に  (レディーライト) が点灯しているとき**：シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。
- **内蔵フラッシュが上がっている状態で  が点灯していないとき**：フラッシュが充電中のため、撮影できません。



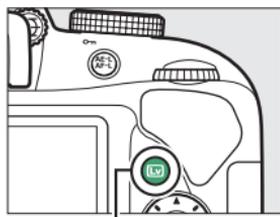
内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。フラッシュを使わないときは常に収納してください。



液晶モニターを見ながら静止画を撮影する（ライブビュー撮影）

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 カメラを構える

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



3 シャッターボタンを軽く 押して（半押しして）、 ピントを合わせる

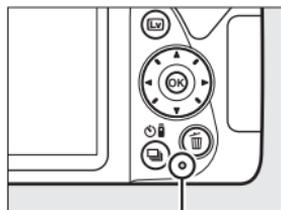
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。



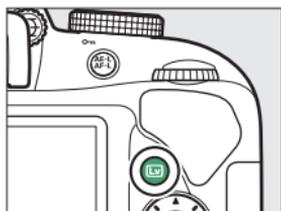
フォーカスポイント

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- 撮影時は液晶モニターが点灯します。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影後は、撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。
- ライブビューを終了する場合は、**[Lv]** ボタンを押します。



SDカード
アクセスランプ



撮影した画像を再生する（1コマ表示モード）

▶ボタンを押すと、撮影した画像が表示されます。



▶ボタン



- マルチセレクターの◀または▶を押すと、他の画像を表示できます。



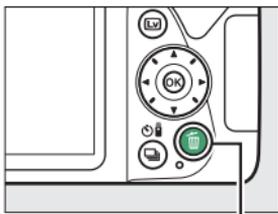
不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示する



▶ ボタン

2 𠂆 ボタンを押す

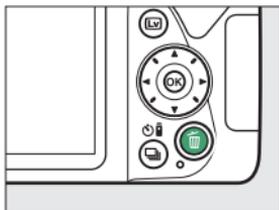


𠂆 ボタン

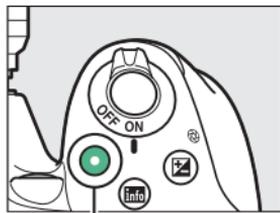


3 もう一度 𠂆 ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



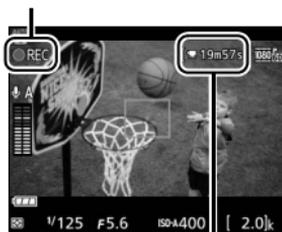
4 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める



動画撮影ボタン

- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。

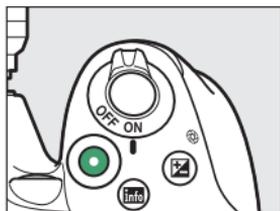
録画中マーク



残り時間

5 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

- ライブビューを終了する場合は、**[Lv]** ボタンを押します。

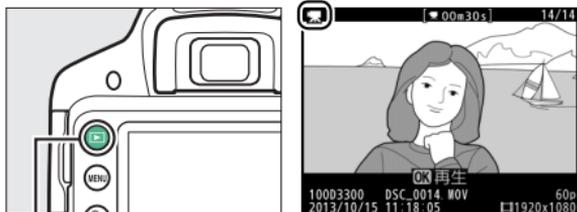


✓ 動画撮影について

動画撮影時のご注意や、撮影時に設定できる機能の説明については、「動画を撮影する」(151)をご覧ください。

撮影した動画を再生する

▶ボタンを押して、📌マークが表示されている画像を表示します（1コマ表示モード）。



▶ボタン

- **OK** ボタンを押して動画を再生します。マルチセレクターの▲または▶ボタンを押すと、動画再生を終了します。動画再生時の詳しい操作については、「動画を再生する」(□159) をご覧ください。



不要な動画を削除する

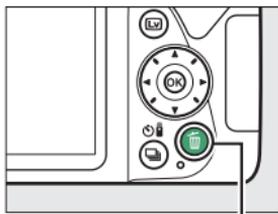
1 削除したい動画を表示する

- マークが表示されている画像が動画です。



▶ボタン

2 削除ボタンを押す

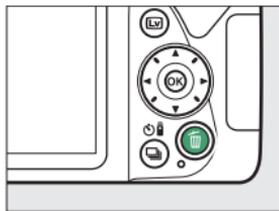


🗑️ボタン



3 もう一度削除ボタンを押す

- 表示中の動画が削除されます。



GUIDE (ガイド) モードを使う

ガイドモード

GUIDEモードでは、よく使う機能や使うと便利な機能を液晶モニターに表示されるガイドモードを使って設定できます。カメラ上面のモードダイヤルをGUIDEに合わせると、次のようなガイドモードのトップ画面を表示します。



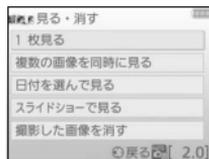
撮る

状況や被写体に合わせて撮影できるようにカメラを設定できます。



見る・消す

撮影した画像を確認したり、不要な画像を削除できます。



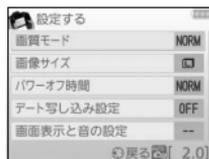
編集する

撮影した画像を編集できます。



設定する

よく使う機能や使うと便利な機能の設定を変更できます。



GUIDEモードのメニュー一覽

モードダイヤルを**GUIDE**に合わせると表示される、ガイドモードのトップ画面でメニューを選んで**OK**ボタンを押します。



■ [撮る] メニュー

場面にあわせて撮る

 おまかせで撮る
 フラッシュを使わずに撮る
 遠くの被写体を撮る
 花や小物をアップで撮る
 子供の寝顔を撮る
 動く被写体を撮る
 風景や街並みを撮る
 ポートレートを撮る
 夜景をバックに人物を撮る
 夜景を撮る

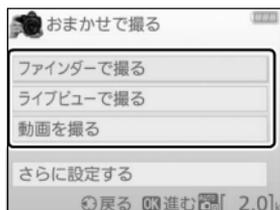
テクニックを使って撮る

A GUIDE	<ul style="list-style-type: none">背景をぼかして撮る隅々までシャープに撮る 絞り値を設定して撮影します。
S GUIDE	<ul style="list-style-type: none">人物の動きを止めて撮る乗物の動きを止めて撮る水の流れを撮る シャッタースピードを設定して撮影します。
P GUIDE	<ul style="list-style-type: none">夕日を赤く撮る* ホワイトバランスを調整して撮影します。明るい雰囲気撮る*落ち着いた雰囲気撮る* 露出を補正して撮影します。ブレを防いで撮る 感度自動制御を設定して撮影します。

*設定した値が、[テクニックを使って撮る]の他の項目に反映されます。設定をリセットするには電源をOFFにし、もう一度ONにしてください。

撮影を始めるには

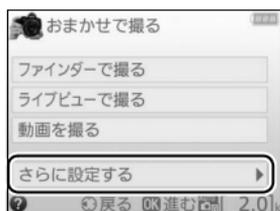
次のいずれかを選んで \odot ボタンを押すと、撮影を開始できます。



- ファインダーで撮る
- ライブビューで撮る
- 動画を撮る

さらに設定するには

「さらに設定する」を選んで▶を押すと、次の項目を設定できます*。



- フラッシュの設定
 - フラッシュモード
 - フラッシュ調光補正
- レリーズモード
- ISO感度設定
 - ISO感度
 - 感度自動制御
- ピクチャーコントロール
- 露出補正
- ホワイトバランス

*1つ前の画面で設定した内容によって設定できる内容が異なります。

GUIDEモードの【撮る】について

次の場合は、【おまかせで撮る】の設定になります。

- 電源をOFFにしてもう一度ONにしたとき
- モードダイヤルを**GUIDE**に合わせてから、何も設定しないで撮影するとき
- 他のモードに切り換えてから**GUIDE**モードに戻ったとき

■ [見る・消す] メニュー

1 枚見る

複数の画像を同時に見る

日付を選んで見る

スライドショーで見る

撮影した画像を消す

■ [編集する] メニュー

トリミング

フィルター効果 (クロススクリーン)

フィルター効果 (ソフト)

フォトイラスト

ミニチュア効果

セレクトカラー

■ [設定する] メニュー※1

画質モード

画像サイズ

パワーオフ時間

デート写し込み設定

画面表示と音の設定

液晶モニターの明るさ

インフォ画面の背景色

インフォ画面の自動表示

電子音設定

動画の設定

画像サイズ/フレームレート

動画の画質

録音設定

風切り音低減

フリッカー低減

再生フォルダー設定

再生画面設定

プリント指定 (DPOF)

時計と言語 (Language)

地域と日時

言語 (Language)

カードの初期化 (フォーマット)

外部出力の設定

HDMI

ビデオ出力

ワイヤレスモバイルアダプター

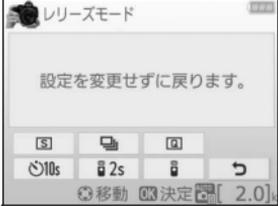
Eye-Fi送信機能※2

カードなし時リリース

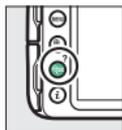
※1 **GUIDE** モードで設定した内容は、他の撮影モードには反映されません ([フリッカー低減]、[プリント指定 (DPOF)]、[時計と言語 (Language)]、[カードの初期化 (フォーマット)]、[外部出力の設定]、[ワイヤレスモバイルアダプター]、[Eye-Fi送信機能]、[カードなし時リリース] を除く)。

※2 **Eye-Fi送信機能** は、この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます (□259)。

GUIDEモードでの操作方法

<p>ガイドモードの トップ画面を 表示する</p> <p>消灯した画面を 点灯させる</p>		<p>MENUボタンを押します。</p>
<p>メニューを選ぶ</p>		<p>ガイドモードのトップ画面でマルチセクターの▲▼◀▶を押してメニューを選択します。</p>
<p>項目を選ぶ</p>		<p>▲と▼を押して項目を選択します。</p>
		<p>次のような画面のときは、▲▼◀▶を押して項目を選択します。</p> 
<p>選んだ項目を 設定する</p>		<p>OKボタンを押します。</p>
<p>前の画面に 戻る</p>		<p>◀を押します。</p>
		<p>次のような画面のときに、項目を選択せず前の画面に戻りたいときは、◀を選んでOKボタンを押します。</p> 

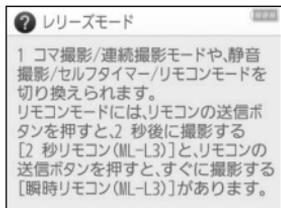
項目のヘルプ
(説明) を見る



画面に **?** (ヘルプあり表示) が表示されているときに **Q** (?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) が表示されます。



? (ヘルプあり表示)

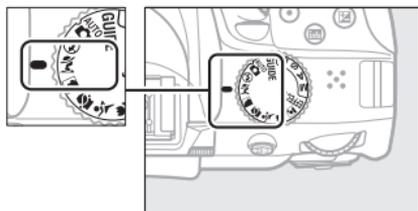


- 説明が2ページ以上ある場合は、**Q** (?) ボタンを押しながら **▼** を押して、次のページを表示してください。
- **Q** (?) ボタンを放すと、前の画面に戻ります。

被写体や状況に合わせて撮影する (シーンモード)

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

シーンモードは、モードダイヤルを回して設定します。



モードダイヤル

(ポートレート)



人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

(風景)



自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。

(こどもスナップ)



子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

(スポーツ)



運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

ご注意

内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。

(クローズアップ)



草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。

(夜景ポートレート)



夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

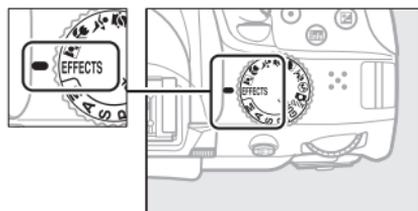
特殊効果をつけて撮影する (スペシャルエフェクトモード)

特殊な効果のついた画像を撮影できます。

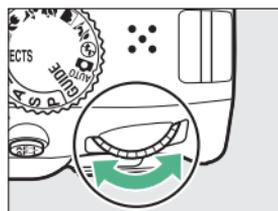
 ナイトビジョン	 セレクトカラー
 VI 極彩色	 シルエット
 POP ポップ	 ハイキー
 フォトイラスト	 カラーキー
 カラースケッチ	 HDRペインティング
 トイカメラ風	 かんたんパノラマ
 ミニチュア効果	



モードダイヤルを**EFFECTS**に合わせた後、コマンドダイヤルを回して設定します。



モードダイヤル



コマンドダイヤル



液晶モニター

(ナイトビジョン)



意図的に高感度で撮影して、モノトーン（白黒）で表現します。暗闇での撮影に適しています。

ご注意

- オートフォーカスはライブビュー撮影時のみ使えます。
- オートフォーカスでピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを **[MF]**（マニュアルフォーカス）に設定してください。
- 撮影した画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

VI (極彩色)



画像全体の色を強調し、コントラストがはっきりした写真にします。

POP (ポップ)



画像全体の色を鮮やかにし、明るい雰囲気になります。

(フォトイラスト)



輪郭を強調し、色数を減らすことでイラスト風に表現します。

- ライブビュー表示にすると、 (フォトイラスト) の効果を設定できます (□56)。

ご注意

- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。
- フラッシュ撮影するには、フラッシュモード (□89) を [ **AUTO**] (通常発光オート) または [ **AUTO**] (赤目軽減オート) に設定してください。

(カラスケッチ)



輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風に表現します。

- ライブビュー表示にすると、 (カラスケッチ) の効果を設定できます (□57)。

ご注意

- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、コマ送りのような動画として記録されます。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(トイカメラ風)



色の濃さと周辺減光量を調整し、トイカメラで撮影したように表現します。

- ライブビュー表示にすると、 (トイカメラ風) の効果を設定できます (□58)。

(ミニチュア効果)



ミニチュア（模型）を接写したように表現します。高いところから見下ろして撮影する場合に適しています。

- ライブビュー表示にすると、（ミニチュア効果）の効果を設定できます（□59）。

ご注意

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。
- オートフォーカス中は効果が一時解除されます。
- 動画撮影の場合は、早送り動画として記録されます。
- 動画撮影に音声は記録されません。
- 動画撮影中はオートフォーカスは作動しません。

(セレクトカラー)



選んだ色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）で表現します。

- ライブビュー表示にすると、（セレクトカラー）の効果を設定できます（□61）。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(シルエット)



背景が明るいシーンで、被写体を意図的にシルエットで表現します。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(ハイキー)



全体的に明るめの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に明るいトーンで表現します。光に満ちた華やかな雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

(ローキー)



全体的に暗めの被写体の撮影に適しています。画像全体を意図的に暗いトーンで表現します。深く落ち着き、ハイライト部分が引き立った雰囲気になります。

ご注意

内蔵フラッシュは光りません。

📷 (HDRペインティング)



絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになります。

- 1回の撮影で露出が異なる画像を連続2コマ撮影して合成します。

✔️ ご注意

- 合成処理中は、液晶モニターにメッセージが表示され、表示が消えるまで次の撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されないことがあります。
- 効果はライブビュー表示時には確認できません。動画撮影時には、撮影モード  として動作します。
- 内蔵フラッシュは光りません。
- レリーズモードを  (連続撮影) に設定していても、連続撮影はできません。

📷 (かんたんパノラマ)



パノラマ写真を撮影できます (📷63)。

- ライブビューに切り換えてから撮影してください。ファインダー撮影はできません。

✔️ ご注意

- 動画撮影はできません。
- 内蔵フラッシュは光りません。

📌 三脚の使用について

暗いときや手ブレが気になるときは、三脚の使用をおすすめします。

スペシャルエフェクトモードについて

- 撮影モード 、VI、POP、、、、、、 または  の場合にRAWを含む画質モードで撮影すると、画質モードFINEのJPEG画像が記録されます。
- 撮影モードが 、 または  のときにリリースモードを [] (連続撮影) に設定した場合、連続撮影速度が遅くなります。
- 撮影モードが 、 または  のときは、ライブビュー時の表示の更新は遅くなります。

■ (フォトイラスト) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで  を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

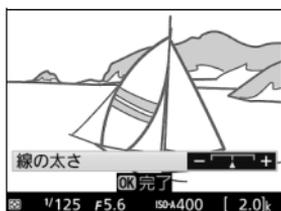
- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

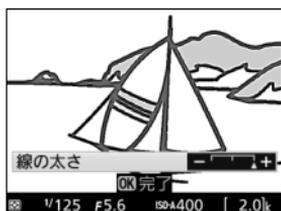
2 OK ボタンを押す

- フォトイラストの設定画面が表示されます。



3 線の太さを設定する

- マルチセクターの ◀ を押すと細くなり、 ▶ を押すと太くなります。



4 決定する

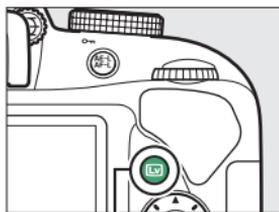
- OK ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、Lv ボタンを押します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

■ (カラースケッチ) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- カラースケッチの設定画面が表示されます。



3 色の濃さと線の濃さを設定する

- マルチセレクターの▲または▼を押して、設定したい項目を選びます。
- [色の濃さ]: ▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
- [線の濃さ]: ▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。[線の濃さ] を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。



4 決定する

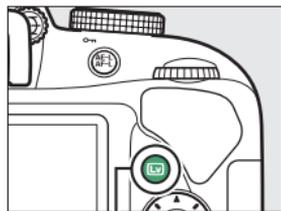
- OK ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、Lv ボタンを押します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

■ 風 (トイカメラ風) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで 風 を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- トイカメラ風の設定画面が表示されます。



3 色の濃さと周辺減光を設定する

- マルチセレクターの ▲ または ▼ を押して、設定したい項目を選びます。
- [色の濃さ] : ▶ を押すと色が濃くなり、◀ を押すと薄くなります。
- [周辺減光] : ▶ を押すと減光効果が強くなり、◀ を押すと減光効果が弱くなります。



4 決定する

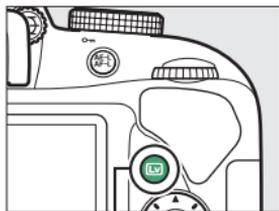
- OK ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、Lv ボタンを押します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

■ ■ (ミニチュア効果) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで  を選んだ後、効果を設定します。

1 ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



 ボタン

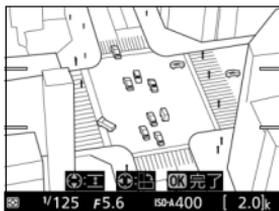
2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- マルチセレクターの  ボタンを押して、ぼかさないではっきりと見せたい部分にフォーカスポイントを移動します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
-  ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントを細部まで確認できます。 ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- 拡大表示中は効果が一時解除されます。



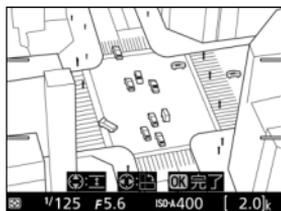
3 ボタンを押す

- ミニチュア効果の設定画面が表示されます。



4 効果を加える方向と幅を設定する

- ◀または▶を押すと、効果を加える方向を縦と横から選べます。
- ▲または▼を押すと、効果を加える幅を設定できます。



5 決定する

- **OK** ボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、**LV** ボタンを押します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

ミニチュア効果での動画撮影について

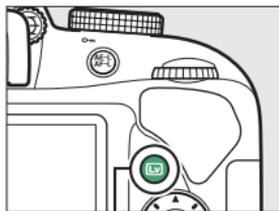
動画の記録時間は撮影にかかる時間よりも短くなります。たとえば、撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] が1920 × 1080、30pの場合 (□156)、約3分の動画ファイルを作成するためには、約45分の撮影時間が必要です。

■ ① (セレクトカラー) の効果の設定方法

スペシャルエフェクトモードで①を選んだ後、効果を設定します。

1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

2 OK ボタンを押す

- セレクトカラーの設定画面が表示されます。



3 残したい色を抽出する

- カメラを動かして画面中央の枠を残したい色の被写体に重ねます。
- ④ ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。
- ⑤ (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。
- マルチセクターの▲を押すと、画面中央の枠に重ねた被写体の色が抽出され、色の枠に表示されます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーン（白黒）で表示されます。



4 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。



色の感度



5 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して別の色の枠を選び、手順3~4と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色を選んで⇐ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、⇐ボタンを押し続けます。確認画面で【はい】を選んでOKボタンを押すと、全ての色をリセットします。



6 決定する

- OKボタンを押して決定すると、設定した効果で撮影できます。
- ライブビューを終了する場合は、Lvボタンを押します。ライブビューを終了しても、設定した効果は維持されます。設定した効果は、ファインダー撮影でも適用されます。

✓ セレクトカラー設定時のご注意

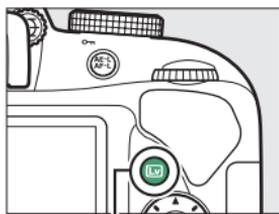
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

□ (かんたんパノラマ) で撮影する

スペシャルエフェクトモードで□を選んだ後、次の方法でパノラマ画像を撮影します。

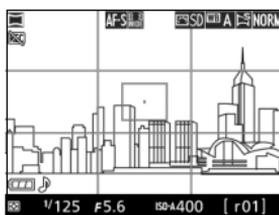
1 Lv ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。
- 構図用の格子のガイドが表示されます。



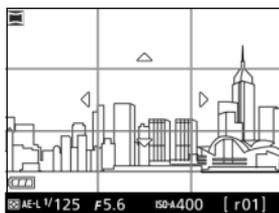
Lv ボタン

2 一番端の被写体に構図を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる



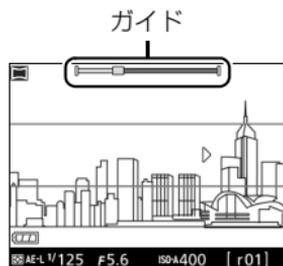
3 シャッターボタンを全押ししてから指を放す

- 画面が一度暗くなります。その後、液晶モニターが点灯して、カメラを動かす方向を示す△▽◀▶マークが表示されます。

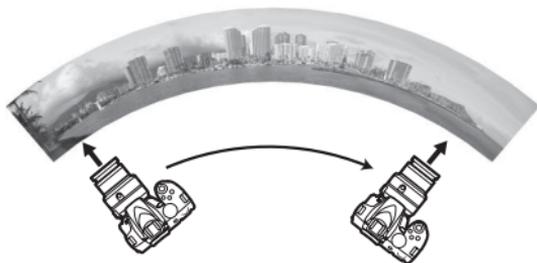


4 カメラを4方向のいずれかに、まっすぐゆっくりと動かし、撮影を開始する

- カメラが動いている方向を検出すると、撮影が始まります。
- 現在の撮影地点を示すガイドが表示されます。
- 撮影地点を示すガイドが端まで到達すると撮影が終了します。



カメラの動かし方の例



- 撮影者は動かずに、カメラを水平方向、または垂直方向に円弧を描くように動かします。

✔ **かんたんパノラマ撮影時のご注意**

- 保存される画像の範囲は、撮影時に画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 撮影メニューの [画像サイズ] (□86) では、[パノラマ標準] と [パノラマワイド] の2種類の画像サイズから選べます。[パノラマ標準] のときは約15秒以内、[パノラマワイド] のときは約30秒以内を目安に、範囲の端から端まで動かしてください。
- カメラを動かす速度が速すぎるときや、ブレが大きいときなどはエラーメッセージが表示されます。
- パノラマ範囲の半分に到達する前に撮影が止まると、パノラマ画像は保存されません。
- パノラマ範囲の半分以上を撮影していて、終端に到達する前に撮影が終了したときは、撮影されなかった範囲がグレーの表示で記録されます。
- 意図的に画像の明るさを変えたいときは、手順1でライブビューを開始してから  (⊕) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段ステップで±3段の範囲で露出補正ができます (□115)。かんたんパノラマ撮影を開始するとピントと露出は固定されます。
- パノラマ画像は複数の画像から合成して作成しているため、次のような被写体の場合は、つなぎ目が目立つなど望ましい結果が得られないことがあります。
 - 単調な色や模様が続く被写体 (空や海など)
 - 動いている被写体
 - 暗い場所
 - 短時間で色や明るさが変化する被写体 (蛍光灯やディスプレイなど)
 - 被写体とカメラの距離が近すぎる場合
- セットアップメニューの [デート写し込み設定] (□251) は使用できません。

パノラマ画像を再生する

パノラマ画像を選び、**OK** ボタンを押して再生します。パノラマ画像は画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を撮影したときと同じ方向に自動で移動（スクロール）します（ナビゲーションウィンドウで再生中の位置の目安を確認できます）。



ナビゲーション ウィンドウ 操作ガイド

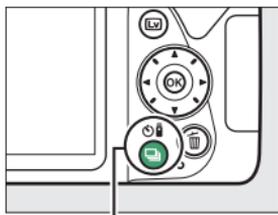
■ パノラマ再生時の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に OK ボタンを押すと、パノラマ再生を再開します。
巻き戻しする/ 早送りする		再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。
コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none">一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。◀または▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
再生を終了する		▲または▶ボタンを押すと、1コマ表示モードに戻ります。

撮影機能を使いこなす

リリースモードを選ぶ

 (📷/🔒) ボタンを押すと、シャッターをきる(リリースする)ときの動作(リリースモード)の選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲▼◀▶を押してカーソルを動かし、 ボタンを押して決定します。



 (📷/🔒) ボタン

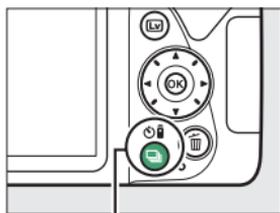


 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。	—
 連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影します。	 68
 静音撮影	1コマ撮影に比べて静かに撮影できます。	 70
 セルフタイマー	セルフタイマー撮影ができます。	 71
 2s 2秒リモコン (ML-L3)	別売のリモコンML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。	 96
 瞬時リモコン (ML-L3)	別売のリモコンML-L3の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。	 96

連続撮影で撮影する

シャッターボタンを深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連続撮影で撮影できます。

1 (📷/🔒) ボタンを押す



 (📷/🔒) ボタン

2 (連続撮影) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



3 構図を決め、ピントを合わせる



4 シャッターボタンを全押しして連続撮影する

- シャッターボタンを深く押し込んで（全押しして）、そのまま押し続けている間、連続撮影します。



✔ 連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、撮影モードを④（発光禁止オート）（□24）にするか、フラッシュモード（□89、91）を[④]（発光禁止）にしてください。
- バッテリー残量が減ると、連続撮影速度が遅くなる場合があります。撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されます。

✔ 連続撮影速度について

[□]（連続撮影）設定時の連続撮影速度については、□345ページをご覧ください。

✔ 連続撮影可能コマ数の表示

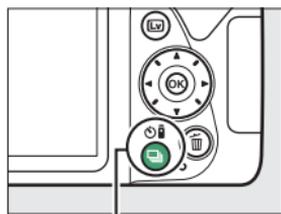
- シャッターボタンを押している間、**r**と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるおおよそのコマ数）が、ファインダー内に表示されます。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、撮影条件によって増減することがあります。[**r**00]と表示されたときは、連続撮影速度が低下します。



静音撮影する

1コマ撮影に比べて静かに撮影するため、できるだけ音を立てたくないときに便利です。ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

1 (🔇/🔇) ボタンを押す



 (🔇/🔇) ボタン

2 [OK] (静音撮影) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



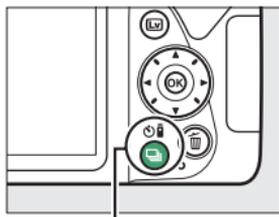
3 シャッターボタンを全押しして撮影する



セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーによる撮影は、記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 (📷/🕒) ボタンを押す



 (📷/🕒) ボタン

2 [OK] (セルフタイマー) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



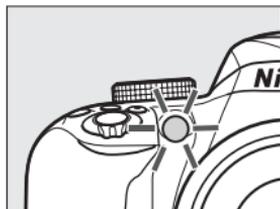
3 構図を決め、ピントを合わせる

- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



4 セルフタイマー撮影を開始する

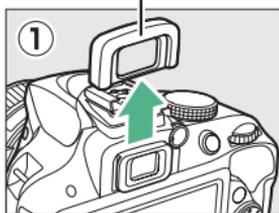
- シャッターボタンを全押しすると、約10秒後にシャッターがきれます。タイマーが作動している間は、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約2秒前になると、点滅から点灯に変わり、電子音が鳴る間隔が短くなります。



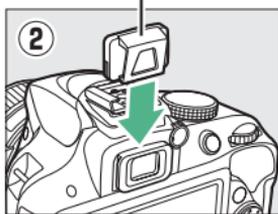
📌 ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、手などでファインダー-接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ (□309) を取り付けることをおすすめします。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し (①)、次の図のように取り付けます (②)。

接眼目当て



アイピースキャップ



📌 セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□90) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に  (🔴) ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の  (フラッシュアイコン) が点灯するまでお待ちください。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。

📌 セルフタイマー撮影の解除について

作動中のタイマーを解除するには、電源をOFFにしてください。

📌 セットアップメニュー [セルフタイマー]

セットアップメニュー [セルフタイマー] では、セルフタイマーの作動時間や連続撮影コマ数を変更できます (□243)。

ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる

ファインダーをのぞいて撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明します。

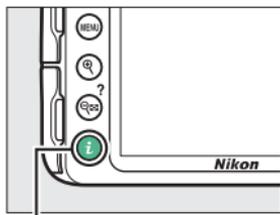
ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF-A	AFサーボモード 自動切り換え	被写体が静止しているときは [AF-S] 、動いているときは [AF-C] に自動的に切り替わります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	シングル AFサーボ ※	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-C	コンティニュアス AFサーボ ※	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
MF	マニュアル フォーカス	手動でピントを合わせます（□82）。

※撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で選べます。

1 [フォーカスモード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



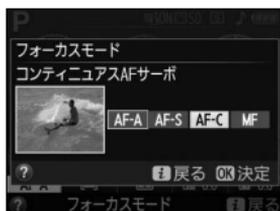
i ボタン

- マルチセレクターで
[フォーカスモード] を選んで
OK ボタンを押します。



2 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが **[AF-C]** のときや、**[AF-A]** に設定して自動的**[AF-C]** に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてくるのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

✓ [AF-C] コンティニュアスAFサーボについてのご注意

[AF-C] はシャッターチャンスを見逃さないために、[AF-S] よりもシャッターのきれるピントの範囲が広がっています。このため、ファインダー内のピント表示 (●) が点灯する前にシャッターがきれることがあります。[AF-A] に設定して自動的に [AF-C] に切り替わった場合でも、同様の動作をします。

✍ オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合っていないくても電子音が鳴ってピント表示 (●) が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス (□82) でピントを合わせるか、フォーカスロック (□80) を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服をきている人物など)



被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



フォーカスポイント内に遠くのもの と近くのものが入り混じる被写体

(オリの中の動物など)



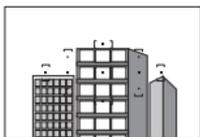
背景に対してメインの被写体が 小さい場合

(遠くの建物を背景に近く的人物を撮影する場合など)



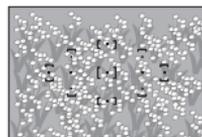
連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



絵柄が細かい場合

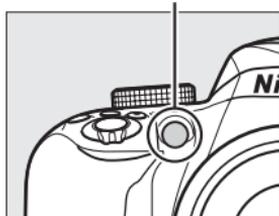
(一面の花畑など)



AF補助光について

- 被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光を自動的に照射します（撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります（□330））。
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

AF補助光ランプ



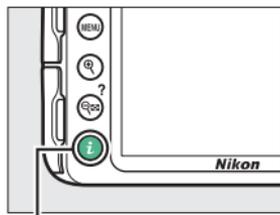
フォーカスポイントの選び方を決める (AFエリアモード)

[□] シングルポイント AF	静止している被写体の撮影に適しています。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。
[☆] ダイナミックAF*	不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。
[3D] 3D-トラッキング (11点) *	選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます。
[■] オートエリアAF	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

※フォーカスモードが [AF-S] のときは選べません。

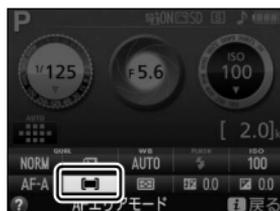
1 [AFエリアモード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [AFエリアモード] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



AFエリアモードの設定について

P、S、A、M以外の撮影モードで設定したAFエリアモードは、撮影モードを切り換えると、リセットされます。

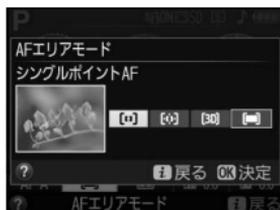
3D-トラッキング (11点) について

- **[3D]** (3D-トラッキング (11点)) では、半押ししていったんピントが合ったときに選択したフォーカスポイント周辺の色を背景の色も含めて記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていると、うまく作動しない場合があります。
- 素早い動きをする被写体などの場合、カメラが途中で被写体を見失ってしまうときがあります。その場合、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、11点のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 (オートエリアAF) 以外のAF エリアモードを選ぶ (77)



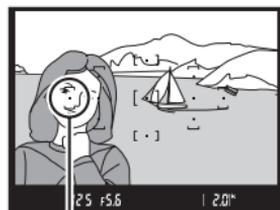
2 *i* ボタンを押して撮影画面に戻る



i ボタン

3 ファインダーをのぞきながらマルチセレクターの ▲▼◀▶ でフォーカスポイントを選ぶ

- 半押しタイマー作動中に ▲▼◀▶ を押しと、ファインダー内でフォーカスポイントが移動します。
-  ボタンを押すとフォーカスポイントは中央に移動します。
- 選んだフォーカスポイントは、インフォ画面でも確認できます。



フォーカスポイント



フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（□75）を撮影する場合には、ピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□77）を【**■**】（オートエリアAF）以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

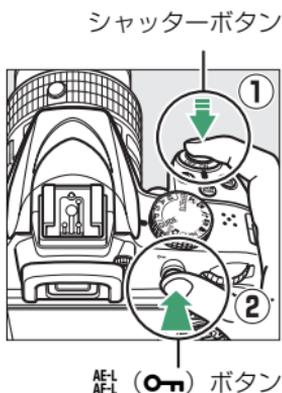
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



2 ピントを固定する

フォーカスモード（□73）が【AF-A】または【AF-C】のとき：

- シャッターボタンを半押ししたまま（①）、**AE-L/AF-L**（**○**）ボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。**AE-L/AF-L**（**○**）ボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントが固定されます（この状態をフォーカスロックといいます）。



フォーカスモード（□73）が【AF-S】のとき：

- シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。**AE-L**（**○**）ボタンでフォーカスロックを行うこともできます。

3 フォーカスロックを行った ままで構図を変え、シャッ ターボタンを全押しして撮 影する

- 被写体との距離は変えない
てください。フォーカス

ロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカ
スロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきつた後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
-  ボタンでフォーカスロックを行った場合は、 ボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AEロックについて

手順2で  ボタンを押すと、ボタンを押している間、ピントと同時に露出も固定されます。これをAEロックといいます。AEロック撮影については、「AEロック撮影」(□113)をご覧ください。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

ピントを手動で合わせたいときや、オートフォーカスが使えない場合、オートフォーカスの苦手な被写体の場合には、マニュアルフォーカスでピントを合わせられます。

1 マニュアルフォーカスを選ぶ

- レンズにA-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にします。

A-M切り換えスイッチ



フォーカスモード切り換えスイッチ



- A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのないレンズの場合は、[フォーカスモード]を[MF]（マニュアルフォーカス）に設定します（□73）。

2 ピントを合わせる

- レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体ははっきり見えるようにピントを合わせます。



■ フォーカスイドによるピント合わせ

開放F値がF5.6以上明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは11カ所から選べます。



- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□6、26）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□75）では、ピントが合っていないなくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

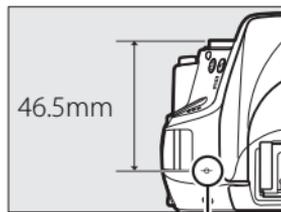
📌 カメラ側での設定

M/A（マニュアル優先オートフォーカス）またはA/M（オート優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズをお使いの場合は、フォーカスモード（□73）で **[MF]**（マニュアルフォーカス）を選んでもマニュアルフォーカスになります。レンズ側のフォーカスモードを切り換える必要はありません。



📌 距離基準マーク

距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。



距離基準マーク

画質や画像のサイズを変更する

画質モードを設定する

画像を記録するときのファイル形式と画質を設定できます。

画質モード	ファイル形式	説明
RAW	NEF	撮像素子の生データ（12bit圧縮RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	JPEG	画像データは約1/4に圧縮されます。
NORMAL		画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC		画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+FINE	NEF+JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。

1 [画質モード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [画質モード] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したい画質モードを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。



✓ 「RAW」 についてのご注意

- 現像には画像編集メニューの **「RAW現像」** (□274)、または付属のソフトウェアViewNX 2や別売のCapture NX 2 (□309) を使います。
- RAWを含む画質モードに設定すると、次の機能は使用できません。
 - **「画像サイズ」** (□86)
 - セットアップメニュー **「デート写し込み設定」** (□251)

✓ RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。

画像サイズを設定する

画像を記録するときのファイルサイズを設定できます。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ※ (出力解像度300dpiの場合)
サイズL	大 ↑ サイズ ↓ 小	6000×4000ピクセル	約50.8×33.9 cm
サイズM		4496×3000ピクセル	約38.1×25.4 cm
サイズS		2992×2000ピクセル	約25.3×16.9 cm

※ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

1 [画像サイズ] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [画像サイズ] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したい画像サイズを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



かんたんパノラマ (□) の画像サイズについて

スペシャルエフェクトモードで□ (かんたんパノラマ) を選んだ場合 (□63) は、設定できる画像サイズが異なります。

画像サイズ	画像の大きさ※1	プリント時の大きさ※2 (出力解像度300dpiの場合)
パノラマ標準	水平移動時：4800×1080ピクセル	約40.6×9.1 cm
	垂直移動時：1632×4800ピクセル	約13.8×40.6 cm
パノラマワイド	水平移動時：9600×1080ピクセル	約81.3×9.1 cm
	垂直移動時：1632×9600ピクセル	約13.8×81.3 cm

※1 カメラを縦位置で構えたときの画像サイズは、移動方向と縦と横の組み合わせが入れ替わります。

※2 ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

内蔵フラッシュを使う

内蔵フラッシュを使うと、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードの場合

撮影モード 、、、、、VI、POP、、、では、暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。

1 フラッシュモードを設定する

- ⚡ () ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。



⚡ () ボタン



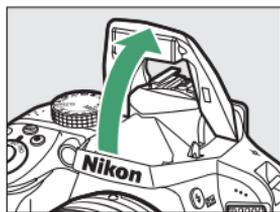
コマンドダイヤル



液晶モニター

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせながら撮影する

- 必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。フラッシュが自動的に上がらないとき、手で無理に上げないでください。内蔵フラッシュが破損するおそれがあります。



■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュが自動的に上がる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

フラッシュモード	撮影モード
⚡AUTO 通常発光オート（自動発光） ：暗いときや逆光のときに必要に応じて発光します。	AUTO、Z、S、M、A、VI、POP、P、S、L
⚡👁️AUTO 赤目軽減オート（自動発光） ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	AUTO、Z、S、M、A、VI、POP、P、S、L
🚫 発光禁止 ：内蔵フラッシュは発光しません。	AUTO、Z、S、M、A、VI、POP、P、S、L
⚡👁️AUTO SLOW 赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P
⚡AUTO SLOW 通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P

📌 フラッシュモードの設定について

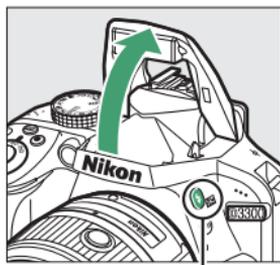
フラッシュモードは、インフォ画面でも設定できます（□9）。



内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードの場合

撮影モードP、S、A、Mでは、 () ボタンを押して、手動で内蔵フラッシュを上げます。

1 () ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる



 () ボタン

2 フラッシュモードを設定する

-  () ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。



 () ボタン



コマンドダイヤル



液晶モニター

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。

■ 設定できるフラッシュモード

内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モードで設定できるフラッシュモードは次の通りです。

フラッシュモード	撮影モード
⚡ 通常発光 ：撮影のたびに内蔵フラッシュが発光します。	P、S、A、M
⚡👁️ 赤目軽減発光 ：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。	P、S、A、M
⚡👁️ SLOW 赤目軽減発光＋スローシャッター ：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡ SLOW 通常発光＋スローシャッター ：通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡ SLOW REAR 後幕発光＋スローシャッター ：動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。後幕発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。	P、A
⚡ REAR 後幕発光 ：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。	S、M



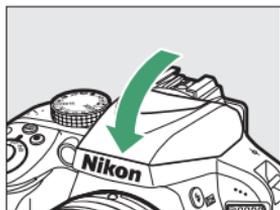
先幕発光



後幕発光

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。



内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、カメラを被写体から0.6m以上離してください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズについては□296をご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは取り外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するために、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピードは、次の範囲で制限されます。

AUTO、、、、VI、POP、、、、P、A	1/200～1/60秒
	1/200～1秒
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、Bulb、Time

- 撮影モードでVR（手ブレ補正）をONにしているとき（□360）は、シャッタースピードの低速側の制限が自動的に1/30秒まで延長されます。
- 撮影モードPまたはAでのスローシャッター時（□91）は、シャッタースピードの低速側の制限が30秒まで延長されます。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値								調光範囲（m）
100	200	400	800	1600	3200	6400	12800	
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	約1.0～8.5
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.7～6.0
2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	22	32	—	約0.6～3.0
5.6	8	11	16	22	32	—	—	約0.6～2.1
8	11	16	22	32	—	—	—	約0.6～1.5
11	16	22	32	—	—	—	—	約0.6～1.1
16	22	32	—	—	—	—	—	約0.6～0.7

※内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

ISO感度を設定する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。

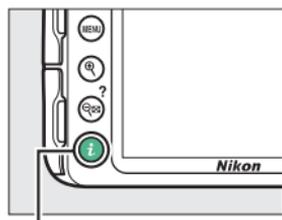
設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

AUTO、  、  、  、 	AUTO
P、S、A、M	100～12800（1段ステップで設定できます）、Hi 1
その他の撮影モード	AUTO、100～12800（1段ステップで設定できます）、Hi 1

- **[AUTO]** ではカメラが自動的に ISO 感度を決めます。撮影メニュー **[ISO感度設定]** の **[感度自動制御]** では、撮影モード **P、S、A、M** でも、ISO感度を自動制御するように設定できます（225）。
- **[Hi 1]**（ISO 25600相当）で撮影した画像には、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が特に発生しやすくなります。

1 [ISO感度] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで **[ISO感度]** を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいISO感度を 選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。

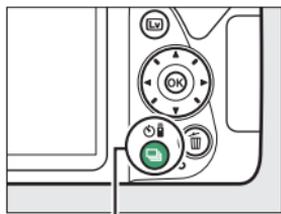


リモコン撮影する

別売のリモコンML-L3を使って撮影する

別売のリモコンML-L3 (□310) を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影することができます。記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す時の手ブレを軽減したいときなどにお使いください。リモコン撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 (📷/📷) ボタンを押す



 (📷/📷) ボタン

2 [📷 2s] (2秒リモコン (ML-L3)) または [📷] (瞬時リモコン (ML-L3)) を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



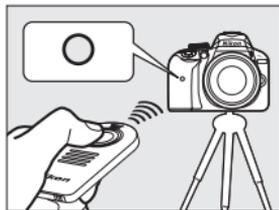
3 構図を決め、ピントを合わせる

- オートフォーカスで撮影する場合、撮影を開始する前にカメラのシャッターボタンを半押しして、ピント合わせを行ってください。



4 ML-L3の送信ボタンを押す

- 5m以内の距離から、ML-L3の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください（リモコン受光部は、カメラ前面と背面の2カ所にあります（□1、2））。



- [i 2s]（**2秒リモコン（ML-L3）**）の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- [i]（**瞬時リモコン（ML-L3）**）の場合、すぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。

リモコンの送信ボタンを押しても撮影できないときは

ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態では撮影できないことがあります。

リモコン撮影について

- 別売のリモコンML-L3を初めてお使いになるときは、リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ（□309）を取り付けることをおすすめします（□72）。
- レリーズモードが [i 2s]（**2秒リモコン（ML-L3）**）または [i]（**瞬時リモコン（ML-L3）**）のときに、カメラや別売のリモートコード、ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンを全押しすると、[S]（**1コマ撮影**）で撮影します。

リモコンモード設定（ML-L3）の解除について

次の場合、リモコンモードを解除します。

- 撮影を行わないまま、セットアップメニュー [リモコン待機時間（ML-L3）]（□244）で設定したリモコン待機時間が過ぎた場合
- カメラの電源をOFFにしたとき
- [撮影メニューのリセット] を行った場合

リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが自動で上がる撮影モード (□88) では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にML-L3の送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にML-L3の送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 内蔵フラッシュを手動で上げる撮影モード (□90) でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に  () ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の  (フラッシュアイコン) が点灯するまでお待ちください (□30)。ML-L3の送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。

セットアップメニュー [リモコン待機時間 (ML-L3)]

セットアップメニュー [リモコン待機時間 (ML-L3)] では、リモコンの受信待機時間を変更できます (□244)。

別売のワイヤレスリモートコントローラーを使って撮影する

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10、WR-T10、およびWR-1 (□310) を組み合わせて使うと、無線での遠隔撮影を行えます。ワイヤレスリモートコントローラーのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に操作して撮影できます。詳しい操作方法については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞り値のそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

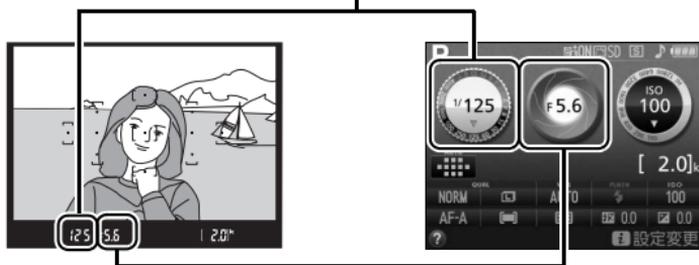


P プログラムオート (☞101)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (☞103)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (☞104)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (☞105)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出 (バルブ、タイム) 撮影も、このモードで行います。

シャッタースピードと絞り値について

シャッタースピードと絞り値は、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。

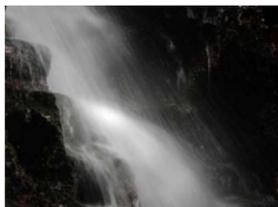
シャッタースピード



絞り値



動きの速い被写体を撮影したいときは、速いシャッタースピードに設定する
(シャッタースピード：1/1600秒)



被写体の動きを強調したいときは、遅いシャッタースピードに設定する
(シャッタースピード：1秒)



メインとなる被写体を浮き立たせたいときは、絞りを開く
(絞り値：F5.6)

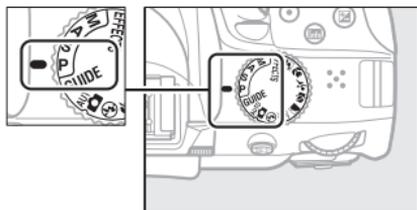


近くから遠くまでピントの合った写真を撮影するには、絞りを絞り込む
(絞り値：F22)

P：プログラムオート

シャッターチャンスを見逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。「プログラムオート」にするには、撮影モードを**P**に合わせます。

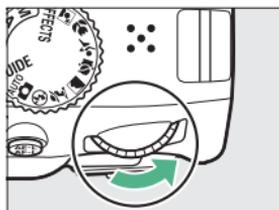
モードダイヤル



📌 プログラムシフトの操作方法

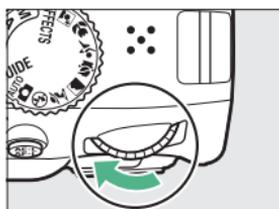
【プログラムオート】(P)では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。

動きの速い被写体を撮影したいときや、背景をぼかしたいときは、コマンドダイヤルを右に回します(シャッタースピードが速くなり、絞りが開きます)。



コマンドダイヤル

被写体の動きを強調したいときや、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したいときは、コマンドダイヤルを左に回します(シャッタースピードが遅くなり、絞りが絞り込まれます)。



- プログラムシフト中はファインダー内とインフォ画面にプログラムシフトマーク  (P) が点灯します。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク  (P) が消灯するまでコマンドダイヤルを回します。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



S: シャッター優先オート

動きを写し止めて撮影したいときや、被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。



速いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード: 1/1600秒)

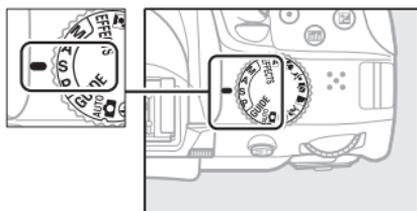


遅いシャッタースピードに
設定したとき
(シャッタースピード: 1秒)

シャッタースピードは次の方法で設定します。

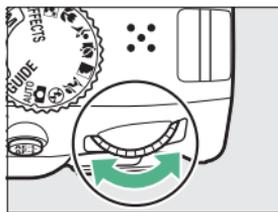
1 モードダイヤルをSに合わせる

モードダイヤル



2 シャッタースピードを設定する

- コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。



コマンドダイヤル



A：絞り優先オート

背景をぼかしてメインとなる被写体を浮き立たせたい場合や、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい場合に適しています。絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。



絞りを開いたとき
(絞り値：F5.6)

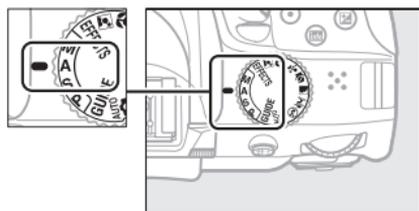


絞りを絞り込んだとき
(絞り値：F22)

絞り値は次の方法で設定します。

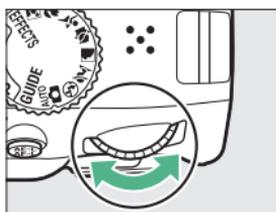
1 モードダイヤルをAに合わせる

モードダイヤル



2 絞り値を設定する

- コマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなります）。



コマンドダイヤル

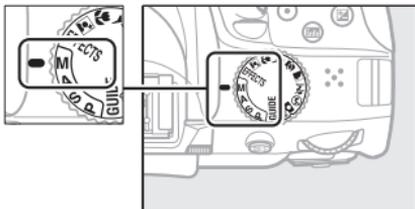


M: マニュアル

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ、タイム）撮影（□107）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

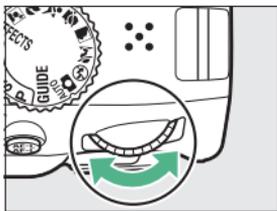
合わせる



2 露出インジケータ（□106）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

• シャッタースピードの設定：

コマンドダイヤルを右に回すとシャッタースピードが速くなり、左に回すとシャッタースピードが遅くなります。

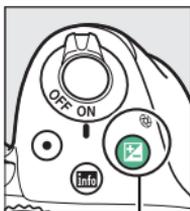


コマンドダイヤル



• 絞り値の設定：

☒ (⊗) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを左に回すと絞りが開き（絞り値が小さくなり）、右に回すと絞りが絞り込まれ（絞り値が大きくなり）ます。



☒ (⊗) ボタン コマンドダイヤル

☑ 露出インジケータの見方

適正露出	1/3段アンダー	2段以上オーバー
- . 0 . + 	- . 0 . + 	- . 0 . + ▬▬▬▬▬▬▶

• 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時（□107）と非CPUレンズ使用時（□298）は、露出インジケータは表示されません。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。

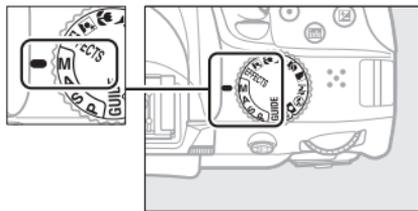


シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

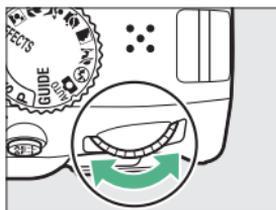
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 <ul style="list-style-type: none">リモコンML-L3（別売）の送信ボタンを押すと、シャッタースピードをBulbにしても、タイム撮影します。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

■バルブ撮影する

- 1** モードダイヤルをMに合わせ
モードダイヤル
せる



- 2** コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをBulbに
設定する



コマンドダイヤル



- 3** ピントを合わせて、撮影を開始する

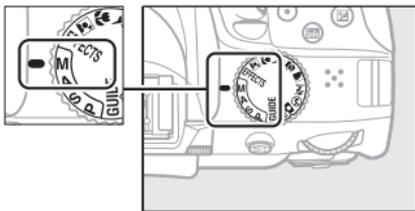
- シャッターボタンを全押しして撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

- 4** 撮影を終了する

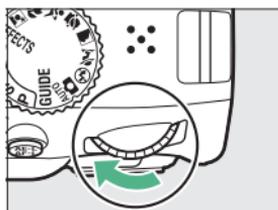
- シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

■ タイム撮影する

- 1 モードダイヤルをMに合わせる モードダイヤル
せる



- 2 コマンドダイヤルを左に回して、シャッタースピードを
Time (ファインダー内表示は - -) に設定する



コマンドダイヤル



- 3 ピントを合わせて、撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、撮影を開始します。

- 4 もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

- シャッターが開いてからボタンを押さないまま30分経つと、シャッターが自動的に閉じて撮影を終了します。

 別売のリモコンML-L3をお使いの場合

撮影前にレリーズモードをリモコンモード ([i] 2s) (2秒リモコン (ML-L3)) または [i] (瞬時リモコン (ML-L3)) に設定してください (□96)。

長時間露出撮影を開始する前に

- 手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコン、ワイヤレスリモートコントローラーまたは、リモートコードが必要です (□□310)。ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードのシャッターボタンは、カメラのシャッターボタンと同様に機能します。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ (ざらつき、むら、輝点) が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの [ノイズ低減] (□□224) を [する] にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ (□□309) を取り付けることをおすすめします (□□72)。

被写体の露出（明るさ）を設定する

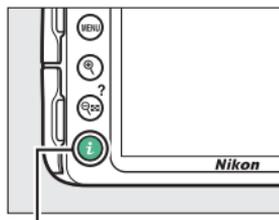
明るさを測る方法を設定する（測光モード）

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。

 マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点測光	画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。画面の中央部分を重点的に測光します。 <ul style="list-style-type: none">露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。
 スポット測光	逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。選んだフォーカスポイントに重なる部分だけを測光します。

1 [測光モード] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。
- マルチセレクターで [測光モード] を選んで **OK** ボタンを押します。



i ボタン



2 設定したい測光モードを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



スポット測光について

測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、ファインダー撮影時の **[AFエリアモード]** (□□77) が **[■]** (オートエリアAF) のときは、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

AEロック撮影

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。測光モードは [□] (スポット測光) または [⊙] (中央部重点測光) に設定してください (□111)。撮影モード  と  では、AEロックできません。

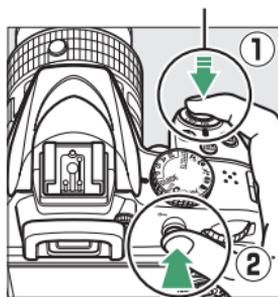
1 シャッターボタンを半押しする



2 露出を固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま (①)、 ボタンを押すと (②)、露出が固定されます。 ボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、露出が固定されます (この状態をAEロックといいます)。

シャッターボタン



 ボタン

-  ボタンを押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。



3 AEロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する



AEロック中のカメラ操作について

- AEロックしている間もコマンドダイヤルで次の操作ができます。

撮影モード	操作
P (プログラムオート)	プログラムシフト (□102)
S (シャッター優先オート)	シャッタースピードの変更
A (絞り優先オート)	絞り値の変更

- AEロック中は、測光モードは変更できません。

画像の明るさを調整する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います（□346）。露出補正を行うときは、測光モード（□111）を [⊙]（中央部重点測光）または [□]（スポット測光）にすると効果的です。



-1段補正



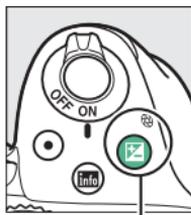
露出補正なし



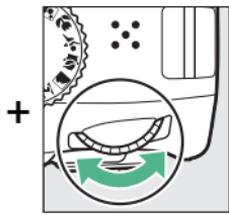
+1段補正

露出補正值を変える

- ☒ (⊗) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面の露出補正值が変わります。



☒ (⊗) ボタン



コマンドダイヤル



インフォ画面



-0.3段補正



+2段補正

- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正します。

露出補正の設定について

露出補正は、インフォ画面でも設定できます(□9)。



露出補正の解除について

露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

撮影モードMで露出補正をした場合

露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケータの基準値が変わります。

撮影モードPまたはAで露出補正をした場合

撮影モードPまたはAでも露出補正ができます。PまたはAで露出補正を行った場合、撮影モードを切り換えると、露出補正値の設定は解除されます。

フラッシュ使用時の露出補正

フラッシュ使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とフラッシュの発光量の両方に補正が行われます。

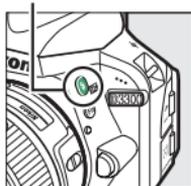
フラッシュの発光量を調整する（フラッシュ調光補正）

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、被写体の明るさを調整したいときなどに使います（□347）。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強くなりすぎないようにできます。

調光補正值を変える

- ⚡（) ボタンと （) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面の調光補正值が変わります。

⚡（) ボタン



+



コマンドダイヤル



インフォ画面

（) ボタン



-0.3段補正



+1段補正

- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正します。

調光補正の設定について

調光補正は、インフォ画面でも設定できます(□9)。



調光補正の解除について

調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

別売スピードライト使用時の調光補正

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト(□301)使用時も、調光補正を行うことができます。
- カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティング

アクティブD-ライティングを使うと、暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の大きい景色を撮影するのに効果的です。ハイライト部（明るい部分）の白とびを抑え、シャドウ部（暗い部分）の黒つぶれを軽減する効果があるため、目で見たコントラストに近い画像に仕上がります。アクティブD-ライティングを設定したときは、**M**以外の撮影モードで測光モードを [☒]（マルチパターン測光）に設定して撮影することをおすすめします（☞111）。



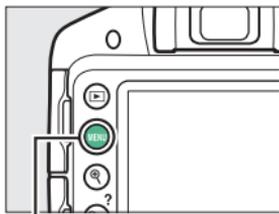
アクティブD-ライティング
[しない]



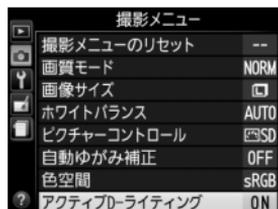
アクティブD-ライティング
[する]

1 撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

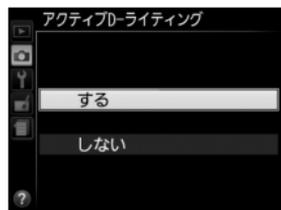


MENU ボタン



2 [する] を選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。



✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度がHi 1の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。

✍ 【アクティブD-ライティング】と画像編集メニュー【D-ライティング】の違い

撮影前に【アクティブD-ライティング】を設定すると、撮影シーンに応じてハイライト部やシャドウ部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、【D-ライティング】は、撮影した画像に対してシャドウ部を明るく補正します。

ホワイトバランスを合わせる

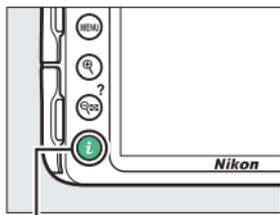
光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

通常は、初期設定の**AUTO**（オート）で撮影してください。撮影した画像の色味を変えたいときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

AUTO オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。ほとんどの撮影状況に適しています。
 電球	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	蛍光灯などの光源（□123）を使った撮影に適しています。
 晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
 晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
PRE プリセット マニュアル	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（□126）。

1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [ホワイトバランス] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- **OK** ボタンを押して設定します。



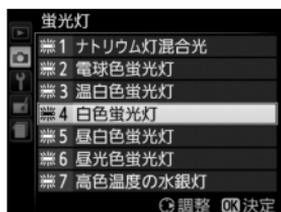
撮影メニュー [ホワイトバランス]

ホワイトバランスは、メニュー操作でも設定できます (□219)。撮影メニューで [ホワイトバランス] を選ぶと、ホワイトバランスを微調整したり (□124)、ホワイトバランスを自分で取得する (□126) ことができます。



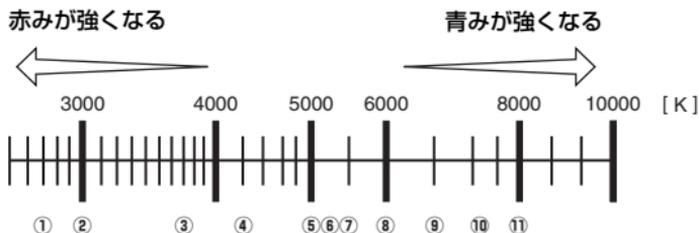
蛍光灯の種類について

撮影メニュー（□219）の「ホワイトバランス」で「 蛍光灯」を選ぶと、細かく蛍光灯の種類を設定できます。



色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



①  ナトリウム灯混合光
（約2700K）

②  電球（約3000K）
③  電球色蛍光灯（約3000K）

④  温白色蛍光灯（約3700K）

⑤  白色蛍光灯（約4200K）

⑥  昼白色蛍光灯（約5000K）

⑦  晴天（約5200K）

⑧  フラッシュ（約5400K）

⑨  曇天（約6000K）

⑩  昼光色蛍光灯（約6500K）

⑪  高色温度の水銀灯
（約7200K）

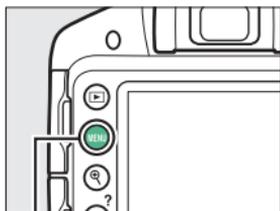
⑫  晴天日陰（約8000K）

ホワイトバランスを微調整する

撮影メニューの「ホワイトバランス」では、選んだホワイトバランスをさらに微調整することができます。

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの「ホワイトバランス」を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENU ボタン

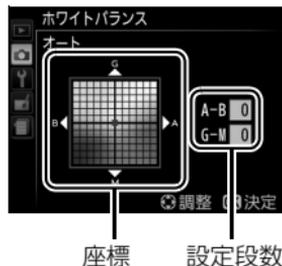


- 微調整したいホワイトバランスを選んで▶を押します。[ 蛍光灯] の場合は、蛍光灯の種類を選んでから、▶を押します (□123)。



2 微調整値を設定する

- ▲▼◀▶を押して、座標上のカーソルを動かします。
- A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。



3 決定する

- **OK** ボタンを押して決定します。

✔ ホワイトバランスの微調整について

- [PREプリセットマニュアル] の場合、微調整画面は表示されません。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを [電球]（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

プリセットマニュアルを使う

特殊な照明の下で撮影するときなど、[AUTO]（オート）や [●]（電球）などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得したホワイトバランスを使うことができます。

プリセットマニュアルデータは次の方法で取得できます。

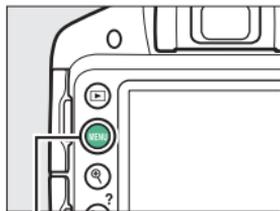
取得データ	カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとして使います（下記参照）。
撮影データ	SDカード内の画像のホワイトバランスデータをプリセットマニュアルデータとして使います（□130）。撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影できます。

■ プリセットマニュアルデータをカメラで取得する

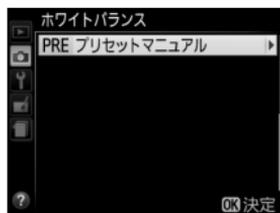
1 撮影時に使う照明と、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意する

2 [PREプリセットマニュアル] を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの [ホワイトバランス] で [PREプリセットマニュアル] を選んでマルチセクターの▶を押します。

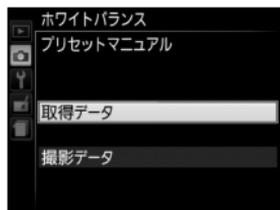


MENUボタン



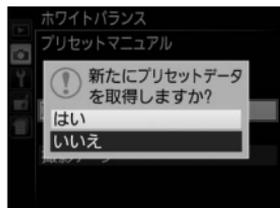
3 [取得データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で [取得データ] を選んで▶を押します。

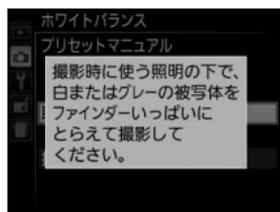


4 [はい] を選ぶ

- [はい] を選んでⓀボタンを押します。



- プリセットマニュアルデータ取得モードに入ります。



- インフォ画面とファインダー内でPRE (P、r、E) が点滅します。



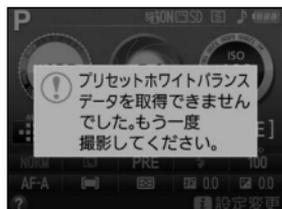
5 PRE (PRE) の点滅中に、撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを全押しする



- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

6 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- データが取得されると、インフォ画面に「取得に成功しました」と表示されます。また、ファインダー内のシャッタースピード表示部に **∞d** の文字が点滅します。
- 約8秒間点滅後、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。
- インフォ画面に右のように表示された場合（ファインダー内のシャッタースピード表示部/絞り値表示部に **no ∞d** の文字が点滅表示された場合）、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎるのが考えられます。もう一度手順5からやり直してください。



✓ データ取得についてのご注意

- プリセットマニュアルデータとして保存できる [取得データ] は1つだけです。カメラでプリセットマニュアルデータを取得するたびに、以前保存した [取得データ] は、新しいデータに置き換えられます。
- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にしてプリセットマニュアルデータを取得してください。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードがMの場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□105）。

✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままセットアップメニュー [パワーオフ時間]（□242）の [半押しタイマー] で設定した時間（初期設定では8秒）が過ぎると解除されます。

✎ プリセットマニュアルデータのその他の取得方法

プリセットマニュアルデータは、メニュー操作で取得する他に次の方法で取得できます。

- □122に記載されている方法で [ホワイトバランス] を [PRE]（プリセットマニュアル）にしてから、**OK** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□127）になります。
- セットアップメニュー [ボタン動作のオプション] の [Fnボタンの機能]（□248）が [ホワイトバランス設定] になっているときに、[ホワイトバランス] を [PRE]（プリセットマニュアル）にしてから **Fn** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□127）になります。

■ SDカード内の画像のホワイトバランスデータを使う

ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からコピーすることもできます。

1 [PREプリセットマニュアル] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの [ホワイトバランス] で [PREプリセットマニュアル] を選んでマルチセクターの▶を押します。

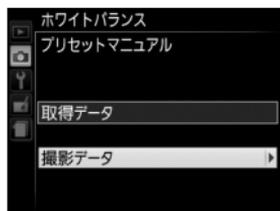


MENU ボタン



2 [撮影データ] を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で [撮影データ] を選んで▶を押します。



3 [データを選択] を選ぶ

- [データを選択] を選んで▶を押します。
- [表示画像で設定] を選ぶと、前回設定した表示中の画像のホワイトバランスデータがそのまま使えます。



4 使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

- 使いたい画像が保存されているフォルダーを選んで▶を押します。



5 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選んだ画像は、🔍ボタンを押している間、拡大して確認できます。



6 ホワイトバランスデータをコピーする

- OKボタンを押してデータをコピーします。



画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、輪郭強調、コントラスト、明るさ、色の濃さ（彩度）、色合い（色相）などの画像調整の設定を、対応するカメラやソフトウェアで相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

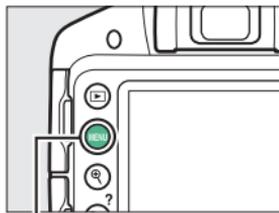
ピクチャーコントロールを選ぶ

被写体や撮影シーンに合わせて、次のピクチャーコントロールから選びます。

SD スタANDARD	ほとんどの撮影状況に適しています。鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。
NL ニュートラル	撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。素材性を重視した自然な画像になります。
VI ビビッド	青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT ポートレート	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 撮影メニューの [ピクチャーコントロール] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの [ピクチャーコントロール] を選んでマルチセレクターの ▶ を押します。

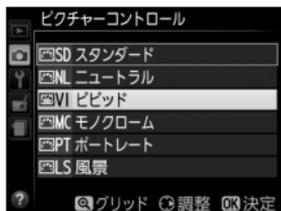


MENU ボタン



2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。

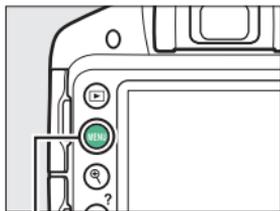


ピクチャーコントロールを調整する

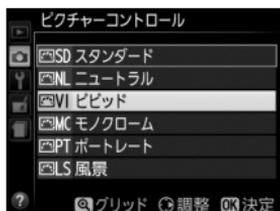
ピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの「ピクチャーコントロール」を選んでマルチセレクターの▶を押します。
- 調整したいピクチャーコントロールを選んで▶を押します。



MENUボタン



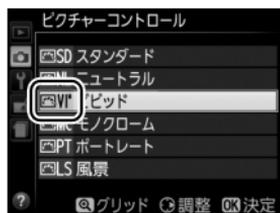
2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（□136）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- 「クイック調整」を選べると、各項目のレベルを自動的に調整します（□136）。
- 冂ボタンを押すと初期設定の内容に戻せます。



3 決定する

- **OK** ボタンを押して決定します。
- ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンにアスタリスク（*）が表示されます。



■■ ピクチャーコントロール調整時の設定項目



クイック調整※1	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。	
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※2	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※2	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□137）。
調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□138）。	

※1 [ニュートラル] と [モノクローム] はクイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

※2 [モノクローム] のときは、表示されません。

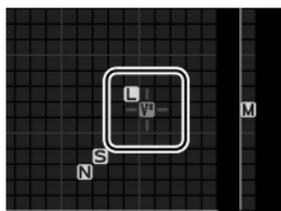
※3 [モノクローム] のときのみ表示されます。

✓ [輪郭強調]、[コントラスト]、[色の濃さ (彩度)] の [A] (オート) についてのご注意

同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが具合は変化します。

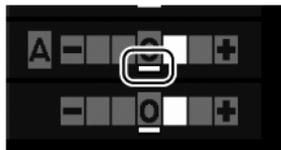
✓ ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に **Q** ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示されます。
- [モノクローム] の場合、彩度のグリッド表示は表示されません。
- [コントラスト] または [色の濃さ (彩度)] に [A] (オート) が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時にアイコンが緑色になり、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。



✓ ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。



✓ [モノクローム] の [フィルター効果] について

[フィルター効果] には、次のような効果があります。

Y (黄※)	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[Y] → [O] → [R] の順にコントラストが強くなります。
O (オレンジ※)	
R (赤※)	
G (緑※)	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。[フィルター効果] で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

【モノクローム】の【調色】について

- 調色は **[B&W]**、**[Sepia]**、**[Cyanotype]**、**[Red]**、**[Yellow]**、**[Green]**、**[Blue Green]**、**[Blue]**、**[Purple Blue]**、**[Red Purple]** から選べます。
- **[調色]** の項目（**[B&W]** 以外）を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を選べます。◀または▶を押して選んでください。



ライブビュー撮影 (液晶モニターを見ながら撮影する)

ライブビュー撮影する

1 Lvボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lvボタン

2 フォกัสポイントを被写体に 重ねる

- フォーカスポイントの形状は [AFエリアモード] によって異なります (□143)。



フォーカスポイント

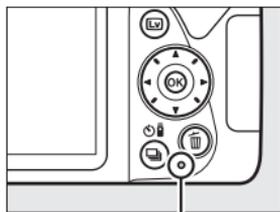
3 シャッターボタンを半押しして、 ピントを合わせる

- 半押し時のフォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。
- AF-ON と AE-L/AF-ON 以外の撮影モードでは、 AF-ON (O) ボタンを押し続けている間、露出を固定 (AEロック) できます。



4 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。SDカードやバッテリーを取り出さないでください。
- 撮影後は、撮影した画像が液晶モニターに数秒間表示されます。
- ライブビューを終了する場合は、**[Lv]**ボタンを押します。



SDカード
アクセスランプ

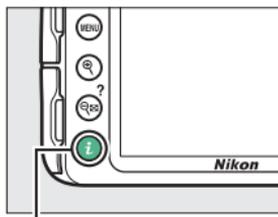
ライブビュー撮影時のピントの合わせ方を 選ぶ（フォーカスモード）

AF-S シングルAF サーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AFサーボ※	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
MF マニュアル フォーカス	手でピントを合わせます（□150）。

※撮影モードがP、S、L、Mのときは、選べません。

1 [フォーカスモード] を選ぶ

- ライブビュー表示中に*i*ボタンを押します。



*i*ボタン

- マルチセレクターで
[フォーカスモード] を選んで
OKボタンを押します。



2 設定したいフォーカス モードを選ぶ

- OKボタンを押して決定します。



ライブビュー撮影時のフォーカスポイントの 選び方を決める (AFエリアモード)

ライブビュー撮影時に、ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選ぶかを設定します。撮影モード 、、 の場合は設定できません。

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。
 ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは任意の位置に移動できます。
 ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット追尾AF*	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。

*撮影モードが , , , ,  のときは、選べません。

1 [AFエリアモード] を選ぶ

- ライブビュー表示中に **i** ボタンを押します。



i ボタン

- マルチセレクターで [AFエリアモード] を選んで **OK** ボタンを押します。



2 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- OK** ボタンを押して決定します。



3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- **[AFエリアモード]** が **[顔認識AF]**
(□142) の場合は、カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターの▲▼◀▶を押して二重枠を移動して、他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。



フォーカスポイント

- **[ワイドエリアAF]** または **[ノーマルエリアAF]**
(□142) の場合は、▲▼◀▶を押してフォーカスポイントをピントを合わせる被写体の位置に移動させます。OKボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。



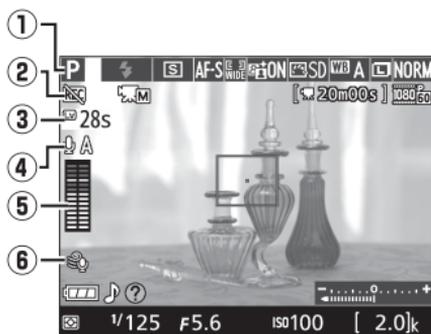
フォーカスポイント

- **[ターゲット追尾AF]**
(□142) の場合は、フォーカスポイントを被写体に重ねてOKボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度OKボタンを押すと、追尾を終了します。

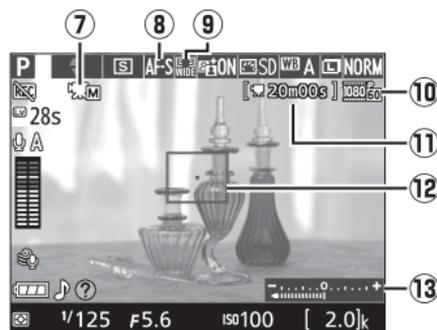


フォーカスポイント

■ ライブビュー撮影中の情報表示（説明のため、全ての表示を点灯させています）



① 撮影モード	モードダイヤルで選択中の撮影モードを表示します。	☐24、46、49、99
② 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のときに表示します。	—
③ ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	☐148
④ マイク感度設定	動画撮影時のマイク感度を表示します。	☐156
⑤ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。別売のステレオマイクロホン（☐310）または市販のステレオマイクロホンを接続している場合、インジケータの下にLとRが表示されます。	☐156
⑥ 風切り音低減	撮影メニュー [動画の設定] の [風切り音低減] が [する] の場合に表示します。	☐157

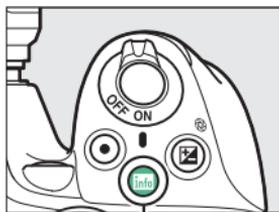


⑦ 動画の マニュアル設定	撮影モードがMで、撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] が [する] のときに表示されます。	☞ 157
⑧ フォーカス モード	ライブビュー撮影時のフォーカスモードを表示します。	☞ 141
⑨ AFエリア モード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	☞ 142
⑩ 動画の 画像サイズ	動画を記録するときの画像サイズを表示します。	☞ 156
⑪ 動画記録残り 時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	☞ 152
⑫ フォーカス ポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード(☞142)により異なります。	☞ 143
⑬ 露出 インジケーター	自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます(撮影モードがMの場合のみ)。	☞ 106

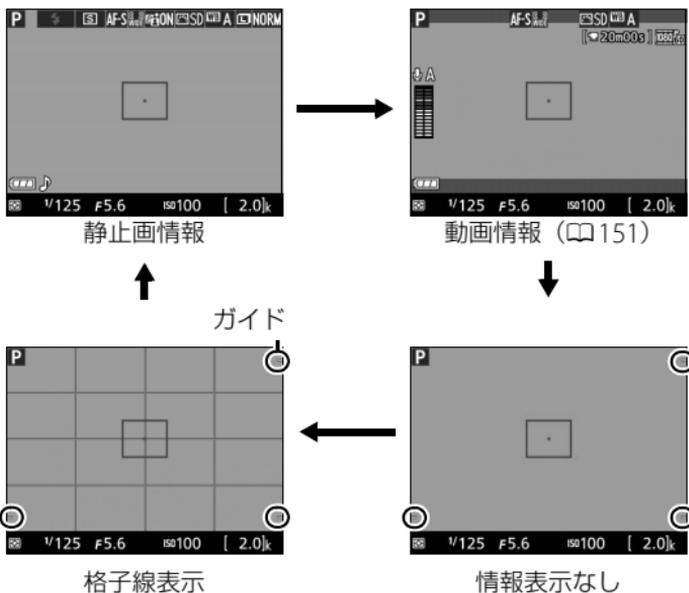
📌 ライブビュー表示中の情報表示について

☐以外の撮影モードでは、ライブビュー表示中に **info** ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

- 「情報表示なし」と「格子線表示」時は、動画が記録される範囲を示すガイドが表示されます。「動画情報」時には、記録されない部分が薄暗く表示されます。撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] で、解像度が640×424ピクセルの場合 (☐156)、ガイドは表示されません。

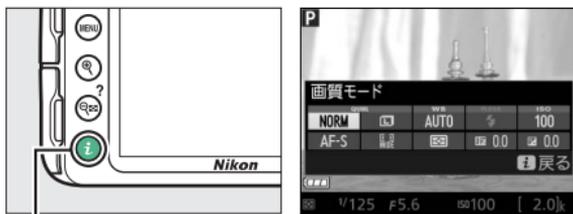


info ボタン



静止画撮影に関する設定の変更について

ライブビュー表示中に **i** ボタンを押すと、次の静止画撮影に関する設定を変更できます（情報表示が「動画情報」の場合は、動画撮影に関する設定を変更できません（□153））。



i ボタン

- 画質モード（□84）
- 画像サイズ（□86）
- ホワイトバランス（□121）
- フラッシュモード（□89、91）
- ISO感度（□94）
- フォーカスモード（□141）
- AFエリアモード（□142）
- 測光モード（□111）
- フラッシュ調光補正（□117）
- 露出補正（□115）

ライブビュー撮影時の露出について

- ファインダー撮影時とライブビュー撮影時では、シーンによっては、露出が異なる場合があります。ライブビュー撮影時は、ライブビュー表示に適した測光を行うため、液晶モニターに表示された明るさに近い露出で撮影されます。
- 露出補正を行った場合、画面で露出を確認できるのは±3段の範囲に限られます。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に手などでファインダー接眼部をおおうか、別売のアイピースキャップ（□309）を取り付けることをおすすめします（□72）。

✔ ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー表示中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
 - 輝点が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの【フリッカー低減】(□238) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 次のような場合は、ライブビュー撮影を終了します。
 - モードダイヤルを**GUIDE**に変更した場合
 - モードダイヤルを**GUIDE**から他のモードへ変更した場合
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外には、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後などカメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

✔ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します (□144)。

- セットアップメニュー【パワーオフ時間】(□242) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

✔ ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスよりピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- **[ターゲット追尾AF]** で次のような被写体を撮影する場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。
 - 色、明るさが背景と似ている場合
 - 大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
 - 大きすぎる/小さすぎる/明るすぎる/暗すぎる場合
 - 動きが速すぎる場合
 - 隠れたり、画面から外れた場合
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。

✔ HDMI接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- HDMI-CEC対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの **[HDMI]** の **[機器制御]** を **[しない]** に設定してください（□214）。

📌 マニュアルフォーカスで撮影するときのピント合わせについて

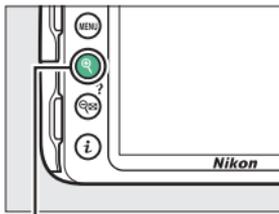
マニュアルフォーカス (M82) で撮影するときは、次の方法で被写体にピントを合わせます。

- レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。



- **Q** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントの状態を細部まで確認できます (最大約8.3倍)。

- **Q** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**Q** (?) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。



Q ボタン

- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ (グレーの枠) が表示されます。

- ライブビュー / 動画撮影時の **[AF エリアモード]** が **[ワイドエリアAF]** または **[ノーマルエリアAF]** の場合、拡大表示中にマルチセレクターの **▲▼◀▶** で画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。



ナビゲーション
ウィンドウ

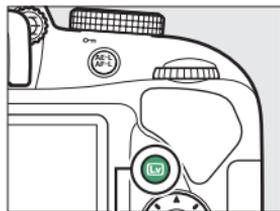
動画の撮影と再生

動画を撮影する

ライブビューにすると、動画を撮影できます。

1 **Lv** ボタンを押す

- 液晶モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

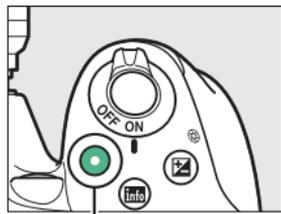
2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、「ライブビュー撮影する」の手順2～3（□139）と同じ手順で被写体にピントを合わせます（ピントの合わせ方については、□141～143をご覧ください）。



3 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

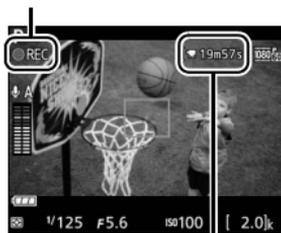
- **AUTO**と \odot 以外の撮影モードでは、**AE-L/AF-ON**（ \odot ）ボタンを押し続けている間、露出を固定（AEロック）できます（□113）。



動画撮影ボタン

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、 \square の場合、 \square （ \odot ）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段ステップで±3段の範囲で露出補正ができます（□115）。
- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。

録画中マーク



残り時間

4 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

AV機器（HDMI対応機器含む）との接続時の撮影について

- HDMI 対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- HDMI-CEC 対応機器との接続時にライブビュー撮影を行うには、セットアップメニューの **[HDMI]** の **[機器制御]** を **[しない]** に設定してください（□214）。

別売ステレオマイクロホンについて

別売ステレオマイクロホンを外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます（□310）。また、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの振動ノイズが録音されるのを低減できます。

動画撮影中の静止画撮影について

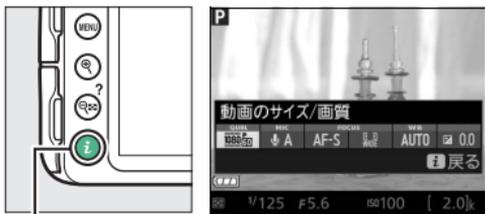
動画撮影中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しすると、動画撮影を終了して静止画撮影し、ライブビュー表示に戻ります。

動画記録範囲について

ライブビュー表示中に動画が記録される範囲を示すガイドを表示するには、**info** ボタンを押して情報表示を「動画情報」、「情報表示なし」または「格子線表示」に切り換えます (□146)。ただし、撮影メニュー [動画の設定] の [画像サイズ/フレームレート] で、解像度が640×424ピクセルの場合 (□156) は、ガイドは表示されません。

動画撮影に関する設定の変更について

ライブビュー表示中に **info** ボタンを押して情報表示を「動画情報」に切り換えてから **i** ボタンを押すと、次の動画撮影に関する設定を変更できます。



i ボタン

- 動画のサイズ/画質 (□156)
- 録音設定 (□156)
- フォーカスモード (□141)
- **AFエリアモード** (□142)
- **ホワイトバランス** (□121)
- **露出補正** (□115) ※

※ 撮影モードMで、撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] (□157) が [する] の場合は、[露出補正] の代わりに [ISO感度] (□94) を設定できます。

動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります (□311)。
- 動画撮影時は、[AFエリアモード] が [顔認識AF] の場合に認識できる人数が少なくなります。
- 動画撮影時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト (□301) は発光しません。
-  (動画記録禁止) マーク (□144) が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影時の測光モードは [☉] (マルチパターン測光) に固定され、カメラがシャッタースピードやISO感度を決めます ([動画のマニュアル設定] が [する] のときに撮影モードをMにすると、自分で設定したシャッタースピードとISO感度で動画撮影できます (□157))。
- 撮影モードがAまたはMの場合は、ライブビューを開始する前に絞り値を設定します (□104、105)。
- 被写体の明るさによっては、露出補正の効果が反映されないことがあります。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します (□144)。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

✔ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□238)
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達した場合 (□156)
 - SDカードの残量がなくなった場合
 - モードダイヤルを回した場合
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、カメラは自動的に動画撮影を終了することがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後などカメラが熱くなってライブビューまたは動画撮影を開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューおよび動画撮影を一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- マイク (□2) を指などでふさがないようにしてください。音声記録できない場合があります。
- 次の場合は、レンズの動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）をONにした場合

動画の設定

■■ 画像サイズ/フレームレート、動画の画質

[画像サイズ/フレームレート] では、動画を記録するときの画像サイズ(ピクセル) / フレームレートを設定します。[動画の画質] では、動画の画質を高画質と標準から選べます。

	画像サイズ/フレームレート		最長記録時間 ([動画の画質] ※3の設定 : ★高画質/標準) ※4
	解像度 (ピクセル)	フレーム レート※1,2	
	1920 × 1080	60p	10分/20分
	1920 × 1080	50p	
	1920 × 1080	30p	
	1920 × 1080	25p	20分/ 29分59秒
	1920 × 1080	24p	
	1280 × 720	60p	
	1280 × 720	50p	
	640 × 424	30p	29分59秒/ 29分59秒
	640 × 424	25p	

※1 60p : 59.94コマ/秒 (fps)、50p : 50コマ/秒、30p : 29.97コマ/秒、
25p : 25コマ/秒、24p : 23.976コマ/秒

※2 60p/30p は、セットアップメニューの [ビデオ出力] (□258) が [NTSC] の場合に選べます。50p/25pは、[ビデオ出力] が [PAL] の場合に選べます。

※3 [動画の画質] が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

※4  の場合、最長記録時間は3分です。

■■ 録音設定

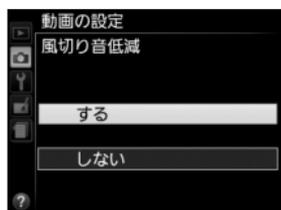
内蔵マイクまたは別売のステレオマイクrohホン (□310) の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。

■■ 風切り音低減

[する] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

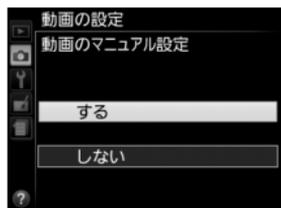
- 別売のステレオマイクロホン (□310) をお使いの場合は、カメラ側で [風切り音低減] で [する] を選んでも風切り音は低減されません。ステレオマイクロホン側で設定してください。



■■ 動画のマニュアル設定 (撮影モードMのみ)

[する] を選ぶと、撮影モードがMの場合に、動画撮影時のシャッタースピードとISO感度を変更できます。

- シャッタースピードおよびISO感度は、動画のフレームレート (□156) によって次の範囲に制限されます。ライブビュー開始前の数値が次の範囲でない場合、ライブビュー開始後に自動的に次の範囲内に設定が変更されます。変更後の数値は、ライブビューを終了しても保持されます。



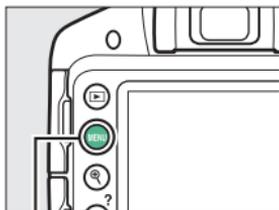
フレームレート	シャッタースピード	ISO感度
24p、25p、30p	1/4000～1/30秒	100～12800、Hi 1
50p	1/4000～1/50秒	
60p	1/4000～1/60秒	

- 撮影メニューの [ISO感度設定] で [感度自動制御] (□225) を [する] に設定しても、自動制御は動作しません。

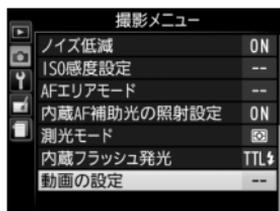
■ 動画の設定を変更する

1 [動画の設定] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、撮影メニューの [動画の設定] を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENU ボタン



2 動画の設定項目を選ぶ

- 動画の設定項目を選んで▶を押します。



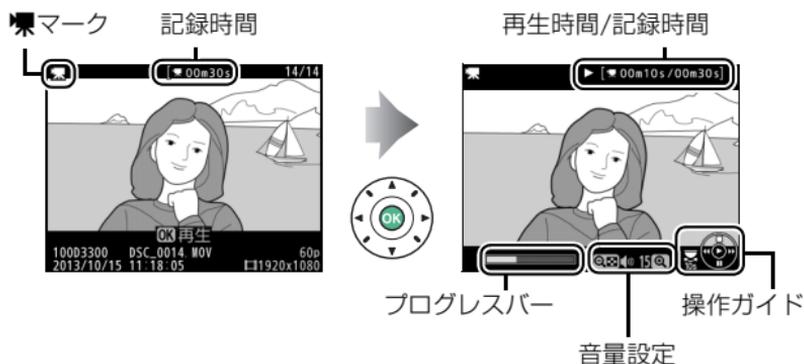
3 設定したい内容を選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。



動画を再生する

1コマ表示モード (□166) で **▶**マークが表示されている画像が動画です。OK ボタンを押して動画を再生します (プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます)。



■ 動画再生時の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中にOKボタンを押すと、動画再生を再開します。
巻き戻しする/ 早送りする		<ul style="list-style-type: none"> 再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 ◀を押し続けると、最初のコマに移動し、▶を押し続けると、最後のコマに移動します。 先頭フレームには⏮アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。
コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none"> 一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 ◀または▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。

10秒進める/ 10秒戻す		コマンドダイヤルを回すと、10秒前または後ろに移動します。
音量を調節する		🔊 ボタンを押すと音量が大きくなり、🔇 (?) ボタンを押すと小さくなります。
再生を終了する		▲または▶ボタンを押すと、1コマ表示モードに戻ります。

動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 1コマ表示モード (📖 166) で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

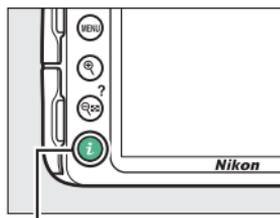
- **OK** ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。



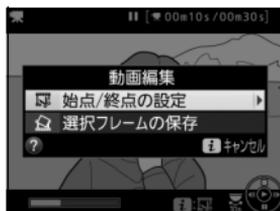
プログレスバー

3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで▶を押します。

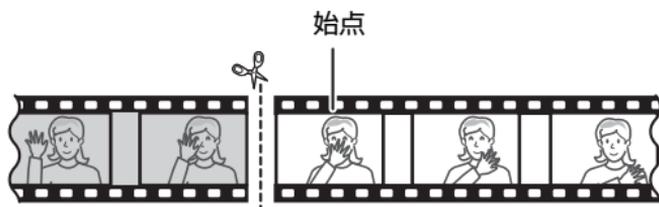
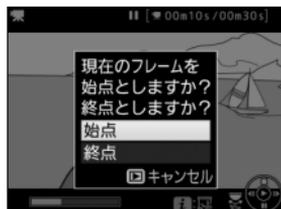


i ボタン



4 始点または終点を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



- [終点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ終点より前の部分が残ります。



5 切り取りたい位置を調整する

- ◀または▶を押して、切り取りたい位置を調整します。
- コマンドダイヤルを回すと、10秒前または後ろに移動します。

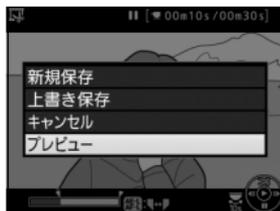


6 ▲を押して決定する



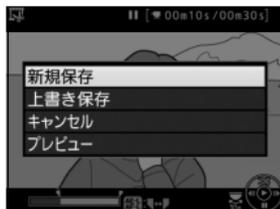
7 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んで **OK** ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには **▲** を押します）。
- [キャンセル] を選んで **OK** ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



8 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



9 動画ファイルを保存する

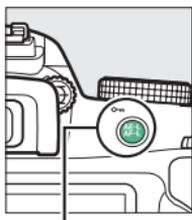
- **OK** ボタンを押して決定します。

✓ 動画編集時のご注意

- SDカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✓ 動画の前後を切り取るには

手順5の画面で、**AE-L (On)** ボタンを押すと、**◀** (始点) または **▶** (終点) を切り換えられ、一度の操作で動画の前後を切り取ることができます。



AE-L (On) ボタン



動画の1フレームをJPEG画像として保存する

1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。

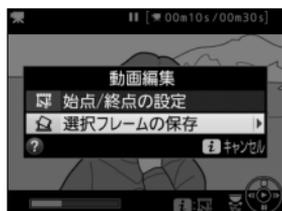


2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- **i** ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで▶を押します。



i ボタン



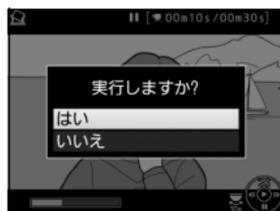
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで▲を押します。



4 JPEG画像を保存する

- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



【選択フレームの保存】で作成した画像について

- 画質モード **[FINE]** (□84) のJPEG画像を作成します。
- 動画から作成したJPEG画像に対して、画像編集することはできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

画像の再生と削除

画像を1コマずつ再生する (1コマ表示モード)

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。



▶ボタン

■ 1コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る		マルチセクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え		画像情報の切り換えができます (□168)。
複数画像を一覧表示する	 	サムネイル表示モード (□176) に切り替わります。
画像を拡大する		表示中の画像を拡大表示します (□179)。
画像を削除する		表示中の画像を削除します (□190)。
画像を保護する		表示中の画像にプロテクト (保護) を設定します (□181)。
動画を再生する/ パノラマ再生する		<ul style="list-style-type: none">●マークが表示されている画像の場合、動画を再生します (□159)。パノラマ画像の場合は、パノラマ再生します (□66)。

iボタン

1コマ表示モード、サムネイル表示モード (□176)、カレンダー表示モード (□177) で**iボタン**を押すと、次の画面が表示されます。



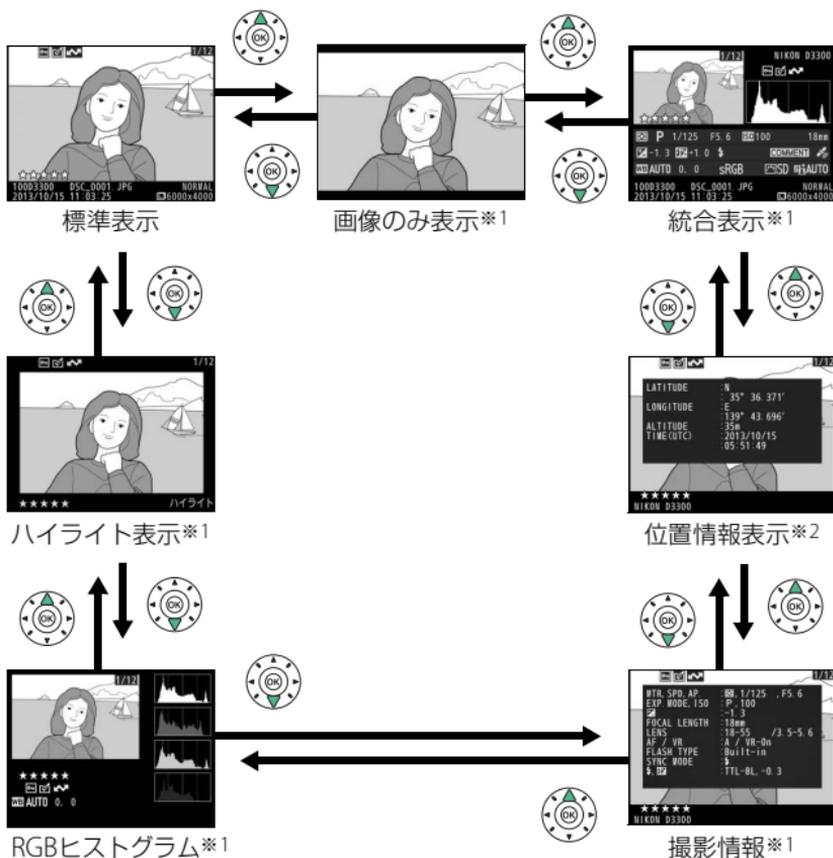
iボタン

選んだ画像に対して次の操作を行えます。

- レーティング (重要度) (□183)
- 画像編集 (静止画の場合) (□261) / 動画編集 (動画の場合) (□161)
- スマートデバイスへの送信指定/解除 (別売のワイヤレスモバイルアダプター装着時のみ、□186)

画像情報を表示する

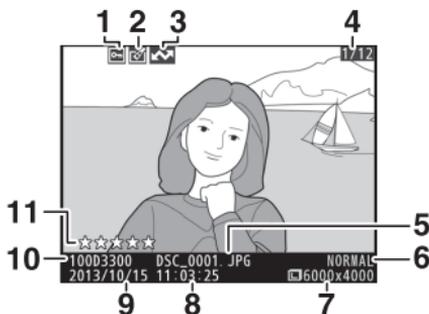
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニュー [再生画面設定] (□217) で設定している場合のみ表示します。

※2 別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aを使って、撮影時に位置情報 (□257) を記録した画像の場合のみ表示します。

標準表示



1	プロテクト設定の有無	181	7	画像サイズ	86
2	画像編集の有無	262	8	撮影時刻	18、239
3	送信指定の有無	186	9	撮影日付	18、239
4	コマ番号/フォルダー内全画像数		10	フォルダー名	253
5	ファイル名	247	11	レーティング設定	183
6	画質モード	84			

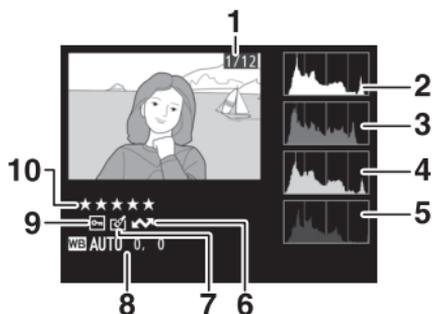
ハイライト表示※



1	プロテクト設定の有無	181	5	画像のハイライト部分が点滅表示されます。	
2	画像編集の有無	262	6	レーティング設定	183
3	送信指定の有無	186			
4	コマ番号/フォルダー内全画像数				

※ハイライトとは、画像の中の非常に明るい部分です。露出補正などで画像の明るさを調整する際に、点滅しているハイライト部分を目安にしてください。

RGBヒストグラム



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	7	画像編集の有無	262	
2	RGBのヒストグラム	8	ホワイトバランス	121	
3	赤色 (R) のヒストグラム		ホワイトバランス微調整	124	
4	緑色 (G) のヒストグラム		プリセットマニュアル	126	
5	青色 (B) のヒストグラム	9	プロテクト設定の有無	181	
6	送信指定の有無	186	10	レーティング設定	183

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセクターの \blacktriangle \blacktriangledown \blacktriangleleft \blacktriangleright を押すと画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} ボタンを押すと画像を縮小表示します。



カメラのヒストグラム表示機能について

ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

✎ ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

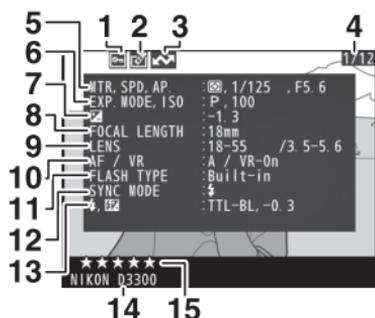
- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



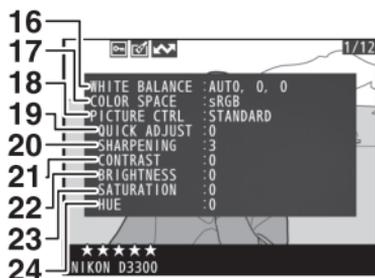
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

■ 撮影情報

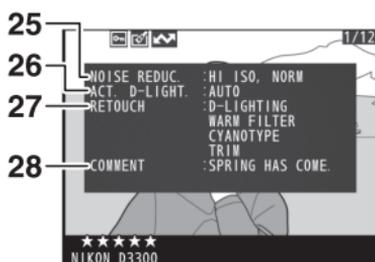
撮影時の設定の詳細を表示します。



1	プロテクト設定の有無.....	181	9	レンズ情報
2	画像編集の有無.....	262	10	フォーカスモード..... 73、141 レンズのVR（手ブレ補正）機能 のON/OFF※2
3	送信指定の有無.....	186	11	フラッシュの種類..... 227、300 コマンドモードの有無※2
4	コマ番号/フォルダー内全画像数		12	フラッシュモード..... 89、91
5	測光モード..... 111 シャッタースピード..... 100 絞り値..... 100		13	フラッシュ発光方式..... 227 フラッシュ調光補正值..... 117
6	撮影モード..... 25、46、49、99 ISO感度※1	94	14	カメラ名
7	露出補正值..... 115		15	レーティング設定..... 183
8	焦点距離..... 294			



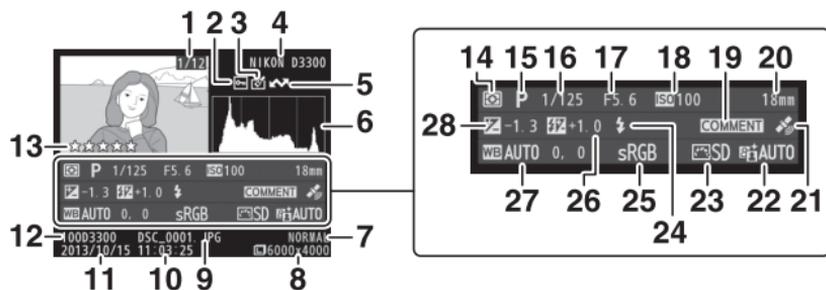
16	ホワイトバランス.....	121	20	輪郭強調.....	136
	ホワイトバランス微調整.....	124	21	コントラスト.....	136
	プリセットマニュアル.....	126	22	明るさ.....	136
17	色空間.....	223	23	色の濃さ(彩度)※3.....	136
18	ピクチャーコントロール.....	132		フィルター効果※3.....	136
19	クイック調整※3.....	136	24	色合い(色相)※3.....	136
	元になったピクチャーコント ロール※3.....	132		調色※3.....	136



25	ノイズ低減.....	224	27	画像編集メニュー(□261)で 行われた画像編集の内容が一 覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場 合は、順番に表示されます。	
26	アクティブD-ライティング※4	119	28	画像コメント.....	241

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 設定した機能、装着したレンズやアクセサリにより表示されない場合があります。
- ※3 設定したピクチャーコントロールにより、表示される内容が異なります。
- ※4 アクティブD-ライティングを【する】にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。

■ 統合表示



1	コマ番号/フォルダー内全画像数	16	シャッタースピード.....	100
2	プロテクト設定の有無.....	17	絞り値.....	100
3	画像編集の有無.....	18	ISO感度*1	94
4	カメラ名	19	画像コメントの有無.....	241
5	送信指定の有無.....	20	焦点距離.....	294
6	画像のヒストグラム (□171) を表示します。横軸は明るさ、 縦軸は明るさごとのピクセル 数を表します。	21	位置情報の有無	257
7	画質モード	22	アクティブD-ライティング*2	119
8	画像サイズ	23	ピクチャーコントロール	132
9	ファイル名	24	フラッシュモード.....	89、91
10	撮影時刻	25	色空間.....	223
11	撮影日付	26	フラッシュ調光補正值	117
12	フォルダー名.....	27	ホワイトバランス.....	121
13	レーティング設定	28	ホワイトバランス微調整	124
14	測光モード		プリセットマニュアル.....	126
15	撮影モード		露出補正值	115

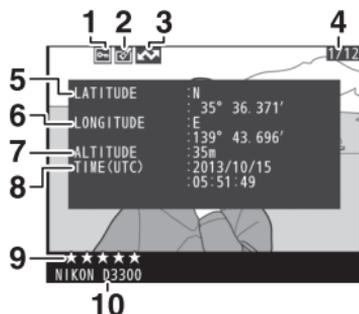
※1 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 アクティブD-ライティングを [する] にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。

※3 設定した機能や装着したアクセサリにより表示されない場合があります。

■■ 位置情報表示

別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aを使って、撮影時に位置情報(□257)を記録した画像の場合に表示します*。



1	プロテクト設定の有無	181	6	経度	
2	画像編集の有無	262	7	標高	
3	送信指定の有無	186	8	UTC (協定世界時)	
4	コマ番号/フォルダー内全画像数		9	レーティング設定	183
5	緯度		10	カメラ名	

*動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

複数の画像を一覧表示する (サムネイル表示モード)

1コマ表示モードのときに (?) ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

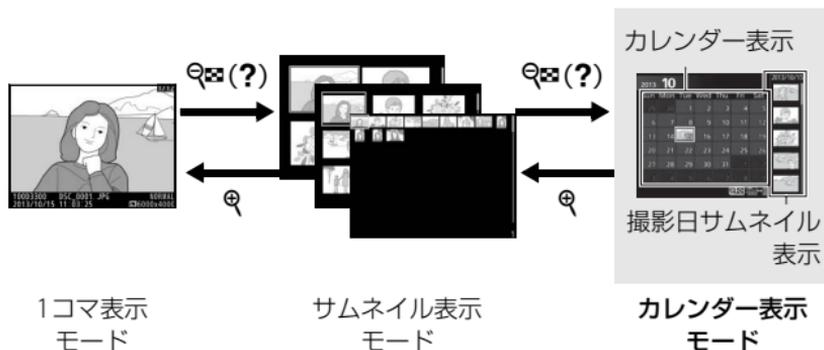


サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	 (?)	1コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと72コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす		72コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り替わります。
画像を選ぶ		マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、黄色の枠 (カーソル) を動かして画像を選びます。マルチセレクターの代わりにコマンドダイヤルを使うこともできます。
1コマ表示する		サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を削除する		選んだ画像を削除します (□190)。
画像を保護する		選んだ画像にプロテクト (保護) を設定します (□181)。

撮影した日付ごとに画像を表示する (カレンダー表示モード)

72コマ表示時 (□176) に  (?) ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。



■■ カレンダー表示モードでの操作方法

表示を切り換える	 (?)	<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー表示時に  (?) ボタンまたは  ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。
		<ul style="list-style-type: none"> • 撮影日サムネイル表示時に  (?) ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に戻る/ 画像を拡大する		<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー表示時は 72 コマ表示に切り替わります。 • 撮影日サムネイル表示時は、 ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ		<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー表示時は、マルチセレクターの     を押して、黄色の枠 (カーソル) を動かして撮影した日付を選びます。 • 撮影日サムネイル表示時は、 または  を押して画像を選びます。
1コマ表示する		<ul style="list-style-type: none"> • 撮影日サムネイル表示時に  ボタンを押すと、選択した画像を1コマ表示します。

画像を削除する		<ul style="list-style-type: none"> • カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します (□190)。
画像を保護する		撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします (□181)。

画像を拡大表示する

画像の再生中に 🔍 ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが [L]（サイズL）の場合は約38倍、[M]（サイズM）では約28倍、[S]（サイズS）では約19倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲んで表示します。

■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる		ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる/ 人物の顔の拡大率を変更する		i ボタンを押しながらマルチセレクターの ◀ または ▶ を押すたびに、認識した顔に順次移動します。 i ボタンを押しながら ▲ または ▼ を押すと、拡大率が変わります。	

<p>前後の画像 を見る</p>		<p>コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。</p>
<p>1コマ表示 する</p>		<p>拡大表示を終了して、1コマ表示モードに戻ります。</p>
<p>画像を 保護する</p>		<p>表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□181）。</p>

画像を保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット \square 231）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

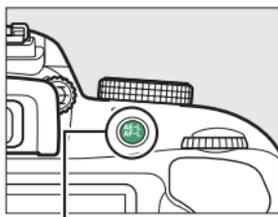
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モード/カレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像を選びます。



2 AE-L/AF-L (O) ボタンを押す

- AE-L/AF-L アイコンが表示されます。



AE-L/AF-L (O) ボタン



プロテクトを解除するには

解除する画像を表示（選択）して、（**On**）ボタンを押します。

プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、（**On**）ボタンとボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの**[再生フォルダー設定]**（□□217）で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトをまとめて解除できます。

画像にレーティング（重要度）を設定する

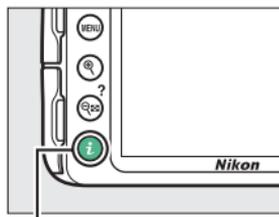
選んだ画像にレーティングを設定できます。ただし、プロテクトした画像はレーティングを設定できません。

表示中の画像にレーティングを設定する

1 レーティングを設定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、レーティングを設定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、レーティングを設定する画像を選びます。

2 i ボタンを押す



i ボタン

3 [レーティング] を選んで

OK ボタンを押す



4 レーティングを設定する

- マルチセレクターの◀または▶を押して、★★★★★～★、星なし、🗑️（削除候補）から選びます。



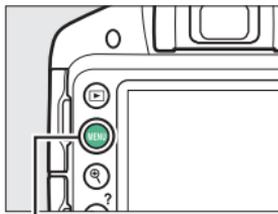
5 OK ボタンを押して決定する

メニュー操作で画像にレーティングを設定する

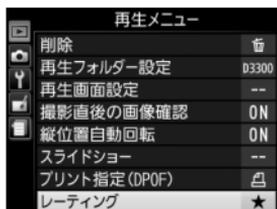
再生メニューの[レーティング]で画像にレーティングを設定できます。

1 [レーティング] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの[レーティング]を選んでマルチセクターの▶を押します。

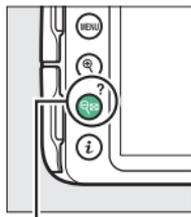


MENU ボタン



2 画像を選んでレーティングを設定する

- ▲▼◀▶を押して、レーティングを設定したい画像を選びます。
- ④(?) ボタンを押しながら▲または▼を押して、★5～★1、星なし、☒ (削除候補) から選びます。



④(?) ボタン



- ④ ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

3 OK ボタンを押して決定する

スマートデバイスに取り込みたい 画像をカメラで送信指定する

別売のワイヤレスモバイルアダプター (□□308) の装着時には、ワイヤレスモバイルアダプターを使ってスマートデバイスに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで、送信指定することができます (1 ~ 100 枚)。

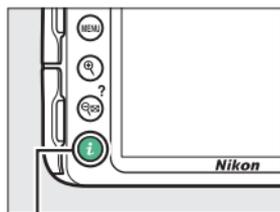
- 別売のワイヤレスモバイルアダプターを装着していない場合、送信指定できません。また、動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

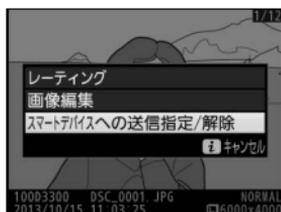
2 *i* ボタンを押す



i ボタン

3 [スマートデバイスへの送信指定/解除] を選んで **OK** ボタンを押す

-  アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

アイコンについて

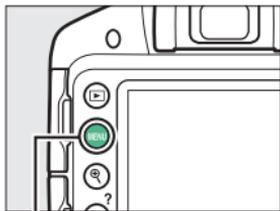
スマートデバイスに画像を送信し終わると、画像情報から  アイコンが消えます。

メニュー操作で画像を送信指定する

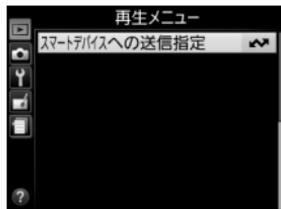
再生メニューの [スマートデバイスへの送信指定] で画像を送信指定できます。

1 [スマートデバイスへの送信指定] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの [スマートデバイスへの送信指定] を選んでマルチセレクターの▶を押します。

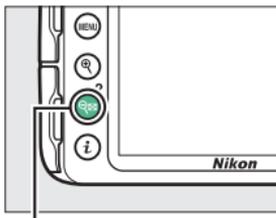


MENU ボタン



2 送信指定する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、画像を選びます。
- Q (?) ボタンを押して設定します。設定すると  アイコンが表示され、もう一度 Q (?) ボタンを押すと解除されます。



Q (?) ボタン



- 送信指定する画像全てに設定してください。
- Q ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を完了します。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

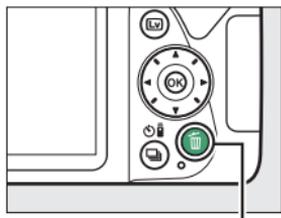
表示中の画像を削除する

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、削除する画像を選びます。

2 𠂆ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- 𠂆ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



𠂆ボタン



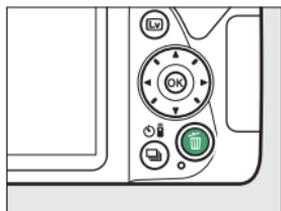
1コマ表示モード



サムネイル表示モード

3 もう一度𠂆ボタンを押す

- 選択した画像が削除されます。



複数の画像をまとめて削除する

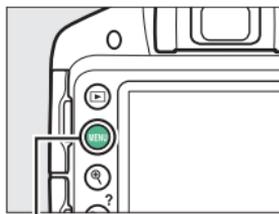
再生メニューの「削除」では、複数の画像をまとめて削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選択した画像を削除します。
 日付選択	選択した日付に撮影した画像をまとめて削除します。
ALL 全画像削除	[再生フォルダー設定] (□217) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

■ 選択画像削除

1 「削除」を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの「削除」を選んでマルチセクターの▶を押します。



MENU ボタン



2 「選択画像削除」を選ぶ

- 「選択画像削除」を選んで▶を押します。



3 削除する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、画像を選びます。
- Q (?) ボタンを押して設定します。設定すると画アイコンが表示され、もう一度 Q (?) ボタンを押すと解除されます。



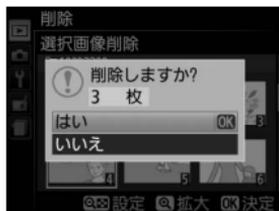
Q (?) ボタン



- 削除する画像全てに設定してください。
- Q ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

4 設定を完了する

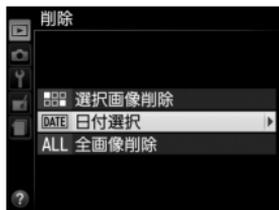
- OK ボタンを押して、設定を完了します。
- 確認画面で [はい] を選択し、OK ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。



■ 日付選択

1 [削除] 画面で [日付選択] を選ぶ

- [日付選択] を選んでマルチセレクターの▶を押します。

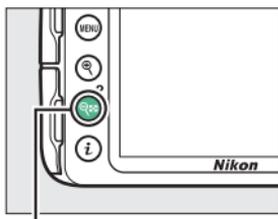


2 日付を選ぶ

- 日付を選び、**▶**を押してチェックボックスをオンにします。もう一度**▶**を押すと、チェックボックスがオフになります。



- 削除する日付全てに設定してください。
- Q&A (?)** ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度**Q&A (?)** ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。



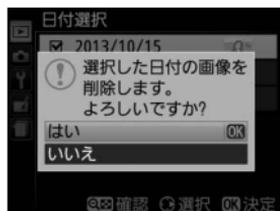
Q&A (?) ボタン



- サムネイル表示中に**Q**ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

- OK** ボタンを押して、設定を完了します。
- 確認画面で **はい** を選択し、**OK** ボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。

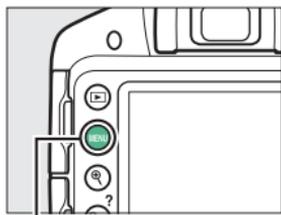


スライドショーで再生する

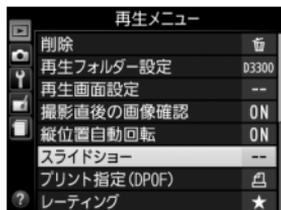
再生メニューの[スライドショー]では、[再生フォルダー設定] (☞217)で設定したフォルダー内の画像を記録された順番に1コマずつ連続再生できます。

1 [スライドショー] を選ぶ

- MENU ボタンを押して、再生メニューの [スライドショー] を選んでマルチセレクターの▶を押します。

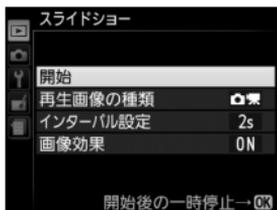


MENU ボタン



2 スライドショーを開始する

- [開始] を選んでOK ボタンを押すと、スライドショーが始まります。



- スライドショー再生時には次の操作を行えます。

1コマ進む/ 戻る		◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の 切り換え		画像情報の切り換えができます (□168)。
一時停止/ 再開		スライドショーが一時停止します。もう一度OKボタンを押すと再開します。
動画の音量を 調節する	 / 	動画再生中に  ボタンを押すと音量が大きくなり、  ボタンを押すと小さくなります。
通常再生に 戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード (□166)、サムネイル表示モード (□176) またはカレンダー表示モード (□177) に戻ります。

- 再生が終わると、右のような画面が表示されます。[再開]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。[終了]を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが終了します。



再生画像の種類を設定する

[再生画像の種類] を選ぶと、スライドショーで再生する画像の種類を [静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ]、[レーティングの選択] から選べます。

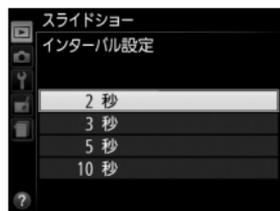
- [レーティングの選択] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだレーティングを設定した画像だけを再生できます。



- レーティング項目を選び、▶を押してチェックボックスをオン にします。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ になります。
- OK ボタンを押して、設定を完了します。

1コマの静止画を表示する時間（インターバル）を設定する

[インターバル設定] を選ぶと、1コマの静止画を表示する時間を設定できます。



画像効果を設定する

[する] を選ぶと、表示中の画像が次の画像を押し出すようにコマ送りして再生されます。

パソコン、プリンター、 テレビとの接続

ViewNX 2をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が□□199の動作環境に合っているか確認してください。

1 パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れ、インストーラーを起動する

- 次の画面で言語を選びます。



2 インストールを開始する

- 画面の指示に従ってインストールしてください。



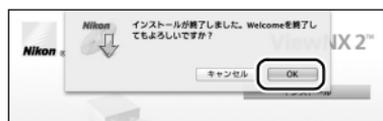
3 インストールを終了する

Windows



[はい] をクリック

Mac



[OK] をクリック

4 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

✓ 必ず最新バージョンのソフトウェアをお使いください

- お使いのカメラに対応していないバージョンのソフトウェアを使用すると、RAW画像をカメラからパソコンへ正常に転送できないことがあります。必ず最新バージョンのViewNX 2をお使いください。
- 最新版のViewNX 2は、当社ホームページ (☐ xviii) からダウンロードしてインストールすることもできます。

✓ ニコンホームページへのアクセスについて (Windowsのみ)

ViewNX 2をインストールした後、Windowsの [スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [Link to Nikon] の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます (インターネットに接続できる環境が必要です)。

 **ViewNX 2の動作環境について**

	Windows	Mac
プロセッサー (CPU)	<ul style="list-style-type: none"> • 静止画：Intel Celeron/ Pentium 4/Coreシリーズ 1.6GHz以上 • 動画： <ul style="list-style-type: none"> - 再生時：Pentium D 3.0GHz 以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフ レームレート30fps以上、ま たは1920×1080ピクセル以 上で動画再生をする場合： Intel Core i5以上を推奨 	<ul style="list-style-type: none"> • 静止画：Intel Coreシリーズ/ Xeonシリーズ • 動画： <ul style="list-style-type: none"> - 再生時：Core Duo 2GHz 以上 - 編集時：Intel Core i5以上 • 1280×720ピクセル以上でフ レームレート30fps以上、ま たは1920×1080ピクセル以 上で動画再生をする場合： Intel Core i5以上を推奨
OS	Windows 8.1、Windows 7、 Windows Vista、Windows XP <ul style="list-style-type: none"> • 全てプリインストールされて いるモデルに対応 • 64ビット版Windows XP上 では動作しません。 	OS X 10.9、10.8、10.7
実装メモリー (RAM)	<ul style="list-style-type: none"> • 32ビット版 Windows 8.1、 Windows 7、Windows Vista：1 GB 以上 (2 GB 以上推奨) • 64ビット版 Windows 8.1、 Windows 7、Windows Vista：2 GB 以上 (4 GB 以上推奨) • Windows XP：512 MB以上 (2 GB以上推奨) 	2 GB 以上 (4 GB 以上推奨)
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が1 GB以上 (3 GB以上推奨)	
モニター	解像度：1024×768ピクセル (XGA) 以上 (1280×1024ピ クセル以上推奨)、表示色数： 24ビットカラー以上	解像度：1024×768ピクセル (XGA) 以上 (1280×1024ピ クセル以上推奨)、表示色数： 1670万色以上

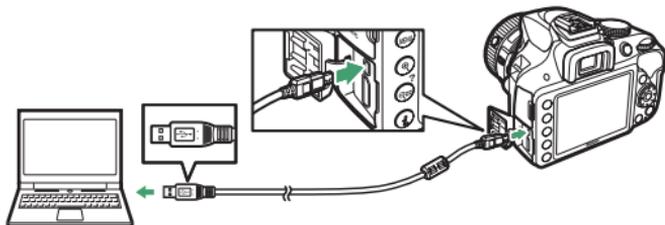
※対応 OS に関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報 (□xviii)
でご確認ください。

ViewNX 2を使う

パソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにする。



2 ViewNX 2のNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

Windows 7をお使いの場合

次の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。



- 1 「画像とビデオのインポート」で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
 - 「画像とビデオのインポート」の「プログラムの変更」をクリックすると表示される画面で、「画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2 使用」を選んで、「OK」をクリックします。
- 2 「画像ファイルを取り込む」をダブルクリックする

3 画像をパソコンに取り込む

- [転送開始] をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます (ViewNX 2の初期設定)。



[転送開始]

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

画像を見る

画像の取り込みが終わると、ViewNX 2が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。



■ 静止画を編集する

ViewNX 2のツールバーで「**エディット**」をクリックします。

階調の補正、シャープネスの調整、画像の切り抜き（クロップ）などの編集ができます。



■ 動画を編集する

ViewNX 2のツールバーで「**Movie Editor**」をクリックします。

このカメラで撮影した動画の不要な部分を削除するなどの編集ができます。



■ 画像をプリントする

ViewNX 2のツールバーで「**印刷**」をクリックします。

ダイアログが表示され、パソコンにつないだプリンターから、画像をプリントできます。

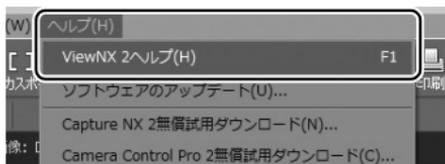


ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows : デスクトップの **[ViewNX 2]** のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac : Dockの **[ViewNX 2]** アイコンをクリックする

ViewNX 2の詳しい使い方は

ViewNX 2のヘルプを参照してください。



パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤動作の原因となることがあります。

プリンターで印刷する (ダイレクトプリント)

PictBridge (ピクトブリッジ □352) 対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してSDカード内の画像をプリントできます(ダイレクトプリント)。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像(□84)はダイレクトプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの[RAW現像](□274)で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- [フチ設定]と[範囲指定]は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、[範囲指定]で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

✓パノラマ写真をプリントするときのご注意

プリンターとその設定によってはプリントできなかつたり、正しくプリントできないことがあります。詳しくは、お使いのプリンターの説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで $\text{\textcircled{OK}}$ を押す

- マルチセレクトターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に $\text{\textcircled{Q}}$ ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します (□179)。 $\text{\textcircled{P}}$ ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- $\text{\textcircled{Q}}\text{\textcircled{?}}$ ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 $\text{\textcircled{Q}}$ ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント項目設定について」(□206)をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 $\text{\textcircled{OK}}$ ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 $\text{\textcircled{OK}}$ ボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで OK ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1~99枚)を設定して OK ボタンを押します。
フチ設定※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する] を選んで、▶ を押すと [範囲指定] 画面が表示されず。プリント範囲 (黄色の枠) は Q (?) ボタンを押すと狭くなり、 Q ボタンを押すと広くなります。マルチセレクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには OK ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、[プリンターの設定] を選んでください。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (☐204)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの▶を押します。

プリント 画像選択	<p>プリントする画像と枚数を選んでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• ▲▼◀▶ を押して画像を選び、Q☒ (?) ボタンを押しながら▲または▼を押して枚数 (1 ~ 99 枚) を設定して、OK ボタンを押します。• Q ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。• プリントしない画像は枚数を0にします。
日付選択	<p>指定した日付に撮影した全ての画像を1枚ずつプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• プリントする日付を選び、▶を押して設定します。• Q☒ (?) ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示します。• もう一度Q☒ (?) ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。• サムネイル表示中にQ ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。• 日付を設定したら、OK ボタンを押します。
DPOF プリント	<p>再生メニューの [プリント指定 (DPOF)] (☐209) で設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数を確認してからOK ボタンを押します。</p>
INDEX プリント	<p>SDカードの中のJPEG画像 (☐84) が一覧できる「インデックス」をプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [INDEX プリント] 画面が表示されたら、OK ボタンを押します。• インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。• 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示され、[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□206)をご覧ください。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んでⓀボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓚボタンを押してください。

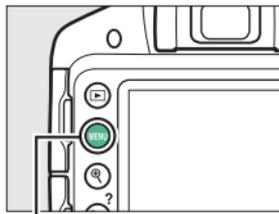
 **[デート写し込み設定] で日時を写し込んだ画像についてのご注意**
セットアップメニュー [デート写し込み設定] (□251) で日時を写し込んだ画像をプリントするときは、[日付プリント] を [なし] に設定してください。[あり] にすると日付が二重にプリントされます。また、[フチ設定] が [なし] のときや範囲指定の設定によっては、日時部分が用紙に収まらないことがあります。

プリントしたい画像を指定する (プリント指定)

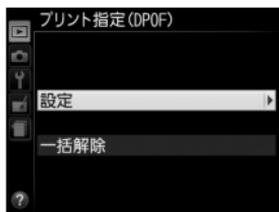
SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき (□204) に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます (プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります)。プリント指定の方法は次の通りです。

1 [プリント指定 (DPOF)] で [設定] を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの [プリント指定 (DPOF)] で [設定] を選びます。マルチセレクターの▶を押します。



MENUボタン



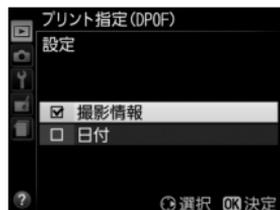
2 プリントする画像と枚数を設定する

- ▲▼◀▶を押して画像を選び、Q(?)ボタンを押しながら▲または▼を押して枚数 (1 ~ 99 枚) を設定して、OKボタンを押します。
- Qボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。
- プリントしない画像は枚数を0にします。



3 プリント指定の項目を設定する

- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、**[撮影情報]** または **[日付]** を選び、▶を押してチェックボックスをオンにします。



4 **OK** ボタンを押して、プリント指定を終了する

プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、**[プリント指定 (DPOF)]** の **[撮影情報]**、**[日付]** の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの **[日付プリント]** を **[あり]** にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW 画像 (□84) は、プリント指定ができません。RAW 画像は画像編集メニューの **[RAW現像]** (□274) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定をまとめて解除したいときは

前ページの手順1の画面で **[一括解除]** を選ぶと、プリント指定 (DPOF) で設定した内容を全て解除します。

テレビで見る

カメラをテレビや録画機器などに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、録画したりできます。

AVケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをテレビに接続する手順を説明します。接続には付属のオーディオビデオケーブルをお使いください。

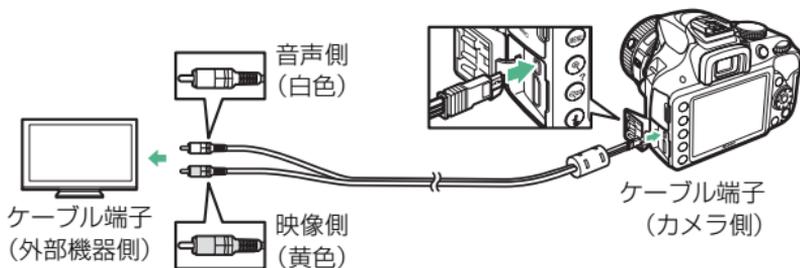
1 セットアップメニューの [ビデオ出力] を、テレビに合わせる (□258)

- 日本国内では [NTSC] にしてください。

2 カメラの電源をOFFにする

- AVケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

3 カメラとテレビを接続する



4 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

5 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

 **画像がテレビに映らないとき**

AVケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの**[ビデオ出力]** (□258) がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

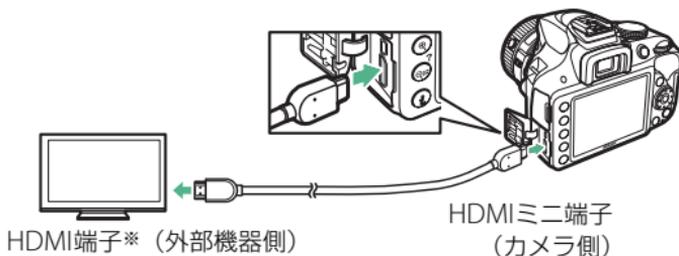
HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 カメラとハイビジョンテレビを接続する



※使用する外部機器の端子に合わせたケーブルをお使いください。

3 テレビの入力をHDMI入力に切り換える

4 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

📌 テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラれて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、ACアダプターをお使いになることをおすすめします。

■ HDMI対応機器への出力解像度を変更する

セットアップメニュー (□229) の [HDMI] の [出力解像度] では、HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って再生操作をする

セットアップメニュー (□229) の [HDMI] の [機器制御] では、HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやⓄボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。ライブビュー撮影や動画撮影を行いたいときは、[しない] に設定してください。

📝 動画の音声について

テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラでは音量調節できません。

📝 HDMI-CECとは

「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、ファインダーの記録可能コマ数表示部に「E」が表示されます。

HDMIケーブル接続時の動画の撮影と再生について

- HDMI 対応機器に接続して、撮影メニュー **【動画の設定】** の **【画像サイズ / フレームレート】** を **【1920 × 1080 60p】** または **【1920 × 1080 50p】** に設定して動画を記録すると、HDMIの出力解像度やフレームレートが変わることがあります。
- **【画像サイズ/フレームレート】** を **【1920 × 1080 60p】** または **【1920 × 1080 50p】** にして記録した動画を再生する場合 (□156)、HDMI対応機器のモニターには再生中の動画のみが表示されます。

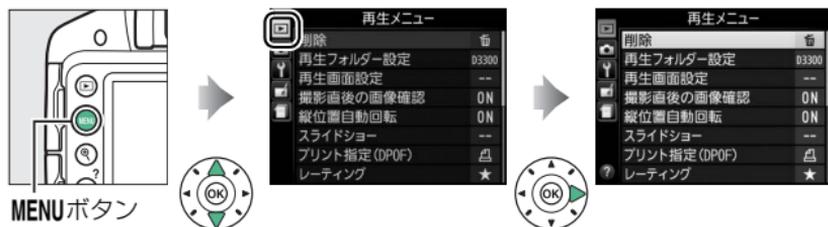
【HDMI】 の **【出力解像度】** についてのご注意

このカメラでは、**【1920 × 1080 60p】** または **【1920 × 1080 50p】** でのHDMI出力はできません。HDMI対応機器によっては、**【出力解像度】** を **【オート】** に設定すると、HDMI出力できないことがあります。その場合は、**【出力解像度】** を **【1080i (インターレース)】** に設定してください。

メニュー項目

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENU ボタンを押してタブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
削除	—	191
再生フォルダー設定	記録中のフォルダー	217
再生画面設定		
再生画面の追加	—	217
画像効果	する	
撮影直後の画像確認	する	218
縦位置自動回転	する	218
スライドショー		
再生画像の種類	静止画と動画	194、 196
インターバル設定	2秒	
画像効果	する	
プリント指定 (DPOF)	—	209
レーティング	—	185
スマートデバイスへの送信指定	—	186

再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生 (□166) の時に表示するフォルダーを設定します。

記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。

✓ 再生フォルダー設定についてのご注意

- [全てのフォルダー] にした後に撮影を行うと、自動的に [記録中のフォルダー] に変更されます。全てのフォルダーの画像を再生するには、改めて [全てのフォルダー] にしてください。
- 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの [記録フォルダー設定] (□253) で設定できます。

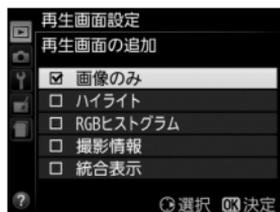
再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー

再生画面の追加

1コマ表示時の画像情報 (□168) に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセクターの を押してチェックボックスをオン にします。もう一度 を押すと、チェックボックスがオフ になります。
- ボタンを押すと、設定を完了します。



画像効果

[する] の場合は、表示中の画像が次の画像を押し出すようにコマ送りして再生されます。

撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。

縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

[する]を選ぶと、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

縦位置自動回転についてのご注意

- セットアップメニューの [縦横位置情報の記録] (📄240) を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

📷 撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押してタブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。



撮影メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
撮影メニューのリセット	—	221
画質モード	NORMAL	84
画像サイズ		
撮影モード📷	パノラマ標準	87
その他の撮影モード	サイズL	86
ホワイトバランス	オート	121
蛍光灯	白色蛍光灯	123
ピクチャーコントロール	スタンダード	132
自動ゆがみ補正	しない	222
色空間	sRGB	223
アクティブD-ライティング	する	119
ノイズ低減	する	224
ISO感度設定		
ISO感度		
撮影モードP、S、A、M	100	94、225
その他の撮影モード	オート	
感度自動制御	しない	

メニュー項目	初期設定	
--------	------	---

AFエリアモード

ファインダー撮影		
撮影モード  、  、  、 	シングルポイントAF	77
撮影モード 	ダイナミックAF	
その他の撮影モード	オートエリアAF	
ライブビュー / 動画撮影		
撮影モード  、  、  、 	顔認識AF	142
撮影モード 	ノーマルエリアAF	
その他の撮影モード	ワイドエリアAF	
内蔵AF補助光の照射設定	する	227
測光モード	マルチパターン測光	111
内蔵フラッシュ発光	TTLモード	227
光学手ブレ補正※1	する	228

動画の設定

画像サイズ/フレームレート	—※2	156
動画の画質	標準	
録音設定	マイク感度オート	
風切り音低減	しない	157
動画のマニュアル設定	しない	

※1 このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。

※2 販売地域によって異なります。

設定できない撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

撮影メニューのリセット

MENUボタン →  撮影メニュー

撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (☰219)。

撮影メニューのリセットについて

撮影メニューの項目の他に、次の撮影時の設定も初期設定に戻ります。

項目	初期設定	☰
レリーズモード		
撮影モード 	連続撮影	67
その他の撮影モード	1コマ撮影	
フォーカスポイント	中央	79
プログラムシフト	解除	102
Ⓜ (On) ボタンのホールド状態	解除	249
フォーカスマード		
ファインダー撮影	AFサーボモード自動 切り換え	73
ライブビュー / 動画撮影	シングルAFサーボ	141
フラッシュモード		
撮影モード  、  、  、  、VI、POP、  、 	通常発光オート	89、91
撮影モード 	通常発光オート+ スローシャッター	
撮影モード 	発光禁止	
撮影モード P、S、A、M	通常発光	
露出補正	解除 (0.0)	115
フラッシュ調光補正	解除 (0.0)	117
ピクチャーコントロールの調整値	解除	134

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影したいときは、**[する]** を選びます。

- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- 自動ゆがみ補正を行う場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

自動ゆがみ補正の制限について

[自動ゆがみ補正] はGタイプ・Eタイプ・Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

色空間

MENUボタン → 📷 撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は、[sRGB] 色空間に比べて色域が広いいため、商業印刷などの業務用途に適しています。



✔ Adobe RGB色空間について

アプリケーション、モニター、プリンターなどの環境がカラーマネージメント機能に対応している場合に、適切な色が再現できます。

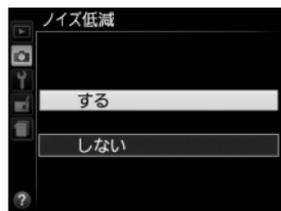
✔ 色空間についてのご注意

- 動画を撮影するときは、色空間を [sRGB] に設定することをおすすめします。
- 付属のソフトウェアViewNX 2または別売のCapture NX 2をお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

ノイズ低減

MENUボタン →  撮影メニュー

撮影時に発生するノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）を低減できます。



する	<p>全てのISO感度でノイズ低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。</p> <ul style="list-style-type: none">シャッタースピードが約1秒よりも低速の場合、長秒時ノイズの低減処理を行うため、画像を記録するまでの時間はノイズ低減を行わないときの約2倍になります。処理中はファインダー内に Job nr が点滅します。この表示が消えるまでは撮影できません。
しない	<p>ノイズが発生しやすい条件下でのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は、[する] に設定したときよりも弱めになります。</p>



ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、ノイズ低減処理は行われません。

ISO感度設定

MENUボタン → 撮影メニュー

ISO感度 (□94) と感度自動制御を設定します。



■ 感度自動制御

撮影モードP、S、A、Mで使えます。感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。 <ul style="list-style-type: none">制御上限感度と低速限界設定を設定してください。
しない	[ISO感度] (□94) で設定したISO感度に固定されます。

- [する] にしたときは、ISO感度の制御条件を設定してください。

制御上限感度	ISO感度が高くなると、低いときに比べて撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。感度自動制御では、ISO感度が高くなりすぎないように上限感度（200～Hi 1）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	撮影モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/2000～1秒から設定できます。また、[オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。 <ul style="list-style-type: none">• ISO感度を上欄の[制御上限感度]まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

[感度自動制御] を [する] にすると、インフォ画面に**ISO-A**、ファインダー内に**ISO-AUTO**が表示されます。

- **ISO-AUTO** マークが点灯している場合は、[ISO感度] で設定したISO感度で撮影されます。
- **ISO-AUTO** マークが点滅している場合は、設定したISO感度では適正露出が得られないため、カメラがISO感度を変更していることを示しています。



✓ 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□94) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト (□300) の装着時にフラッシュモードをスローシャッターに設定していても、背景の明るさがより適正になるように感度自動制御が機能してISO感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。
- 内蔵フラッシュまたは別売スピードライトを使って、i-TTL以外の発光方式でフラッシュ撮影する場合 (□227、302)、[感度自動制御] を [する] にしていても、常に [ISO感度] で設定したISO感度で撮影します。

✓ インフォ画面の制御上限感度と低速限界設定表示について

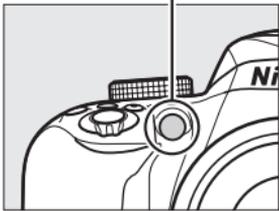
[感度自動制御] が [する] の場合、インフォ画面のISO感度イメージに制御上限感度が、シャッタースピードイメージに低速限界設定が表示されます。



内蔵AF補助光の照射設定

MENUボタン → 撮影メニュー

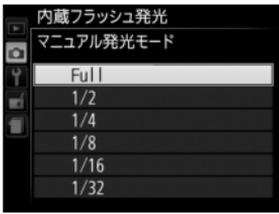
暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。

する	ファインダー撮影時にオートフォーカスでピントを合わせる場合、被写体が暗いときに自動的にAF補助光を照射します（撮影モードや設定によっては、AF補助光を照射しないことがあります（□332））。	AF補助光ランプ 
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。	

内蔵フラッシュ発光

MENUボタン → 撮影メニュー

撮影モードP、S、A、Mで使えます。内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL	TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。	
M	マニュアル発光モード	選んだ発光量でフラッシュが発光します。 <ul style="list-style-type: none">• [Full]（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約12（ISO 100・m、20℃）となります。	

 **フラッシュ調光補正マークの表示について**
 [マニュアル発光モード] にすると、フラッシュ使用時にインフォ画面に **Mf** マークが、ファインダー内に **Mf** マークが点滅します。



 **別売スピードライトSB-400、SB-300について**
 別売スピードライトSB-400またはSB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、撮影メニュー [内蔵フラッシュ発光] が [外付けフラッシュ発光] に切り替わり、SB-400またはSB-300の発光方式を [TTLモード] または [マニュアル発光モード] に設定できます。

 **TTLモードについて**
 CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、次の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード (□111) を [□] (スポット測光) にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	420分割RGBセンサーによる測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。

光学手ブレ補正

MENUボタン →  撮影メニュー

このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。[する] を選ぶと、手ブレ補正機能がONになり、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します (□355)。[しない] を選ぶと手ブレ補正機能がOFFになります。

 **[光学手ブレ補正] が [する] の時の表示について**
 [光学手ブレ補正] を [する] に設定すると、インフォ画面に手ブレ補正マークが表示されます。



🔑 セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENU ボタンを押してタブの🔑アイコンを選ばると、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	初期設定	📖
セットアップメニューのリセット	—	231
カードの初期化 (フォーマット)	—	231
液晶モニターの明るさ	0	232
インフォ画面デザイン		
AUTO/SCENE/EFFECTS モード	グラフィックデザイン	232
P/S/A/M モード	グラフィックデザイン	
インフォ画面の自動表示	自動表示する	235
イメージセンサークリーニング		
電源スイッチに連動	電源ONとOFFで実行	315
クリーニングミラーアップ※1	—	318
イメージダストオフデータ取得	—	236
フリッカー低減	オート	238
地域と日時※2		
夏時間の設定	しない	239
言語 (Language) ※2	—	240
縦横位置情報の記録	する	240
画像コメント	—	241
パワーオフ時間	標準	242

メニュー項目	初期設定	□
セルフタイマー		
時間	10秒	243
撮影コマ数	1コマ	
リモコン待機時間 (ML-L3)	1分	244
電子音設定	低音	244
フォーカスエイドインジケーター	しない	245
連番モード	しない	246
ボタン動作のオプション		
Fnボタンの機能	ISO感度設定	248
AE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L	249
半押しAEロック	しない	249
カードなし時リリース	リリース禁止	250
デート写し込み設定	しない	251
記録フォルダー設定	—	253
アクセサリターミナル		
リモート操作		
リモート撮影	静止画撮影	256
Fnボタンの機能	カメラの  ボタンと同じ	
位置情報		
半押しタイマー	有効	257
衛星による日時合わせ	する	
ビデオ出力※2	—	258
HDMI		
出力解像度	オート	214
機器制御	する	
ワイヤレスモバイルアダプター	有効	258
Eye-Fi送信機能 ※3	有効	259
ファームウェアバージョン	—	260

※1 バッテリー残量表示が  以下のときは選べません。

※2 販売地域によって異なります。

※3 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

④ 設定できないセットアップメニュー項目について

カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

セットアップメニューのリセット

MENUボタン →  セットアップメニュー

セットアップメニューをリセットして、初期設定 (□229) に戻します ([地域と日時]、[言語 (Language)]、[記録フォルダー設定]、[ビデオ出力] を除く)。

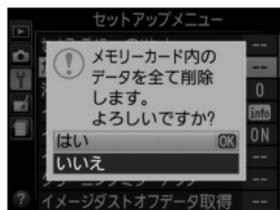
カードの初期化 (フォーマット)

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください (□200)。

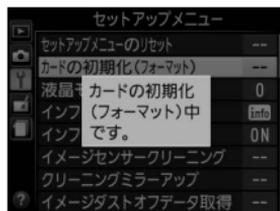
1 [カードの初期化 (フォーマット)] 画面で [はい] を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、[いいえ] を選びます。



2 ボタンを押す

- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。



液晶モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。



インフォ画面デザイン

MENUボタン →  セットアップメニュー

インフォ画面 (□7) のデザインを、次のような「クラシックデザイン」、「グラフィックデザイン」の2種類から選べます。インフォ画面デザインは、[AUTO/SCENE/EFFECTSモード] と [P/S/A/Mモード] でそれぞれ設定できます。



クラシックデザイン (□234)

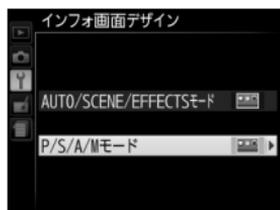


グラフィックデザイン (□7)

■■ インフォ画面デザインの設定方法

1 撮影モードを選ぶ

- インフォ画面デザインを変更したい撮影モードを、
[**AUTO/SCENE/
EFFECTS**モード] と [**P/
S/A/M**モード] から選んで
マルチセレクターの▶を押します。



2 背景色を選ぶ

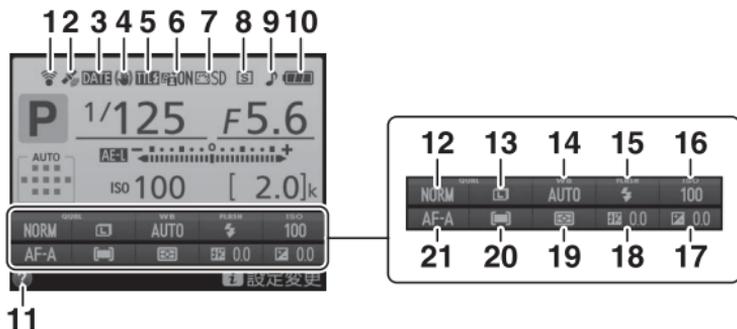
- ▲▼◀▶を押して、設定したい画面デザインを選びます。



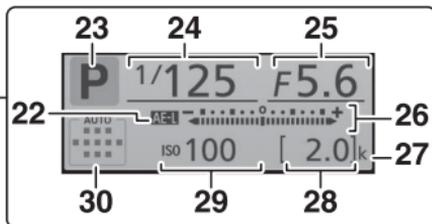
3 OK ボタンを押して設定を完了する

■ クラシックデザインについて

「クラシックデザイン」の表示内容は次の通りです（説明のため、全ての表示を点灯させています）。



1	Eye-Fi通信マーク	259	12	画質モード	84
2	衛星受信状態マーク	258	13	画像サイズ	86
3	デート写し込み設定マーク	251	14	ホワイトバランス.....	121
4	手ブレ補正マーク	23、228	15	フラッシュモード.....	89、91
5	フラッシュ発光方式マーク	227	16	ISO感度	94
	スピードライト 調光補正マーク	305	17	露出補正值	115
6	アクティブD-ライティング	119	18	フラッシュ調光補正值.....	117
7	ピクチャーコントロール	132	19	測光モード*	111
8	レリーズモード*.....	67	20	AFエリアモード	77、142
9	電子音マーク.....	244	21	フォーカスモード.....	73、141
10	バッテリー残量表示	21			
11	ヘルプあり表示.....	11、337			



<p>22 AEロックマーク 113</p> <p>23 撮影モード AUTO (オート) または (発光禁止オート) で 撮影する 24 シーンに合わせて撮影する 46 特殊効果をつけて撮影する 49 撮影モードP、S、A、Mを 使う 99</p> <p>24 シャッタースピード 100</p> <p>25 絞り値 100</p> <p>26 インジケータ— 露出 106 露出補正 115</p>	<p>27 1000コマ以上補助表示 18</p> <p>28 記録可能コマ数 18 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示 126</p> <p>29 ISO感度 94 ISO-AUTOマーク 226</p> <p>30 オートエリアAF設定マーク 77 3D-トラッキング設定マーク 77 フォーカスポイント 79</p>
---	--

インフォ画面の自動表示

MENUボタン → Y セットアップメニュー

- [自動表示する] の場合、シャッターボタンを半押しして指を放すだけで、液晶モニターにインフォ画面を表示できます。
- [自動表示しない] の場合、インフォ画面を表示するには、**Info** ボタンを押してください。

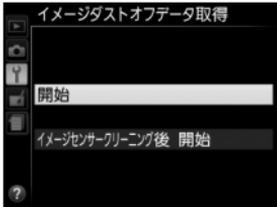
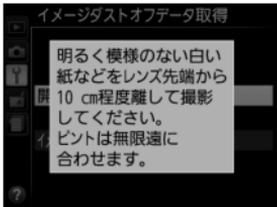
イメージダストオフデータ取得

MENUボタン → Y セットアップメニュー

別売のCapture NX 2 (□309) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2の使用説明書をご覧ください。

■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

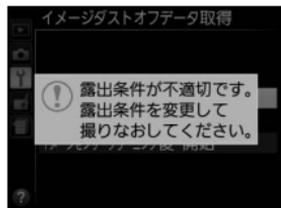
- [開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得] 画面
が表示されます。
- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- ファインダー内に、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、**MENU** ボタンを押してください。

2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、[イメージセンサークリーニング後 開始]を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得]を選ばません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします(□291)。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



フリッカー低減

MENUボタン →  セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中(□139)や動画撮影時(□151)に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ[オート]をお使いください。[オート]でフリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz]と[60 Hz]から選びます。



フリッカー低減についてのご注意

- [オート]でもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。撮影モードAまたはMで、ライブビュー開始前に絞りを絞り込んで(より大きい数値にして)ください。
- 撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] が [する] で、撮影モードがMの場合、フリッカー低減は機能しません (□157)。

地域と日時

MENUボタン → Y セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。



現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。	
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。	
日付の表示順	液晶モニターに表示される日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年] から選びます。	
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は [する] に、そうでない場合は [しない] に設定します。[する] にすると、時刻が1時間進みます。	

言語 (Language)

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	<p>撮影時に横位置で撮影したか、縦位置で撮影したかを画像情報として記録できます。液晶モニターで再生するときや、付属のViewNX 2または、別売のCapture NX 2で画像を再生するときも、記録した情報を利用して自動的に回転して表示できます。</p> <div data-bbox="274 604 450 749"></div> <p data-bbox="326 757 398 786">横位置</p> <div data-bbox="512 575 657 749"></div> <p data-bbox="543 757 626 786">縦位置 時計回りに90°回転</p> <div data-bbox="730 575 875 749"></div> <p data-bbox="766 757 849 786">縦位置 反時計回りに90°回転</p>
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

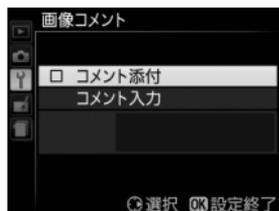
再生メニュー【縦位置自動回転】

再生メニューの【縦位置自動回転】(□218)では、【縦横位置情報の記録】を【する】に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

画像コメント

MENUボタン →  セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNX 2 や別売のCapture NX 2 (□309) のメタデータで確認できます。



■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの▶を押すと表示される入力画面でコメントを入力します。文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください(下記参照)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選び、マルチセクターの▶を押してチェックボックスをオン☑にします。Ⓞボタンを押すと、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

入力画面の操作方法について

画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方法是次の通りです。

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセクターの▲▼◀▶を押して、入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、Ⓞボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、コマンドダイヤルを回します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、コマンドダイヤルを回して削除する文字の上にカーソルを移動させ、Ⓞボタンを押します。
- 内容を確定し、文字入力を終了する場合は、Ⓞボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、MENUボタンを押します。

キーボードエリア



入力エリア

画像情報に表示される画像コメントについて

添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます(□173)。

パワーオフ時間

MENUボタン →  セットアップメニュー

液晶モニターの表示時間、ライブビューの表示時間、および半押しタイマーがオフになるまでの時間を変更できます。インフォ画面の表示時間を変更したい場合は、**[半押しタイマー]** の設定を変えてください。

SHORT 短め	• [再生/メニュー表示] : SHORT 20秒、NORM 1分、LONG 5分
NORM 標準	• [撮影直後の画像確認] : SHORT 4秒、NORM 4秒、LONG 20秒
LONG 長め	• [ライブビュー表示] : SHORT 5分、NORM 10分、LONG 20分 • [半押しタイマー] : SHORT 4秒、NORM 8秒、LONG 1分
 カスタマイズ	[再生/メニュー表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示]、[半押しタイマー]の各時間をそれぞれ設定できます。各項目の設定後、  ボタンを押すと設定が有効になります。

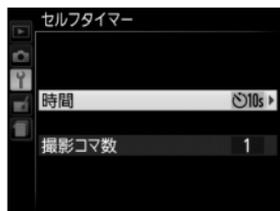
パワーオフ時間について

- パワーオフ時間が長いほど、バッテリーの消費が早くなります。
- パソコンやPictBridge対応のプリンターを接続しているときは、**[パワーオフ時間]** の設定にかかわらず、ファインダー内表示や液晶モニターは消灯しません。

セルフタイマー

MENUボタン →  セットアップメニュー

セルフタイマー撮影時 (□71) にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数を変更できます。



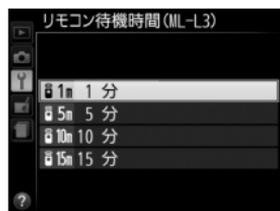
時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。	
撮影コマ数	マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、約4秒間隔で連続撮影します。	

リモコン待機時間 (ML-L3)

MENUボタン → Y セットアップメニュー

ファインダー撮影時に、リモコンモード (□96) に設定してから、カメラが別売のリモコンML-L3からの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除されます。
- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。



電子音設定

MENUボタン → Y セットアップメニュー

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- [高音] または [低音] に設定すると、セルフタイマー撮影時、リモコン撮影時、オートフォーカスでピントが合ったときに電子音が鳴ります。



電子音設定時の表示について

[高音] または [低音] のときはインフォ画面に♪マークが、[電子音なし] のときは⊗マークが表示されます。



フォーカスエイドインジケーター

MENUボタン →  セットアップメニュー

M以外の撮影モードでマニュアルフォーカスで撮影するときに、ピントのズレ具合をファインダーで確認できます。

[する] に設定してフォーカスモードを [MF] (マニュアルフォーカス) (□73、82) にすると、ファインダー内の露出インジケーターが、次のようなフォーカスエイドインジケーターに切り替わります。

インジケーター	意味
	フォーカスポイント内の被写体にピントが合っています。
	被写体の少し前方にピントが合っています。
	被写体のかなり前方にピントが合っています。
	被写体の少し後方にピントが合っています。
	被写体のかなり後方にピントが合っています。
	ピントエラー (ピントを合わせられません)

フォーカスエイドインジケーターについて

- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで使えます。
- ライブビュー時には使えません。
- オートフォーカスの苦手な被写体 (□75) では、適切に作動しないことがあります。

連番モード

MENUボタン →  セットアップメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きの連番でファイル番号が付きます。複数のSDカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 <ul style="list-style-type: none">連番モードを【する】から【しない】に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に【する】に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル番号が付きます。
リセット	連番モードを【する】に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付きます。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーが自動的に作成され、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、ファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は【連番モード】を【リセット】した後、SDカードを初期化するか交換してください。

ファイル名について

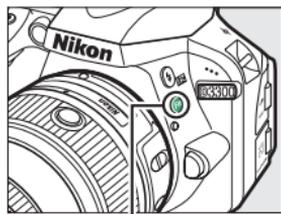
- このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxx という名前が付けられます。nnnnには撮影順に0001～9999までの数字が入ります。xxxにはファイルの種類によって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：画質モードがRAWの場合
 - JPG：画質モードがFINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合 (□236)
- **【動画編集】** (□161) で作成した画像のファイル名は「DSC_nnnn.MOV」になります。
- **【画像合成】** および **【動画編集】** 以外の画像編集メニュー (□261) で作成した静止画のファイル名は「CSC_nnnn.JPG」になります。
- 撮影メニューの **【色空間】** (□223) を **【Adobe RGB】** にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn.xxx」(または「_CSCnnnn.xxx」) となります。

ボタン動作のオプション

MENUボタン →  セットアップメニュー

■■ Fnボタンの機能

Fnボタンを押したときの機能を設定できます。

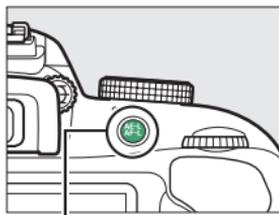


Fnボタン

QUAL	画質モード/ 画像サイズ設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、画質モード (□84) と画像サイズ (□86) の組み合わせが切り替わります。
ISO	ISO感度設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度 (□94) が切り替わります。
WB	ホワイトバランス 設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランス (□121) が切り替わります (撮影モード P、S、A、Mのみ)。
閃	アクティブ D-ライティング 設定	Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すとアクティブD-ライティング (□119) が切り替わります (撮影モード P、S、A、Mのみ)。

■■ AE/AFロックボタンの機能

AE-L (AE-L) ボタンを押したときの機能を設定できます。



AE-L (AE-L) ボタン

 AE-L/AF-L	AE-L (AE-L) ボタンを押すと、AEロック (□113) とフォーカスロック (□80) が同時に行われます。
 AE-L	AE-L (AE-L) ボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
 AE-L (ホールド)	AE-L (AE-L) ボタンを押すと、カメラの半押しタイマーがオフになるか、もう一度 AE-L (AE-L) ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。
 AF-L	AE-L (AE-L) ボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
 AF-ON	AE-L (AE-L) ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。

■■ 半押しAEロック

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

カードなし時リリース

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。ただし、SDカードが入っていないときに撮影した画像は液晶モニターに表示されますが、画像上に[デモモード]と表示され、プリントやSDカードへの保存はできませんのでご注意ください。

デート写し込み設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影する画像に直接日時を写し込みます。写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込んだりすることはできません。

しない	日付、時刻のどちらも写し込みません。
DATE 年・月・日	撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。 
DATE⊕ 年・月・日・時刻	撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。 
 誕生日カウンター (□252)	撮影した画像の右下に、撮影した日付と（誕生日など）登録した日までの日数を写し込みます。

デート写し込み設定をすると、インフォ画面に **DATE** が表示されます。

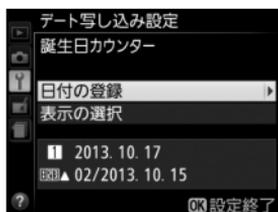


デート写し込みについてのご注意

- 年月日の並びは、[地域と日時] (□239) での設定と同じになります。
- 撮影モードが  の場合 (□54) または RAW を含む画質モード (□84) の場合、日時を写し込みできません。
- 日時を写し込んだ画像を編集する場合 (□261)、画像編集機能の種類によっては、写し込んだ日時が切れたり、きれいに表示されないことがあります。

■ 誕生日カウンターの使い方

誕生日や結婚式など記念日までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れたりするときなどに使います。日付は3種類まで登録できます。



1 最初の日付を登録する

- [誕生日カウンター] を選んでマルチセクターの▶を押します。
- マルチセクターで日付を設定してからⓐボタンを押すと、日付が登録されます。



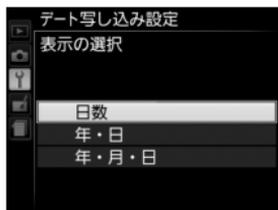
2 日付を追加する

- 最初の日付を登録すると、[日付の登録] 画面が表示されます。
- 日付を登録したい番号を選んで▶を押すと、[誕生日設定] 画面が表示され、続けて日付を登録できます。
- [日付の登録] 画面で番号を選んでⓐボタンを押すと、選んだ番号の日付を撮影に使います。



3 日付の表示順を選ぶ

- [表示の選択] を選んで▶を押します。
- 日数の表示形式を選び、ⓐボタンを押します。



4 ⓐボタンを押して設定を完了する

誕生日カウンターを使って撮影した画像には、次のように日付が写し込まれます。



記念日まであと2日の場合



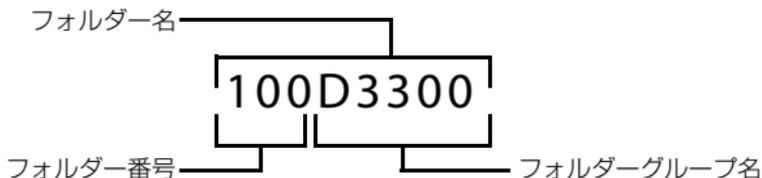
記念日から2日後の場合

記録フォルダー設定

MENUボタン → セットアップメニュー

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成することができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と変更可能な5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。



■■ 記録フォルダー選択

〔記録フォルダー選択〕を選ぶと、次のような〔記録フォルダー選択〕画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は次の通りです。



※記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、〔空フォルダー削除〕で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

■■ 新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。〔新規作成〕を選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力できます。入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください(□241)。

■■ フォルダー名変更

〔フォルダー名変更〕を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、フォルダー名の編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力できます。入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください(□241)。フォルダーグループ名を変更すると、同時にそのグループ内の全てのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

■■ 空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーが全て削除されます。

✓ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、**〔記録フォルダー選択〕**でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101D3300、102D3300というフォルダーがある場合、**〔記録フォルダー選択〕**で**〔D3300〕**を選ぶと、102D3300に画像が記録されます。

アクセサリターミナル

MENUボタン →  セットアップメニュー

アクセサリターミナルに接続する別売アクセサリの機能を設定できます。

■ リモート操作

別売のリモートコードまたはワイヤレスリモートコントローラー (□310) のシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

リモート撮影

 静止画撮影	ワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコードのシャッターボタンを全押しすると、静止画を撮影します。
 動画撮影	<ul style="list-style-type: none">ワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコードのシャッターボタンを押して、次の操作を行います：<ul style="list-style-type: none">シャッターボタンを半押しする：ライブビューを開始します。フォーカスモードが [AF-S] または [AF-F] の場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。シャッターボタンを全押しする：動画撮影を開始します。もう一度全押しすると、動画撮影を終了します。ライブビューを終了するには、カメラの  ボタンを押してください (□139)。

Fnボタンの機能

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。

 カメラの  ボタンと同じ	カメラの  ボタンと同じ機能になります (□249)。
 ライブビュー	ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押すとライブビューを開始し、もう一度Fnボタンを押すとライブビューを終了します。

■■ 位置情報

別売のGPSユニットGP-1またはGP-1A（□310）をカメラに接続したときの設定を変更できます。

半押しタイマー

カメラとGP-1/GP-1Aを接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、セットアップメニュー [パワーオフ時間] の [半押しタイマー]（□242）で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。 <ul style="list-style-type: none">カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。半押しタイマーがオフになってからも、位置情報の測位を一定時間継続します。
無効	GP-1/GP-1Aと接続中は、半押しタイマーがオフにならず、位置情報を測位し続けます。

情報表示

GP-1/GP-1A接続時に取得した緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）の情報を表示します。UTC（Coordinated Universal Time = 協定世界時）は、GP-1/GP-1Aと接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

衛星による日時合わせ

する	GP-1/GP-1A接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。
しない	GP-1/GP-1Aを使用して日時を合わせません。

GP-1/GP-1Aとの接続について

GP-1/GP-1Aをカメラに接続するには、カメラの電源をOFFにしてから、GP-1/GP-1Aに付属のケーブルをアクセサリターミナルに接続します（□310）。詳しくはGP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。

GP-1/GP-1A使用時の表示について

GP-1/GP-1Aとの通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マークで確認できます。

- **点灯**：位置情報が確定しています。
- **点滅**：GP-1/GP-1A が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。が点灯するまでお待ちください。
- **消灯**：GP-1/GP-1Aとの通信が2秒以上途絶えると、が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。



ビデオ出力

MENUボタン →  セットアップメニュー

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。

NTSC	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使用します。通常、日本国内でお使いの場合は、こちらを選びます。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使用します。

ワイヤレスモバイルアダプター

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラのUSB/オーディオビデオ出力端子に接続した別売のワイヤレスモバイルアダプター WU-1a (□308) を使って、スマートデバイスと通信するかどうかを設定できます。

有効	Wireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイスと双方向無線通信を行います。
無効	スマートデバイスとの通信を停止します。カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます

- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を **[無効]** にしてください。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、**[有効]** に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を**[無効]** にしてください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

[無効] に設定しているときでも、カードにエラーが生じた場合などに電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告表示 (□339) が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてカードを取り出してください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

-  : **[Eye-Fi送信機能]** が**[無効]** に設定されています。
-  (点灯) : 画像の送信を待っています。
-  (点滅) : 画像の送信中です。
-  : 未送信の画像はありません。
-  : エラーが発生しました。



アドホックモードの接続について

アドホックモードを使う場合は、通信の手続きに時間がかかることがあるため、セットアップメニュー **[パワーオフ時間]** の **[半押しタイマー]** を長めに設定してください (□242)。

✔ Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

✔ 別売のワイヤレスモバイルアダプター WU-1aをお使いの場合

別売のワイヤレスモバイルアダプター WU-1a (□308) をカメラに接続しているときは、Eye-Fiカードでデータを送信できません。

ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

📷 画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押してタブの📷アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてSDカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選べません。

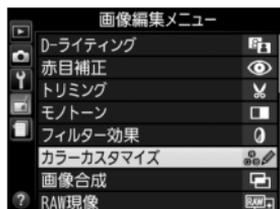
メニュー項目		メニュー項目	
D-ライティング	264	ゆがみ補正	279
赤目補正	265	魚眼効果	280
トリミング	266	塗り絵	280
モノトーン	267	フォトイラスト	281
フィルター効果	268	カラースケッチ	282
カラーカスタマイズ	270	アオリ効果	283
画像合成	271	ミニチュア効果	284
RAW現像	274	セレクトカラー	285
リサイズ	275	動画編集	161
簡単レタッチ	278	編集前後の画像表示*	287
傾き補正	278		

* 編集前または編集後の画像を1コマ表示して*i*ボタンを押して、[画像編集] を選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセクターの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。



2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して画像を選び、OKボタンを押します。
- Qボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。



4 編集した画像を記録する

- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には、📄が付きます。ただし、1コマ表示モードで「画像のみ表示」(📄168)にしている場合は、📄は表示されません。



1コマ表示モードで選んだ画像を編集する

1コマ表示モード (□166) で静止画を選んでから **i** ボタンを押して [画像編集] を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます ([画像合成] を除く)。

画像編集についてのご注意

このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。

画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード] (□84) が [FINE] のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAWとJPEGを同時に記録した場合 (□84) は、RAW画像が画像編集の対象になります。

画像サイズについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画像サイズ] (□86) が [L] (サイズL) のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画像サイズになります ([トリミング] と [リサイズ] を除く)。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません ([画像合成]、[動画編集] の [始点/終点の設定] を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては、繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

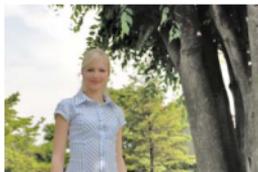
D-ライティング

MENUボタン → 画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後



D-ライティング後
(人物優先あり)

- 編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。
- マルチセクターの◀または▶を押して、効果の度合いを選びます。
- ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

■ 人物優先

背景の明るさはそのままに、人物のみを補正することもできます。

- **[人物優先]** を選び、▶ を押してチェックボックスをオン にしてください。



[人物優先] について

- カメラが自動的に認識した人物に対して補正します。
- ポーズや絵柄によっては、望ましい効果が得られない場合があります。そのときは、[人物優先] のチェックボックスをオフ にしてください。
- 最大3人まで補正できます。
- セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] (□240) を [しない] にして撮影した画像の場合は、[人物優先] を設定できません。

赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		コマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を3:2、4:3、5:4、1:1、16:9に変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

トリミングした画像についてのご注意

- 拡大表示できないことがあります。
- トリミングした画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます（トリミング時の拡大率とアスペクト比により変わります）。

モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

[モノトーン] を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- [セピア] または [クール] を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



フィルター効果

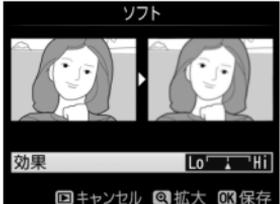
MENUボタン →  画像編集メニュー

スカイ ライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。
ウォーム トーン	画像を暖色にする効果があります。
赤強調	赤色が強調されます。
緑強調	緑色が強調されます。
青強調	青色が強調されます。
クロス スクリーン	<p>クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光のすじが伸びる効果があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [光線の本数]：光線の本数を、3種類から選べます。• [クロスの量]：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。• [光線の傾き]：光線の傾きを3段階から選べます。• [光線の長さ]：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。• [確認] を選んで  ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。 ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は [保存] を選んで  ボタンを押してください。



マルチセレクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。



<p>ソフト</p>	<p>ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気に仕上げます。</p>	 <p>◀または▶を押して、効果の度合いを選びます。</p>
------------	---------------------------------------	--

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

次のような画面が表示され、マルチセクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。



- 色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム(色の分布図 □170) に反映されます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面で  ボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中に  () ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中に ▲▼◀▶ を押すと画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。  (?) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

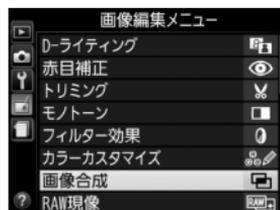
SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で

【画像合成】を選ぶ

- ・【画像合成】を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 【画像1】を選ぶ

- ・【画像1】を選んでOKボタンを押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。



3 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- ・マルチセクターを操作して、1コマ目の画像を選びます。
- ・ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



4 1コマ目の画像を決定する

- **OK** ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、**「画像1」** 欄にプレビューが表示されます。



5 2コマ目の画像を選ぶ

- **▶** を押して **「画像2」** を選び、手順2～4と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



6 ゲインを調節する

- プレビュー欄に **「画像1」** と **「画像2」** を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成した画像の明るさが適正になるように、**「画像1」** または **「画像2」** を選んでから **▲** または **▼** を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



7 プレビュー欄に移動する

- **◀** または **▶** を押して、プレビュー欄に移動します。
- 画像合成結果を確認せずに画像を保存したいときは、**「保存」** を選んで **OK** ボタンを押してください。



8 合成した画像を確認する

- [合成] を選び、**OK** ボタンを押すと、画像合成結果の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、**戻る (?)** ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



9 合成した画像を保存する

- もう一度**OK** ボタンを押すと、合成した画像が保存されます。



✓ 画像合成についてのご注意

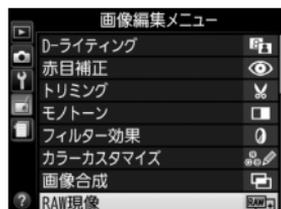
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成した画像の画質モード (□84) と画像サイズ (□86) は、カメラで設定している画質モードと画像サイズになります。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。
- 合成した画像をさらに別の画像と合成したいときは、カメラの画質モードをRAWに設定してください。
- 合成した画像の撮影データなどは、画像1で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー

1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

- [RAW現像] を選んでマルチセクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。



2 RAW現像する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶で画像を選んでOKボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 表示されている各項目をそれぞれ設定する



- 画質モード (□84)
- 画像サイズ (□86)
- ホワイトバランス (□121)
- 露出補正 (□115)
- ピクチャーコントロール (□132)



- 高感度ノイズ低減
- 色空間 (□223)
- D-ライティング (□264)

4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU** ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] を選べません。
- 露出補正で設定できる明るさは目安です。撮影時の露出補正とは効果が異なる場合があります。

リサイズ

MENUボタン → 画像編集メニュー

■■ 複数の画像を選んで同時にリサイズする

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像を同時にリサイズして保存できます。

1 画像編集メニュー画面で

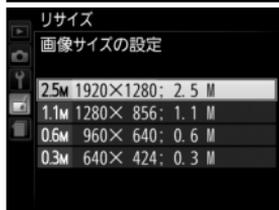
[リサイズ] を選ぶ

- [リサイズ] を選んでマルチセクターの **▶** を押します。



2 [画像サイズの設定] を設定する

- [画像サイズの設定] を選んで▶を押します。
- ▲または▼で画像サイズを選び、OKボタンを押します。



3 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで▶を押します。



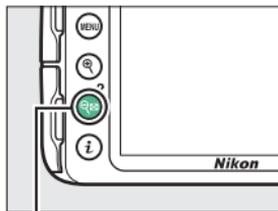
4 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
- ㉑ ボタンを押している間、選択画像を拡大表示します。



5 設定する

-  (?) ボタンを押して設定します。
設定すると  が表示されます。もう一度  (?) ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、 ボタンを押します。

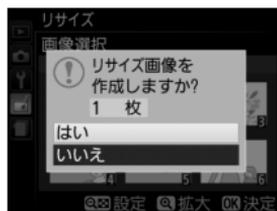


 (?) ボタン



6 リサイズした画像を作成する

- 確認画面で **[[はい]]** を選び、 ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



リサイズした画像についてのご注意

拡大表示できないことがあります。

簡単レタッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの◀または▶を押して、効果の度合いを選びます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセレクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を実行して画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- [オート] はGタイプ・Eタイプ・Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着して撮影した画像の場合は機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□222) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。
- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

ゆがみを補正する		<ul style="list-style-type: none">• たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクターの▶を押します。• 糸巻き型のゆがみを補正するには、◀を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

魚眼効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



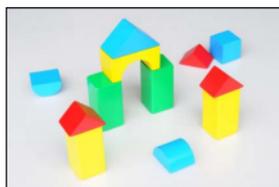
魚眼効果を調節する		マルチセレクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなり、◀を押すほど小さくなります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

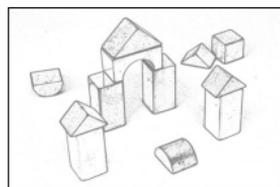
MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後

フォトイラスト

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を強調し、色数を減らすことでイラスト風の画像を作成できます。

- マルチセクターの ◀ を押すと線が細くなり、▶ を押すと太くなります。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



フォトイラスト処理前



フォトイラスト処理後

カラスケッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。



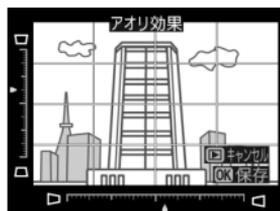
色の濃さを変える		マルチセレクターの▲または▼で [色の濃さ] を選んだ後、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		▲または▼で [線の濃さ] を選んだ後、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。[線の濃さ] を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
カラスケッチ画像を保存する		カラスケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を調節する		マルチセレクターの▲▼◀▶でアオリの効果を変更できます。
アオリ効果を実行して画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

ミニチュア効果

MENUボタン → 画像編集メニュー

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果を加える方向を変える		ボタンを押すと、効果を加える方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める		横方向に効果を加える場合、マルチセレクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
		縦方向に効果を加える場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
効果を加える幅を変える		横方向に効果を加える場合、◀または▶で効果を加える幅の広さを選びます。
		縦方向に効果を加える場合、▲または▼で効果を加える幅の広さを選びます。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する		ミニチュア効果の画像が記録されます。

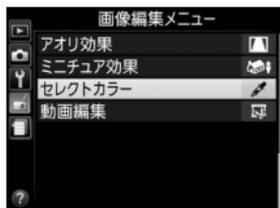
セレクトカラー

MENUボタン →  画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で [セレクトカラー] を選ぶ

- [セレクトカラー] を選んでマルチセクターの▶を押します。



2 加工する画像を選ぶ

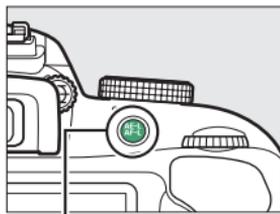
- ▲▼◀▶で画像を選んで、OKボタンを押します。
- ④ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。



3 残したい色を抽出する

- ▲▼◀▶を押して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
- ④ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。④⊞(?)ボタンを押すと縮小表示します。
- ④ (O-m) ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

色 色取得



④ (O-m) ボタン

4 色の感度の枠を選ぶ

- コマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。



色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。



6 抽出する色を追加する

- コマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3~5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで⌂ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、⌂ボタンを押し続けます。確認画面で [はい] を選んでOKボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- **OK** ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



✔ セレクトカラー設定時のご注意

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

編集前後の画像表示

MENU ボタン →  画像編集メニュー

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してから **i** ボタンを押して、**[画像編集]** を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（ が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。



2 [画像編集] を選ぶ

- **i** ボタンを押し、[画像編集] を選んで **OK** ボタンを押します。

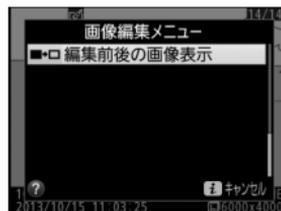


i ボタン



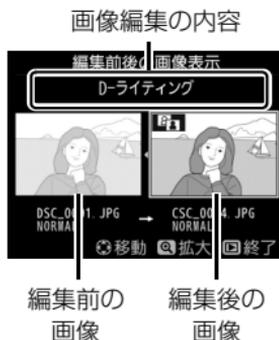
3 [編集前後の画像表示] を選ぶ

- [編集前後の画像表示] を選んで **OK** ボタンを押すと、[編集前後の画像表示] 画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- Ⓞボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。



✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

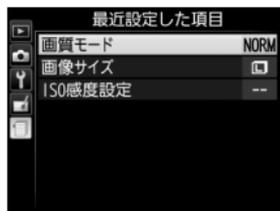
編集時の元画像にプロテクト (□181) が設定されている場合や、元画像を削除した場合、編集前の画像は表示されません。

📄 最近設定した項目： 最近設定したメニューをたどる

MENU ボタンを押してタブの📄アイコンを選ぶと、[最近設定した項目]画面が表示されます。



最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。マルチセクターで設定したいメニュー項目を選んで▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。



📄 最近設定した項目を削除するには

[最近設定した項目]画面で削除したい項目を選んで📄ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度📄ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

このカメラでオートフォーカスでピントを合わせるには、AF-S、AF-P、AF-Iのいずれかのレンズが必要です。AF-S、AF-P、AF-Iは、レンズ名の次の部分に明示されています。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II

レンズ名のこの部分がAF-S、AF-P、またはAF-Iであることをご確認ください。

このカメラで使用できるCPUレンズとレンズの仕様によるファインダー撮影時の制限は次の通りです。

モード レンズ	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M 以外	マルチパターン 測光		中央部重点 測光/ スポット測光
						3D-RGB	RGB	
AF-Sレンズ、 AF-Pレンズ、 AF-Iレンズ	○	○	○	○	○	○	×	○※1
Gタイプレン ズ、Dタイプ のAFレンズ	×	○	○	○	○	○	×	○※1
PC-E NIKKORシ リーズ※2、3	×	○※4	○	○	○	○	×	○※1
PCマイクロ 85mm F2.8D※5	×	○※4	○	○	×	○	×	○※1
AF-S/AF-Iテレ コンバーター	○※6	○※6	○	○	○	○	×	○※1

モード レンズ	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M 以外	マルチパターン 測光		中央部重点 測光/ スポット測光
						3D-RGB	RGB	
Gタイプ、Dタイプ以外のAFレンズ (F3AF用を除く)	×	○※7	○	○	○	×	○	○※1
AI-Pニッコール	×	○※8	○	○	○	×	○	○※1

※1 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能(□111)。

※2 PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDの装着時にアオリ操作をすると、レンズとカメラボディが接触して傷が付いたり、ケガをする可能性があります。充分ご注意の上、お使いください。

※3 アオリ操作をしているときは適正露出になりません。

※4 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※5 アオリ操作をしているとき、または開放絞り以外のときは適正露出になりません。

※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※7 AF80-200mm f/2.8S、AF35-70mm f/2.8S、AF28-85mm f/3.5-4.5S(New)、AF28-85mm f/3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とフォーカスエイドのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、ファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※8 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

●高感度で動画撮影を行う場合、オートフォーカスの作動中にノイズ(すじ)が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

✓ 使用できるレンズについてのご注意

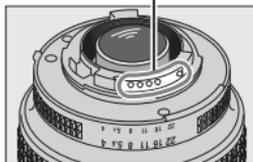
AF-S、AF-P、AF-I以外のオートフォーカス(AF)レンズを装着しても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。また、IXニッコールレンズは装着できません。

CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

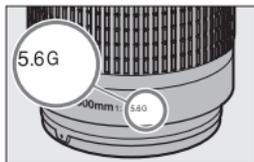
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

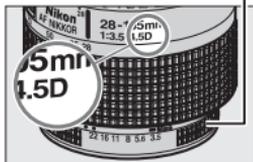
絞りリング



CPUレンズ



Gタイプレンズ/
Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

- 絞りリングのあるCPUレンズを取り付ける場合は、最小絞り（一番大きい数値）にして、ロックしてください。

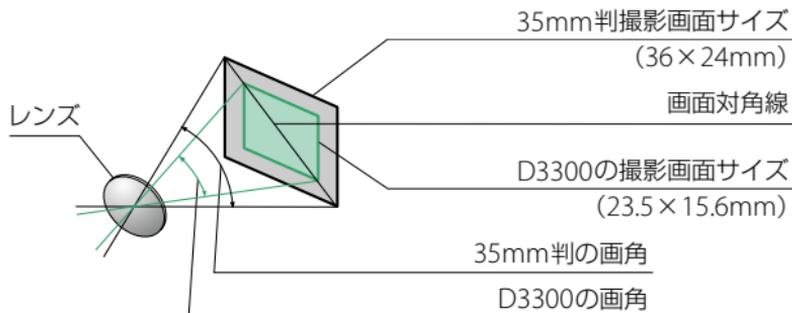
マルチパターン測光について

このカメラは420分割RGBセンサーを搭載しています。Gタイプ、EタイプまたはDタイプレンズ（□293）使用時は、このセンサーから得られるさまざまな情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅰ」という測光方式になります。

✔ レンズの画角と焦点距離について

D3300ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使えます。ただし、これらのレンズをD3300に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ（ $36 \times 24\text{mm}$ ）に対して、D3300の撮影画面（ $23.5 \times 15.6\text{mm}$ ）が小さいためです。

例：D3300に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。



✔ 赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

✓ AF補助光撮影 (□76) に制限のあるレンズについてのご注意

使用できるAFレンズの焦点距離は18~200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3mです。AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II
- AF-S Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D IF-ED
- AF-S NIKKOR 80–400mm f/4.5–5.6G ED VR
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED
- AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

次のレンズでは、撮影距離**1m以内**でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、**AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。**

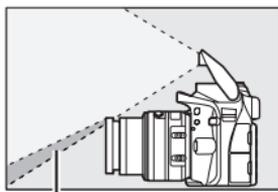
- AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED
- AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 18–35mm f/3.5–4.5G ED
- AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX NIKKOR 18–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G
- AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED
- AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 85mm f/1.4G
- AF-S NIKKOR 85mm f/1.8G
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED

✓ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

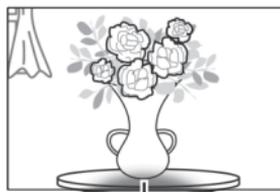
内蔵フラッシュ撮影で使用できるレンズの焦点距離は18～300mmです。

- ケラレ※を防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。

※ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に映り込む現象です。



影



ケラレ

- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 次のCPUレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED	●焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上
AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED	●焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR	●焦点距離35mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX NIKKOR 16-85mm f/3.5-5.6G ED VR	●焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED	●焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 ●焦点距離35mmでは制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	●焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 ●焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 ●焦点距離45mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 18-35mm f/3.5-4.5G ED	●焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 ●焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 ●焦点距離35mmでは制約なし
AF Zoom-Nikkor 18-35mm f/3.5-4.5D IF-ED	●焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 ●焦点距離28mm以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 1m 以上
AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 18-70mm f/3.5-4.5G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-105mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 2.5m 以上 ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 18-135mm f/3.5-5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 18mm では撮影距離 2m 以上 ● 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上
AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 35mm 以上では撮影距離 1m 以上
AF Zoom-Nikkor 20-35mm f/2.8D IF	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 2.5m 以上 ● 焦点距離 28mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 35mm では制約なし
AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 撮影距離 1m 以上
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上は制約なし
AF-S VR Zoom-Nikkor 24-120mm f/3.5-5.6G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 24mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 28mm 以上は制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 28-70mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 35mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> ● 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 ● 焦点距離 35mm では撮影距離 1m 以上 ● 焦点距離 50mm 以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離200mmでは撮影距離4m以上 焦点距離250mmでは撮影距離3m以上 焦点距離300mmでは撮影距離2.5m以上
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED	<ul style="list-style-type: none"> アオリ操作をしていない状態で撮影距離3m以上

• AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

使用できる非CPUレンズ^{※1}

モード レンズ	フォーカスモード			撮影モード	
	AF (オート フォーカス)	フォーカス エイド	MF (マニュアル フォーカス)	M	M以外
AI-S、AI、シリーズEレンズ、AI改造レンズ	×	○ ^{※2}	○	○ ^{※3}	×
メディカル120mm f/4	×	○	○	○ ^{※4}	×
レフレックスレンズ	×	×	○	○ ^{※3}	×
PCニッコール	×	○ ^{※5}	○	○ ^{※3}	×
AI-S、AIテレコンバーター	×	○ ^{※6}	○	○ ^{※3}	×
ペローズアタッチメント PB-6 ^{※7}	×	○ ^{※2}	○	○ ^{※3}	×
オート接写リング (PK-11A、12、13、PN-11)	×	○ ^{※2}	○	○ ^{※3}	×

※1 一部装着不可能なレンズがあります（下記参照）。

※2 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

※3 露出インジケーターは使用不可。

※4 フラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードで使用可。露出インジケーターは使用不可。

※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

※7 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

✔ 非CPUレンズについてのご注意

- 非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外の撮影モードでは、シャッターがきけません。
- 絞り値の設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。
- カメラの露出計は使えません。
- 測光モードは設定できません。
- i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

✔ 使用できない非CPUレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとする、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ
(AI方式以前の連動爪を使用するタイプ)
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ (400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11)
- フィッシュアイ (6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6)
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8 (製品No.174041~174180)
- ED360-1200mm f/11 (製品No.174031~174127)
- 200-600mm f/9.5 (製品No.280001~300490)
- F3AF用 (AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S)
- PC28mm f/4 (製品No.180900以前の製品)
- PC35mm f/2.8 (製品No.851001~906200)
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11 (製品No.142361~143000)
- レフレックス2000mm f/11 (製品No.200111~200310)

外付けのスピードライトについて (別売フラッシュ)

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

ニコンクリエイティブライティングシステム 対応スピードライトについて

	ガイドナンバー (ISO 100・m/ISO 200・m、20°C)
SB-910 ※1	34/48 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-900 ※1	34/48 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38/53 (照射角35mm時)
SB-700 ※1	28/39 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30/42 (照射角35mm時)
SB-400 ※2	21/30
SB-300 ※2	18/25
SB-R200 ※3	10/14

※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO** (オート) または **⚡** (フラッシュ) に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 ワイヤレス機能はありません。

※3 リモート発光用スピードライト SB-R200 を使用するには、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

✔ ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

✔ ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離 (m)」(ISO感度が100の場合) という関係があります。ガイドナンバーが34 (ISO感度100、20℃) のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 = \text{約}6.1\text{m}$ までフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍 ($\sqrt{2}$ 倍) になります。たとえば、ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 = \text{約}8.6\text{m}$ まで光が届きます。

✔ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ (カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の接点をショートしてしまうもの) を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

		ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライト									
		SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SU-800		SB-R200	SB-400	SB-300
							コマンダー 撮影	クローズ アップ 撮影			
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	—	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○※2	○	○	—	—	—	○	○
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※3	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○※3	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	—	—	—	○※4	○※4
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—
アドバンストワイヤレスライティング 主灯	リモートフラッシュへの 発光指示		○	○	○	—	○	○	—	—	—
	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	[A:B]	クイック ワイヤレス コントロール	—	—	○	—	—	○	—	—	—
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※5	○※5	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—

ニコンクリエイティブライティングシステム対応
スピードライト

			SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SU-800		SB-R200	SB-400	SB-300
								コマンダー 撮影	クローズ アップ 撮影			
アドバンストワイヤレスライティング 補助灯	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
	[A:B]	クイック ワイヤレス コントロール	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
	AA	絞り連動外部 自動調光	○※5	○※5	—	—	—	—	—	—	—	
	A	外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	○	○	—	—	—	—	—	
発光色温度情報伝達			○	○	○	○	—	—	—	○	○	
マルチポイントAF補助光			○	○	○	○	○	—	—	—	—	
赤目軽減発光			○	○	○	○	—	—	—	○	—	
カメラからの発光モード設定			—	—	—	—	—	—	—	○	○	
カメラからのスピードライト ファームアップ			○	—	○	—	—	—	—	—	○	

※1 スポット測光時は設定できません。

※2 スピードライト側でも設定できます。

※3 AAモードとAモードの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

※4 カメラ側でのみ設定できます (□228)。

※5 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。

✔ ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプターAS-15を装着すると、シンクローターミナルが利用できます。

✔ その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

- 撮影モードを**S**または**M**にして1/200秒より遅いシャッタースピードに設定してから撮影してください。
- 次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変えることはありません。

スピードライト		SB-80DX/ SB-28DX	SB-50DX ^{※1}	SB-28/ SB-26/ SB-25/ SB-24	SB-30/ SB-27 ^{※2} SB-22S/ SB-22/ SB-20/ SB-16B/ SB-15	SB-23/ SB-29 ^{※3} / SB-21B ^{※3} / SB-29S ^{※3}	
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチ フラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※4}	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。

※2 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使えません。SB-27をAモードに設定し直してください。

※3 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスがができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

✔ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。
- フラッシュモード (□88) のAUTO (オート：自動発光) 機能は解除され、常に外付けのスピードライトが発光します。
- スピードライトを使うと、、、、、を除く全ての撮影モードでフラッシュ撮影できます。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800装着時に外付けスピードライト側で調光補正をしたときは、インフォ画面にマークが点灯します。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後にレディーライトが約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。その他のスピードライトの場合、充電完了表示と露出アンダー警告は、スピードライト側で確認してください。詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- 高感度撮影時に一部のスピードライトを使用するとノイズ (すじ) が発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシャッターの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が17mmから105mmの場合	AFレンズの焦点距離が106mmから135mmの場合

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmから34mmの場合	AFレンズの焦点距離が35mmから105mmの場合

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmから135mmの場合

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

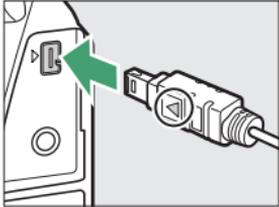
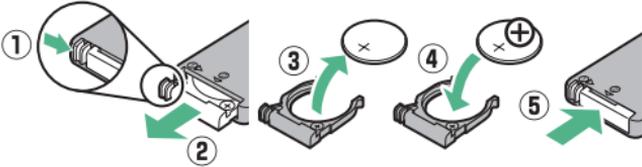
電源	<ul style="list-style-type: none">● Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (□14) ニコンデジタルカメラD3300用のバッテリーです。<ul style="list-style-type: none">- EN-EL14aの代わりにEN-EL14も使えます。● バッテリーチャージャー MH-24*1 (□14) Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14aおよびEN-EL14用のチャージャーです。● パワーコネクター EP-5A、ACアダプター EH-5b*2 ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。<ul style="list-style-type: none">- このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Aが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□312)をご覧ください。- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。 <p>*1 家庭用電源のAC 100～240 V、50/60 Hzに対応しています。 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などで確かめの上、お買い求めください。</p> <p>*2 日本国内専用電源コード (AC 100V対応) 付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。</p>
----	---

使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

<p>フィルター</p>	<ul style="list-style-type: none"> • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL II）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、[測光モード]（□111）を[☉]（中央部重点測光）にして撮影することをおすすめします。[☉]（マルチパターン測光）では、十分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
<p>USB/ オーディオ ビデオ出力端子</p>	<ul style="list-style-type: none"> • USBケーブル UC-E17、UC-E6（□200、204） USBケーブルUC-E17は、単体では販売しておりません。UC-E6をお買い求めください。 • オーディオビデオケーブル EG-CP14 • ワイヤレスモバイルアダプター WU-1a（□258） Wireless Mobile Utilityをインストールしたスマートデバイスと双方向無線通信ができます。
<p>ボディ キャップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボディキャップ BF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ミラーや撮像素子、ファインダースクリーンなどへのゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
<p>アクセサリ シューカバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • アクセサリシューカバー BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。

<p>ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Capture NX 2 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。 ● ソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。お使いのパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター2 (Nikon Message Center 2) が自動的に更新情報をチェックします。 ● 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報 (□xix) でご確認ください。
<p>ファインダー用 アクセサリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アイピースキャップ DK-5 (□72) カメラの接眼部に取り付けると、適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぎます。 ● 接眼補助レンズDK-20C 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。-5、-4、-3、-2、0、+0.5、+1、+2、+3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置 (-1m⁻¹) の場合の値です。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています (-1.7~+0.5m⁻¹) ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 ● マグニファイヤー DG-2 ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 ● アイピースアダプター DK-22 上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。 ● 角窓用変倍アングルファインダー DR-6 カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向 (水平方向に向けたカメラの真上など) からファインダー内の画像を確認できます。

<p>アクセサリターミナル</p>	<p>アクセサリターミナルに次のアクセサリを接続することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 (□98、256) • ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□98、256) • リモートコードMC-DC2 (□107、256) • GPSユニットGP-1/GP-1A (□257) <p>図のようにアクセサリターミナルの▷マークとコネクタの◁マークを合わせて、コネクタをアクセサリターミナルに接続します。</p>  <p>使用しないときは、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。</p>
<p>リモコン/ ワイヤレス リモートコン トローラー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リモコンML-L3 (□96) リモコン用電池 (CR2025型3Vリチウム電池) の交換方法  <p>電池室のノブを右側に押しながら (①)、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して (②) ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「-」の向きをよくご確認ください (④)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 (□98、256) ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10をカメラのアクセサリターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。 • ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□98、256) WR-1は2台以上を組み合わせて送信機と受信機として使います。受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、無線での遠隔撮影を行えます。
<p>外部マイク</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ステレオマイクロホンME-1 (□152)

推奨SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SDメモリーカード	SDHCメモリーカード※2	SDXCメモリーカード※3
SanDisk製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
東芝製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、 12 GB、16 GB、 24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	—
プラチナIIシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB
プロフェッショナルシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、 16 GB、32 GB	64 GB、128 GB
フルHDビデオカードシリーズ	—	4 GB、8 GB、 16 GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

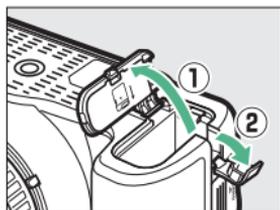


- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

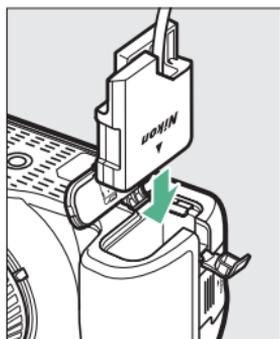
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源をOFFにしてください。

- 1** カメラのバッテリー室カバー (①)
とパワーコネクターカバー (②) を
開ける



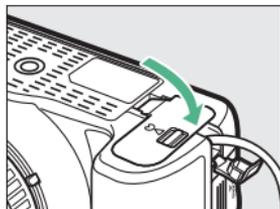
2 パワーコネクター EP-5Aを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れてください。



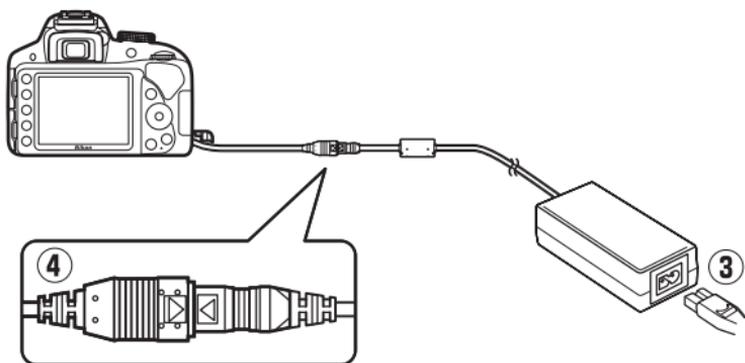
3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示が  に変わります。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払いします。スプレー缶タイプのプロアードは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブローアード払いします。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

カメラ内部のお手入れについて

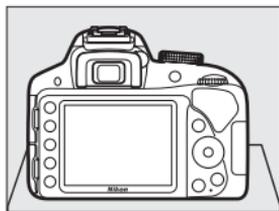
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

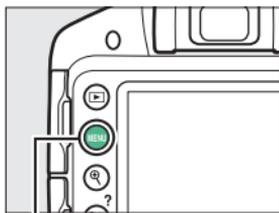
1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

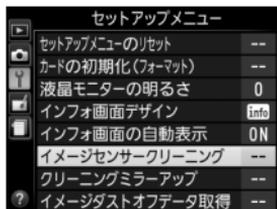


2 【イメージセンサークリーニング】を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選んでマルチセレクターの▶を押します。

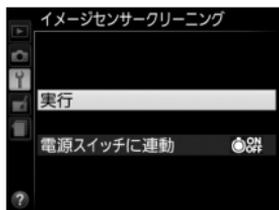


MENUボタン

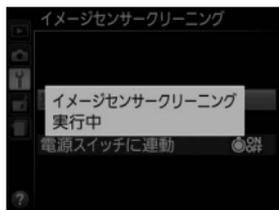


3 [実行] を選ぶ

- [実行] を選んで  ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、ファインダー内に **b5y** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。



- 右の画面が表示されている間は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。



定期点検、オーバーホールのおすすめ

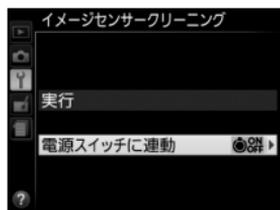
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

■ 電源ON/OFFのタイミングでイメージセンサークリーニングする

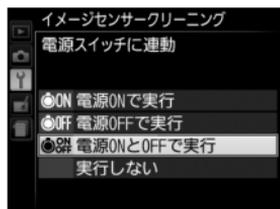
1 [イメージセンサークリーニング] の [電源スイッチに連動] を選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセレクターの▶を押します。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- [電源ONで実行]、[電源OFFで実行]、[電源ONとOFFで実行]のいずれかを選ぶと、電源のON/OFFのタイミングでイメージセンサークリーニングが作動します。
- OKボタンを押して設定します。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のプロアーで掃除する (□318) か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- イメージセンサークリーニングを連続して行くと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

■ 撮像素子前面をブローで掃除する

イメージセンサークリーニング (□315) でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

クリーニング中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 [クリーニングミラーアップ] ※を選ぶ

- MENU ボタンを押して、セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

※ バッテリー残量が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

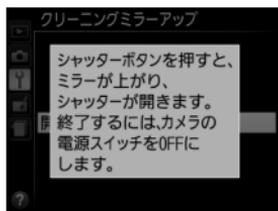


MENU ボタン



3 OK ボタンを押す

- 右のようなメッセージが表示され、クリーニングミラーアップの待機状態になります。



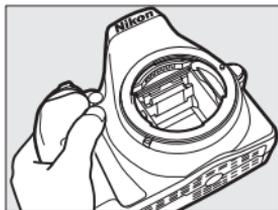
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。



5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローで払う

- ブラシの付いていないブローをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ クリーニング中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。クリーニング中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- クリーニング中に電源をOFFにしないでください。
- クリーニング中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちにクリーニング作業を終了してください。

✔ 撮像素子前面のゴミ付着について

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（□315）で取り除ききれないときは、318ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、フローアールでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブローアで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●撮像素子前面の手入れ方法について

撮像素子前面のクリーニングの方法については□315をご覧ください。

●シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、プロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出した、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押ししたりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● モアレについて

モアレは、被写体の模様と撮像素子の配列とが干渉して起きる現象で、連続するパターンのある画像（建物の格子や格子模様、格子状に並んだビルの窓など）や、規則的に繰り返す細かい模様を持つ被写体（カーテンレースの網目や衣類など）を撮影したときに発生することがあります。

モアレが発生しやすい被写体を撮影するときは、撮影距離を変える、ズームレンズをご使用の場合はズーミングして焦点距離を変える、被写体に対する角度を変えて撮影する、などの方法をおすすめします。

バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態で涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリー EN-EL14aをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

		AUTO 📷、🔋	P、S、A、M	📷、📷、📷、 📷、📷、📷	
撮影関連の設定	レリーズモード	●/○	●	●/○	
	フォーカス モード	ファインダー 撮影時	●	●	●
		ライブビュー/ 動画撮影時	●	●	●
	AE/AFロックボタンの ホールド状態	—	●	●/○	
	プログラムシフト	—	● (S、A、Mでは 設定できません)	—	
	露出補正	—	●	—	
	フラッシュモード	●/○ (🔋のみ設定 できません)	●	●/○ (📷、📷では 設定できません)	
調光補正	—	●	—		

■ 撮影モード 、VI、POP、、、、、、 、、、、

		 、VI、POP、  、  、  、  、  、  、  、 	
撮影モード	画質モード	●	
	画像サイズ	●	
	ホワイトバランス	—	
	ピクチャーコントロール	—	
	自動ゆがみ補正	● ( では設定できません)	
	色空間	●	
	アクティブD-ライティング	—	
	ノイズ低減	● ( では設定できません)	
	ISO感度設定	● ( と  では設定できません)	
	AFエリア モード	ファインダー 撮影時	●/○ ( 、  、  では設定できません)
		ライブビュー/ 動画撮影時	●/○ ( では設定できません)
	内蔵AF補助光の照射設定		● ( 、  、  では設定できません)
	測光モード		—
	内蔵フラッシュ発光/ 外付けフラッシュ発光		—
動画の設定		●	

困ったときは

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

-
- **電源ONの状態、カメラの操作ができない**
 - 画像や動画の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
 - 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやACアダプターの取り外しでは失われません。
 - **ファインダー内がはっきり見えない**
 - ファインダー内の見え方は、視度調節ダイヤルを回して調節できます (□19)。
 - 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、フォーカスモード (□73) を [AF-S]、AFエリアモード (□77) を [∞] (シングルポイントAF) に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
 - 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□309)。
 - **ファインダー内や液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう**

セットアップメニュー [パワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます (□242)。
 - **インフォ画面が表示されない**
 - シャッターボタンの半押し中はインフォ画面は表示されません。
 - シャッターボタンを半押しして指を放してください。それでもインフォ画面が表示されない場合は：
 - セットアップメニューの [インフォ画面の自動表示] が [自動表示しない] になっています (□235)。
 - バッテリー残量がありません (□14、21)。
 - **ファインダー内の表示が薄い、表示が遅い**

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。
-

撮影関連（全撮影モード共通）

- **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**
SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。
 - **シャッターがきれない**
 - 残量のあるSDカードが入っていますか？（□15、18、339）
 - SDカードがロックされていませんか？（□22）
 - 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません（□30）。
 - ピント表示（●）は点灯していますか？（□26）
 - レンズの絞りリングは最小絞り（最も大きい値）になっていますか？（□293）
 - CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません（□299）。
 - セットアップメニュー [カードなし時レリーズ] が [レリーズ禁止] になっていますか？（□250）
 - **連続撮影できない**
内蔵フラッシュが発光する場合は、連続撮影できません（□92）。
 - **ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う**
このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます（□345）。
 - **ピントが合わない**
 - AF-Sレンズ、AF-Pレンズ、AF-Iレンズ以外の場合、オートフォーカス撮影はできません。
 - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□80、82）。
明暗差がはっきりしない/遠くのものと同近のものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
 - フォーカスモードが [MF]（マニュアルフォーカス）になっていませんか？（□73、141）
 - **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**
ファインダー撮影時の [フォーカスモード] が [AF-C] のとき、または [AF-A] で自動的に [AF-C] が選ばれたときは、 ボタンでフォーカスをロックしてください（□73、80）。
-

● フォーカスポイントを選べない

- **[AFエリアモード]**が**[■]**(オートエリアAF)のときは、選べません(□77)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください(□30)。

● AFエリアモードを変更できない

フォーカスモードが**[MF]**(マニュアルフォーカス)になっていませんか？(□73、141)

● AF補助光ランプが光らない

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
 - ファインダー撮影時の**[フォーカスモード]**が**[AF-C]**または**[AF-A]**で自動的に**[AF-C]**が選ばれたとき(□73)
 - ライブビュー/動画撮影時
 - **[AFエリアモード]**が**[3D]**(3D-トラッキング(11点))の場合(□77)
 - **[■]**(オートエリアAF)と**[3D]**(3D-トラッキング(11点))以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合(□77、79)
- 撮影メニュー**[内蔵 AF 補助光の照射設定]**が**[しない]**になっていませんか？(□227)
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。
- AF補助光が光らない撮影モードです(□326)。

● 画像サイズを変更できない

[画質モード]がRAWを含む画質モードのときは、画像サイズを変更できません(□85)。

● 画像の記録に時間がかかる

- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯し続ける場合があります(□27)。
- 撮影メニュー**[ノイズ低減]**が**[する]**になっていませんか？(□224)

● 画像がざらつく

- ISO感度が高くなっていませんか？撮影メニュー**[ノイズ低減]**を**[する]**に設定すると、ざらつきを低減できます(□224)。
 - シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー**[ノイズ低減]**を**[する]**にして撮影すると、ざらつきを低減できます(□224)。
 - アクティブD-ライティングを設定していませんか？撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります(□119)。
-

-
- **リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない**
 - リモコンの電池残量はありますか？ (□310)
 - リモコンモードに設定されていますか？ (□96)
 - フラッシュの充電中は、シャッターがきれません (□98)。
 - 送信ボタンを押す前にセットアップメニュー [リモコン待機時間 (ML-L3)] を過ぎると、リモコンモードはリセットされます (□244)。
 - 極端な逆光状態などでは、別売のリモコンML-L3でのリモコン撮影ができない場合があります。
-
- **電子音が鳴らない**
 - セットアップメニュー [電子音設定] が [電子音なし] になっていませんか？ (□244)
 - レリーズモードが [📷] (静音撮影) になっていませんか？ (□70)
 - ファインダー撮影時のフォーカスモードが [AF-C] のとき、または [AF-A] で自動的に [AF-C] が選ばれたとき、[MF] (マニュアルフォーカス) のときは電子音は鳴りません (□73)。
 - 動画撮影中は電子音は鳴りません (□151)。
-
- **画像にゴミが写り込む**
 - レンズの前面または背面 (マウント側) が汚れていませんか？
 - 撮像素子前面にゴミが付着していませんか？ イメージセンサークリーニングを行ってください (□315)。
-
- **デート写し込みができない**

RAWを含む画質モードに設定されていませんか？ (□85、251)
-
- **動画に音声録音されない**

撮影メニュー [動画の設定] の [録音設定] が [録音しない] になっていませんか？ (□156)
-
- **ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる**

セットアップメニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□238)。
-
- **選択または設定できないメニュー項目がある**

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選べません (□326)。
-

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● シャッターがきれない

- CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モードM以外ではお使いになれません（□299）。
 - 撮影モードMでシャッタースピードをBulbまたはTimeに設定し、そのまま撮影モードをSに変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□103）。
-

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

- フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます（□92）。
 - 撮影メニュー [動画の設定] の [動画のマニュアル設定] が [する] のときは、フレームレートによってシャッタースピードは制限されます（□157）。
-

● 設定したい絞り値が選べない

- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。
-

● 画像の色合いがおかしい

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□121）
 - [ピクチャーコントロール] は正しく設定されていますか？（□132）
-

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□128）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□130）。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[コントラスト]、[色の濃さ(彩度)] のいずれかが [A]（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A]（オート）以外に設定してください（□136）。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は測光モードを変更できません（□113）。

● 露出補正ができない

撮影モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの基準値が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□116）。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードをBulbまたはTimeにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなる場合があります。この現象は、撮影メニュー [ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます（□224）。

再生関連

● RAW画像が表示されない

[画質モード] を [RAW + FINE] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□85)。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください。なお、[全てのフォルダー] にした後に撮影すると、[再生フォルダー設定] は自動的に [記録中のフォルダー] に変更されます (□217)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□218)
- セットアップメニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□240)
- 撮影直後の画像確認時は、自動回転しません (□218)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□240)。

● 画像を削除できない

- SDカードがロックされていませんか? (□22)
- 画像にプロテクトが設定されていませんか? (□181)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□263)。

● プリント指定ができない

- SDカードがロックされていませんか? (□22)
- SDカードの空き容量が不足していませんか? (□18、339)

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの [RAW現像] などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□274)。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売の Capture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください(□200)。

● 画像がテレビに映らない

セットアップメニュー [ビデオ出力] が正しく設定されていますか? (□258)

● 画像がHDMI機器で再生できない

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□213)。

● HDMI-CEC対応機器のリモコンから制御できない

- セットアップメニューの [HDMI] の [機器制御] が [する] になっているか確認してください (□214)。
- テレビ側のHDMI-CECの設定については、テレビの使用説明書などをご覧ください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります (□199)。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

● **Capture NX 2で画像が表示されない**

ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？ (□309)

● **Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません (□237)。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

その他

● **撮影日時が正しく表示されない**

カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします (□18、239)。

● **表示されているメニュー項目が選択できない**

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選択できない項目があります (□15、261)。
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります (□13、326)。
-

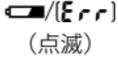
警告メッセージ

液晶モニターとファインダーに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示について

液晶モニターに 、またはファインダー内に  が点滅している場合に  (?) ボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

こんなとき		対処方法	
液晶モニター	ファインダー内表示		
レンズの絞りリングを最小絞り(一番大きい数字)にしてください。	F E E (点滅)	レンズの絞りリングを最小絞り(最も大きい値)にしてください。	293
レンズ未装着	F - -  (点滅)	<ul style="list-style-type: none">• レンズを装着してください。• 非CPUレンズを装着しているときは、撮影モード M で撮影してください。	16 299
撮影するにはズームリングを回してレンズを繰り出してください。	F - - (点滅)	レンズが収納されています。ズームリングボタンを押しながらズームリングを回して、ロックを解除してください。	17
撮影できません。バッテリーを交換してください。	  (点滅)	残量のあるバッテリーに交換してください。	14
このバッテリーは使用できません。専用バッテリーに交換してください。	 (点滅)	専用バッテリーに交換してください。	307

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	 (点滅) (Err) (点滅)	電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	15、17
バッテリーが残り少なくなりました。ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください。	319
日時未設定	—	日時を設定してください。	18、239
メモリーカード未挿入	 (点滅) (-E-)/?	SDカードを正しく入れてください。	15
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	 (点滅) [d] (点滅)	SDカードのロックを解除してください。	22
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	 (点滅) [d]/(Err) (点滅)	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	22

こんなとき		対処方法	☐
液晶モニター	ファインダー内表示		
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[d/Err] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> このカメラで使用できる SD カードであるかどうかを確認してください。 SDカードを初期化し直してください。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください。 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください。 新しい SD カードに交換してください。 セットアップメニューの [Eye-Fi 送信機能] を [無効] にしても、電波が出力される場合があります。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。 	15、311 231、377 190 15、311 259
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> SDカードをカメラで初期化してください。 電源をOFFにしてから、正しく初期化されたSDカードに交換してください。 	231 15
メモリーカード空き容量不足	Ful/0/0 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しい SD カードに交換してください。 	190、200 15

こんなとき		対処方法	□
液晶モニター	ファインダー内表示		
—	● (点滅)	構図を変えるか、マニュアル(手動)でピントを合わせてください。	26、75、82
被写体が明るすぎます	☺ (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を低くしてください。 • シャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 絞りを絞り込んで(より大きい数値にして)ください。 • 市販の ND (光量調節用) フィルターをお使いください。 • ☒の場合は、撮影モードを切り換えてください。 	94 103、105 104、105 308 4
被写体が暗すぎます	☹ (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を高くしてください。 • フラッシュをお使いください。 • シャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 絞りを開いて(より小さい数値にして)ください。 	94 88 103、105 104、105
Sモード時Bulb制御不可	bulb (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モードMで撮影してください。 	103
Sモード時Time制御不可	-- (点滅)		105
パノラマ撮影をするにはライブビューボタンを押してください。	EFFECTS (点滅) PANO	撮影モード☒で撮影を行う場合は、ライブビュー表示に切り換えてください。	63
現在のレンズの焦点距離では撮影できません。	—	撮影モード☒で撮影を行う場合、焦点距離が55mm以下のレンズを使用してください。ズームレンズの場合は、焦点距離が55mm以下のズーム位置で使用してください。	63

こんなとき		対処方法	☒
液晶モニター	ファインダー内表示		
—	⚡ (点滅)	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、フラッシュ調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	—
—	⚡/☒ (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などを確認してください。 • 別売スピードライト SB-400 またはSB-300をお使いの場合に、装着したSB-400、SB-300の位置がバウンス位置になっていると、この警告表示になります。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。 • レンズの焦点距離が 18mm より広角になっています。焦点距離を 18mm 以上にしてください。 • 別売スピードライト SB-400 またはSB-300をお使いの場合に、レンズの焦点距離が短すぎると、この警告表示になり、画像の周辺が暗くなることを警告します。この場合、レンズの焦点距離を長くしてください。 	88 93、 94、 104 — — —
スピードライト エラー	☒ (点滅)	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	377

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
何らかの異常を検出しました。 復旧にはシャッターボタンをもう一度押してください。	Err (点滅)	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	377
起動エラーが発生しました。サービス機関にお問い合わせください。	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください。	377
測光機能エラー	Err (点滅)	ニコンサービス機関にご相談ください。	377
ライブビューを開始できません。カメラ内部の温度が下がるまでしばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	148、155
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • 画像が記録されている SD カードを入れてください。 • 再生メニューの [再生フォルダー設定] を [記録中のフォルダー] にした後、SDカードを交換してから、撮影を行わずに画像を再生しました。[再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にすると、SD カード内の画像を再生できます。 	15 217
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	—

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
このファイルは選択できません。	—	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	263
処理できる画像がありません。	—	[RAW現像] で画像編集できるのはRAW画像だけです。	274
プリンターの状態を確認してください。*	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。	—
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズ用の紙がセットされていません。指定したサイズ用の紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いた後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。指定したサイズ用の紙をセットした後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクを確認してください。*	—	インクに異常があります。インクを確認した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクがありません。*	—	インクがなくなりました。インクを交換した後、 [継続] を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

■ ニコンデジタルカメラD3300

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント (AF接点付)
実撮影画角	ニコンDXフォーマット、焦点距離が約1.5倍のレンズのFXフォーマットでの画角に相当
有効画素数	
有効画素数	2416万画素
撮像素子	
方式	23.5×15.6 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2478万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、 イメージダストオフデータ取得 (別売Capture NX 2必要)
記録形式	
記録画素数	<ul style="list-style-type: none">● 撮影モード□ (かんたんパノラマ) 以外：<ul style="list-style-type: none">- 6000×4000ピクセル (サイズL)- 4496×3000ピクセル (サイズM)- 2992×2000ピクセル (サイズS)● 撮影モード□ (かんたんパノラマ)：<ul style="list-style-type: none">- 4800×1080ピクセル (パノラマ標準：水平移動時)- 1632×4800ピクセル (パノラマ標準：垂直移動時)- 9600×1080ピクセル (パノラマワイド：水平移動時)- 1632×9600ピクセル (パノラマワイド：垂直移動時)
画質モード	<ul style="list-style-type: none">● RAW 12ビット (圧縮)● JPEG-Baseline 準拠、圧縮率 (約)：FINE (1/4)、NORMAL (1/8)、BASIC (1/16)● RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、いずれも調整可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード (SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応)

記録形式	
対応規格	DCF 2.0、DPOF、Exif 2.3、PictBridge
ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約95% (対実画面)
倍率	約0.85倍 (50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき)
アイポイント	接眼レンズ面中央から18mm (-1.0 m^{-1} のとき)
視度調節範囲	$-1.7 \sim +0.5 \text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーン VII
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式
レンズ	
交換レンズ	<ul style="list-style-type: none"> • オートフォーカス可能レンズ：AF-S、AF-P、AF-Iレンズ • オートフォーカス不可レンズ：AF-S、AF-P、AF-I以外のGまたはDタイプレンズ、GまたはDタイプ以外のAFレンズ (IX用レンズ、F3AF用レンズは使用不可)、Pタイプレンズ、非CPUレンズ (撮影モードM (マニュアル) で使用可能、ただしカメラで測光は不可) ※開放F値がF5.6以上明るいレンズでフォーカスイド可能
シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000~30秒 (1/3ステップ)、Bulb、Time
フラッシュ同調シャッタースピード	$X=1/200$ 秒以下の低速シャッタースピードで同調
レリーズ機能	
レリーズモード	 ：1コマ撮影、  ：連続撮影、  ：静音撮影、  ：セルフタイマー、  2s：2秒リモコン (ML-L3)、  ：瞬時リモコン (ML-L3)
連続撮影速度	最高約5コマ/秒* ※ フォーカスモードがマニュアルフォーカスで、撮影モードが S (シャッター優先オート) または M (マニュアル)、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時

レリーズ機能	
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ
露出制御	
測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光：3D-RGB マルチパターン測光Ⅱ（G、E、またはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅱ（その他のCPUレンズ使用時） ● 中央部重点測光：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%） ● スポット測光：φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光、中央部重点測光：0～20 EV ● スポット測光：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	<p>AUTO：オート、☺：発光禁止オート、P：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シーンモード：👤：ポートレート、🏞️：風景、👶：こどもスナップ、🏈：スポーツ、👉：クローズアップ、🌃：夜景ポートレート ● スペシャルエフェクトモード：🌃：ナイトビジョン、🌈：極彩色、POP：ポップ、🖼️：フォトイラスト、🎨：カラースケッチ、📷：トイカメラ風、👗：ミニチュア効果、🖌️：セレクトカラー、👤：シルエット、🏔️：ハイキー、👤：ローキー、🖼️：HDRペインティング、🖼️：かんたんパノラマ
露出補正	P、S、A、M モード時に設定可能、範囲：±5段、補正ステップ：1/3ステップ
AEロック	🔒 （ Om ）ボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 （推奨露光指数）	ISO 100～12800（1段ステップ）、ISO 12800に対し約1段（ISO 25600相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	する、しない

オートフォーカス

方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント11点（うち、クロスタイプセンサー1点）、マルチCAM 1000オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
検出範囲	-1～+19 EV（ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none">• オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニユアスAFサーボ（AF-C）、AFサーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行• マニュアルフォーカス（MF）：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	11点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAF、ダイナミックAF、オートエリアAF、3D-トラッキング（11点）
フォーカスロック	縦（  ）ボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

内蔵フラッシュ	 時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M 時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー：約12（マニュアルフル発光時約12）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	420分割RGBセンサーによるTTL調光制御 ：内蔵フラッシュ、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400またはSB-300でi-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート＋スローシャッター、赤目軽減オート＋スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光＋スローシャッター、赤目軽減発光＋スローシャッター、後幕発光＋スローシャッター、後幕発光、発光禁止
調光補正	範囲：-3～+1段、補正ステップ：1/3ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅

フラッシュ	
アクセサリシュー	ホットシュー (ISO 518) 装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構 (ロック穴) 付
ニコンクリエイティブライティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> SB-910、SB-900、SB-800またはSB-700を主灯、SU-800をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティングに対応 ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで発光色温度情報伝達に対応
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15 (別売)
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯 (7種)、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル。プリセットマニュアル以外はいずれも微調整可能
ライブビュー撮影機能	
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> オートフォーカス (AF)：シングルAFサーボ (AF-S)、常時AFサーボ (AF-F) マニュアルフォーカス (MF)
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能 (顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能)
おまかせシーン (シーン自動判別)	撮影モード  、  で使用可能
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光

動画機能

記録画素数/ フレームレート	<ul style="list-style-type: none">• 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p• 1280×720：60p/50p• 640×424：30p/25p※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps※ 30p/60pは[ビデオ出力]が[NTSC]の場合に選択可能※ 25p/50pは[ビデオ出力]が[PAL]の場合に選択可能※ 標準/高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵モノラルマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
感度	ISO 100～12800、ISO 12800に対し約1段（ISO 25600相当）の増感

液晶モニター

液晶モニター	3型TFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能
--------	---

再生機能

再生機能	1コマ再生、サムネイル再生（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、動画再生、パノラマ再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）
------	--

インターフェース

USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PAL
HDMI出力	HDMIミニ端子（Type C）装備
アクセサリ ターミナル	<ul style="list-style-type: none">• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1、WR-R10（別売）• リモートコード：MC-DC2（別売）• GPSユニット：GP-1/GP-1A（別売）
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）装備、ステレオマイクロホンME-1（別売）使用可能

表示言語

表示言語	日本語、英語
------	--------

電源

使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14a(1個使用)
ACアダプター	ACアダプターEH-5b(パワーコネクターEP-5Aと組み合わせて使用)(別売)

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
-------	----------------

寸法・質量

寸法(W×H×D)	約124×98×75.5 mm
質量	約460 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く) 約410 g (本体のみ)

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下(結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA(カメラ映像機器工業会)規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■■ バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100-240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18-24 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a
充電時間	EN-EL14a充電時：約1時間50分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約70×26×97 mm
質量	約96 g

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、≡ DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

■■ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.2 V、1230 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（W×H×D）	約38×53×14 mm
質量	約49 g（端子カバーを除く）

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0** : 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF (Digital Print Order Format)** : デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3** : (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras) : デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge** : デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像を、パソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** : 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac OSおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2014 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

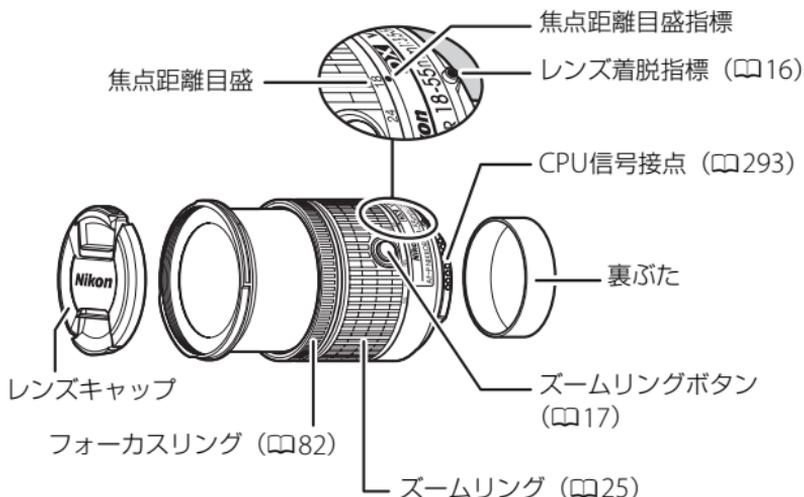
本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2014 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

レンズキットをご購入のお客様へ

付属されるレンズは、レンズキットの内容によって異なります。

AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR/ **AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G**

AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6Gの各部名称は次の通りです（イラストは、AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRです）。



- このレンズは DX フォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。
- このレンズは、デジタル一眼レフカメラのD4 シリーズ、D3 シリーズ、D2 シリーズ、D1 シリーズ、D800 シリーズ、D700、D610、D600、D300 シリーズ、D200、D100、D90、D80、D70 シリーズ、D60、D50、D40 シリーズ、D7000、D5100、D5000、D3200、D3100、D3000、およびフィルム一眼レフカメラには対応していません。
- このレンズは沈胴機構を採用しています。

■ピント合わせの方法

ピント合わせの方法は、カメラのフォーカスモードで設定できます（□73）。

- このレンズをD810 シリーズ、Df、D750、D7200、D7100、D5200 に装着してお使いの場合、ピント合わせを行った後にカメラの半押しタイマーがオフになると、再び半押しタイマーがオンになったときにピント位置が変わります。撮影時に再度ピント合わせを行ってください。マニュアルフォーカスでピント合わせからシャッターをきるまでに時間がかかる場合は、カメラの半押しタイマーを長めに設定しておくことをおすすめします。

オートフォーカス

カメラのフォーカスモードをオートフォーカスに設定すると、カメラが自動でピント合わせを行います（□73）。

- カメラのフォーカスモードがオートフォーカスに設定されていても、カメラのシャッターボタンを半押ししたまま、あるいはカメラのAF-ON ボタンを保持したまま、レンズのフォーカスリングを回転させると手動でピント合わせができます（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。カメラのシャッターボタンを再度半押ししたり、カメラのAF-ON ボタンを再度操作すると、オートフォーカス撮影が可能になります。
- オートフォーカス撮影を行っているときにフォーカスリングに触れると、ピントを合わせていた位置がずれますのでご注意ください。

マニュアルフォーカス

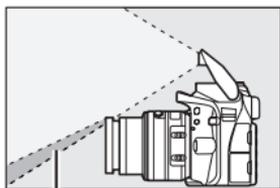
カメラのフォーカスモードを **[MF]**（マニュアルフォーカス）に設定すると、レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを合わせることができます（□82）。

- カメラの電源がOFFのときやカメラの半押しタイマーがオフになったときは、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。また、ズームリングを回すとピントずれが生じます。ピント合わせをするときは、カメラの電源をONにするかシャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてから行ってください。

■ カメラの内蔵フラッシュ使用時のご注意

このレンズの装着時にカメラの内蔵フラッシュを使用する場合は、次のことにご注意ください。

- 撮影距離0.6 m以上で使用してください。
 - ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。
- ※カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



影



ケラレ

デジタル一眼レフカメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
D5500/D5300/D5200/D3300	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18mmでは撮影距離1 m以上● 焦点距離24、35、45、55mmでは制約なし

■ 手ブレ補正機能 (AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR のみ)

AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRをカメラに装着すると、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。撮影メニュー [光学手ブレ補正] (□228) でレンズの手ブレ補正機能のON/OFFを切り換えられます。手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べて4.0段※シャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

※CIPA規格準拠。ただし、FXフォーマット対応レンズはFXフォーマットデジタル一眼レフ使用時、DXレンズはDXフォーマットデジタル一眼レフ使用時。ズームレンズは最も望遠側で測定。

✔ 手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターレリーズ後にファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュの充電中は、手ブレ補正は行いません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正機能を有効にすることをおすすめします。ただし、三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能を使用しない方がよい場合があります。

■ AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6Gの付属アクセサリ

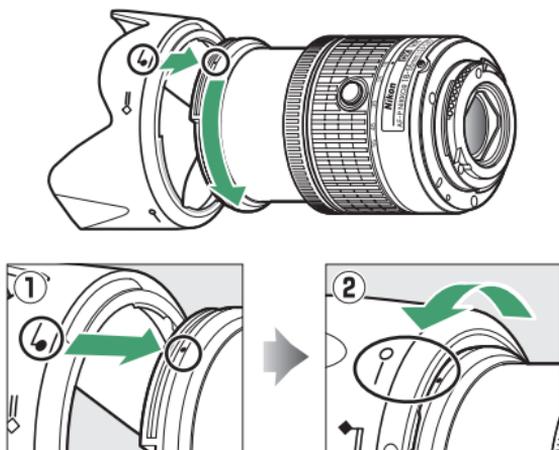
- 55 mmスプリング式レンズキャップ LC-55A
- 裏ぶた

■ AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6Gで使えるアクセサリ

- 55 mmネジ込み式フィルター
- レンズケース CL-0815
- 裏ぶた LF-4
- バヨネットフード HB-N106

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (♯) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (♯) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。着脱の際は、フードセット指標 (—○) 付近を持って回転させてください。

仕様

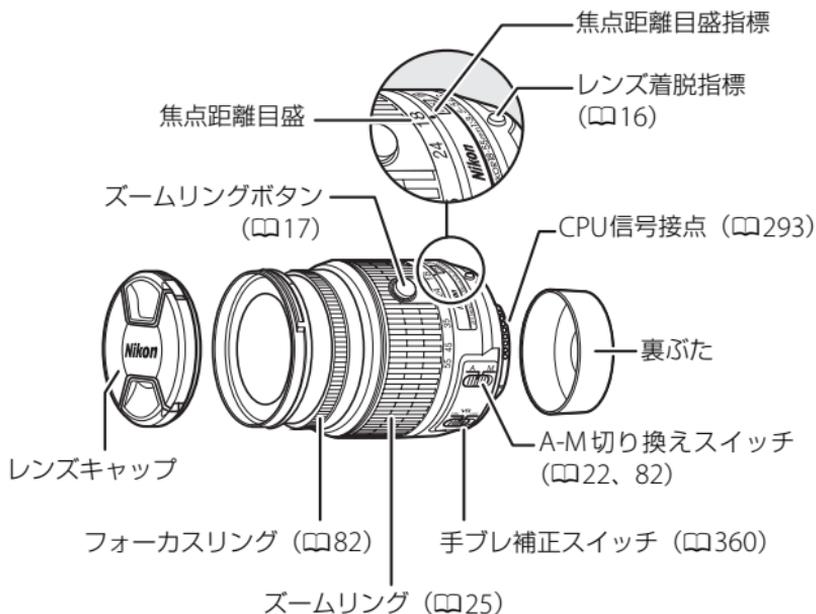
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-P DXレンズ
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1 : 3.5–5.6
レンズ構成	9群12枚（非球面レンズ2枚）
画角	76° – 28° 50′
焦点距離目盛	18、24、35、45、55 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	ステッピングモーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正（AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRのみ）	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	撮像面から0.25 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18 mm時：f/3.5–22● 焦点距離55 mm時：f/5.6–38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	55 mm（P=0.75 mm）
寸法	約64.5 mm（最大径）× 62.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで、沈胴時）
質量	AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR：約205 g AF-P DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G：約195 g

※1 距離基準マーク（□83）は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II

本書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR IIのレンズを使用して説明しています。AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR IIの各部名称は次の通りです。



- このレンズは DX フォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。
- このレンズは沈胴機構を採用しています。

■■ ピント合わせの方法

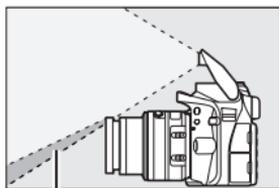
カメラのフォーカスモードとレンズのA-M切り換えスイッチの位置を変えることにより、ピント合わせの方法を選べます (□73、82)。

■ カメラの内蔵フラッシュ使用時のご注意

このレンズの装着時にカメラの内蔵フラッシュを使用する場合は、次のことにご注意ください。

- 撮影距離0.6 m以上で使用してください。
- ケラレを防止するために、レンズのフードは取り外して使用してください。

※カメラの内蔵フラッシュのケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



影



ケラレ

■ 手ブレ補正機能

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II をカメラに装着すると、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べ4.0段※シャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がり、幅広い領域で手持ち撮影が可能です。

※測定条件：焦点距離 55 mm、DX フォーマット機使用時、CIPA ガイドライン準拠。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影状況によって異なります。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチを ON にしてください。



✔ 手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターリリース後にファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュの充電中は、手ブレ補正は行いません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、スイッチをONにすることをおすすめします。

■ AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

IIの付属アクセサリ

- 52mmスプリング式レンズキャップ LC-52
- 裏ぶた

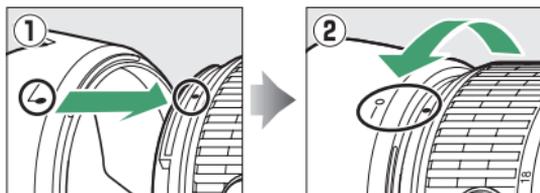
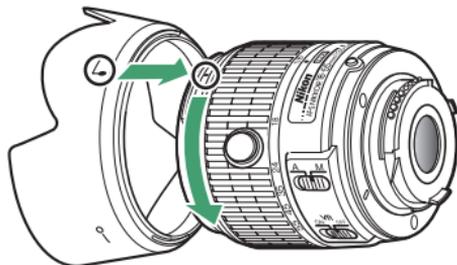
■ AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

IIで使用できるアクセサリ

- 52mmネジ込み式フィルター
- ソフトケースCL-0815
- 裏ぶた LF-4
- バヨネットフードHB-69

レンズフードの取り付け方

フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (♯) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (♯) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

仕様

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DX レンズ
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1 : 3.5–5.6
レンズ構成	8群11枚（非球面レンズ1枚）
画角	76°– 28° 50'
焦点距離目盛	18、24、35、45、55 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※1	<ul style="list-style-type: none">• オートフォーカス時：撮像面から0.28 m（ズーム全域）• マニュアルフォーカス時：撮像面から0.25 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲※2	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離 18 mm時：f/3.5–22• 焦点距離 55 mm時：f/5.6–38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	52 mm（P=0.75 mm）
寸法	約66 mm（最大径）×59.5 mm（レンズマウント基準面からレンズ先端まで、沈胴時）
質量	約195 g

※1 距離基準マーク（83）は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

✓ レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズ面の清掃は、ほこりを拭う程度にしてください。指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布に無水アルコール（エタノール）または市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、レンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きむら、拭き残りのないように注意して拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

広角・超広角レンズのオートフォーカス撮影について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

1 背景に対してメインの被写体が小さい場合

フォーカスポイント内に遠くの建物と近くの人物が混在する場合は、背景にピントが合い、人物のピント精度が低下することがあります。

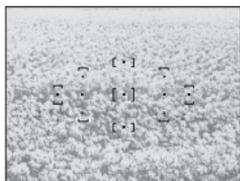
〈人物〉



2 絵柄が細かい場合

背景に対して被写体が小さい場合や被写体と背景の明暗差が少ない場合は、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。

〈花畑〉



「オートフォーカスが苦手な被写体」の説明も参照してください (□75)。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード (□84) と画像サイズ (□86) の組み合わせによって、16GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数	連続撮影可能 コマ数※2
RAW+FINE ※3	L	約31.5MB	345コマ	6コマ
RAW	—	約19.5MB	524コマ	11コマ
FINE	L	約12.1MB	1000コマ	100コマ
	M	約7.4MB	1700コマ	100コマ
	S	約3.8MB	3300コマ	100コマ
NORM	L	約6.3MB	2000コマ	100コマ
	M	約3.8MB	3300コマ	100コマ
	S	約2.0MB	6300コマ	100コマ
BASIC	L	約2.9MB	3900コマ	100コマ
	M	約1.9MB	6500コマ	100コマ
	S	約1.0MB	12100コマ	100コマ

※1 SanDisk社製16GBのExtreme Pro SDHC UHS-1メモリーカードを使用し、
□ (かんたんパノラマ) 以外の撮影モードで撮影した場合。

※2 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。
次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [ノイズ低減] (□224) を [する] に設定した場合
- [自動ゆがみ補正] (□222) を [する] に設定した場合
- セットアップメニュー [デート写し込み設定] (□251) を [しない] 以外に設定した場合

※3 画像サイズはJPEG画像のものです。ファイルサイズはRAW画像とJPEG画像の合計です。

電池寿命について

充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14a (1230mAh) による電池寿命は、次の通りです。

- 撮影可能コマ数 (1コマ撮影モード) : 約700コマ (CIPA基準準拠※1)
- 撮影可能コマ数 (連続撮影モード) : 約2500コマ (当社試験条件※2)
- 動画撮影可能時間 : 約55分※3

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。1回リリース(2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光)した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II、温度23(±2)℃。

※2 レリーズモード 、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、ホワイトバランスAUTO、ISO 100、シャッタースピード1/250秒、シャッターボタンの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、液晶モニターを4秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II (VR機能OFF)、温度20℃。

※3 電池寿命測定方法を定めたCIPA(カメラ映像機器工業会)規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR II、温度23(±2)℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は20分(1080/60pまたは1080/50p)です。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消費が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- GPS ユニット GP-1/GP-1A、ワイヤレスモバイルアダプター WU-1a、Eye-Fiカードを使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-Pレンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索引

マーク・英数字

- AUTO** (オート).....4, 24
- Ⓜ** (発光禁止オート).....4, 24
- Ⓜ** (ポートレート).....5, 46
- 🌄** (風景).....5, 46
- 👶** (こどもスナップ).....5, 47
- 🏆** (スポーツ).....5, 47
- 👁** (クローズアップ).....5, 47
- 🌃** (夜景ポートレート).....5, 48
- 🌃** (ナイトビジョン).....5, 50
- EFFECTS** (スペシャルエフェクト) 5, 49
- VI** (極彩色).....5, 50
- POP** (ポップ).....5, 50
- 🖼** (フォトイラスト).....5, 51, 56
- 🎨** (カラースケッチ).....5, 51, 57
- 📷** (トイカメラ風).....5, 51, 58
- 👤** (ミニチュア効果).....5, 52, 59
- 🎨** (セレクトカラー).....5, 52, 61
- 👤** (シルエット).....5, 53
- 🔑** (ハイキー).....5, 53
- 🔑** (ローキー).....5, 53
- 👤** (HDRペインティング).....5, 54
- 🖼** (かんたんパノラマ).....5, 54, 63
- GUIDE** (ガイドモード).....40
- P** (プログラムオート).....4, 99, 101
- S** (シャッター優先オート).....4, 99, 103
- A** (絞り優先オート).....4, 99, 104
- M** (マニュアル).....4, 99, 105
- 📷** (プログラムシフト).....102
- WB** (ホワイトバランス).....121
- 📷** (1コマ撮影).....67
- 📷** (連続撮影).....68
- 🕒** (セルフタイマー).....67, 71
- 🕒 2s** (2秒リモコン (ML-L3))...67, 96
- 🕒** (瞬時リモコン (ML-L3)).....67, 96
- 📷** (静音撮影).....67, 70
- 📷** (ライブビュー) .. 31, 36, 139, 151
- 📷** (Lv) ボタン.....31, 36, 139, 151
- 📷** (シングルポイントAF).....77
- 📷** (ダイナミックAF).....77
- 📷** (3D-トラッキング (11点))...77
- 📷** (オートエリアAF).....77
- 📷** (顔認識AF).....142
- 📷** (ワイドエリアAF).....142
- 📷** (ノーマルエリアAF).....142
- 📷** (ターゲット追尾AF).....142
- 📷** (マルチパターン測光).....111
- 📷** (中央部重点測光).....111
- 📷** (スポット測光).....111
- 📷** (フラッシュ調光補正).....117
- 📷** (露出補正).....115
- AUTO** (フラッシュモード).....89
- REAR** (フラッシュモード).....91
- SLOW** (フラッシュモード).....89, 91
- i** (アイ) ボタン.....9, 153, 167
- Fn** (ファンクション) ボタン.....248
- (ピント表示).....26, 80, 83
- ?** (ヘルプ).....11, 337
- 📷** (レディーライト).....6, 30, 305
- 📷** (電子音).....244
- 📷** (連続撮影可能コマ数).....69, 366
- 1コマ撮影.....67
- 1コマ表示.....166
- 3D-RGBマルチパターン測光.....293
- 3D-トラッキング (11点).....77
- ACアダプター.....307, 312
- Adobe RGB (色空間).....223
- AEロック.....113

AF-A (AFサーボモード自動切り換え).....	73	i-TTL-BL調光.....	228
AF-C (コンティニュアスAFサーボ) ..	73	i-TTL調光.....	302
AF-F (常時AFサーボ).....	141	JPEG.....	84, 247
AF-S (シングルAFサーボ).....	73, 141	L (画像サイズ).....	86
AFエリアモード.....	77, 142	M (画像サイズ).....	86
AFサーボモード自動切り換え.....	73	MF (マニュアルフォーカス) ..	73, 82, 141, 150
AF補助光.....	76, 227, 295	MOV.....	247, 349
AFロック.....	80	NORMAL.....	84
A-M切り換えスイッチ.....	22, 82, 359	NTSC.....	211, 258
AVケーブル.....	211	PAL.....	258
BASIC.....	84	PictBridge (ピクトブリッジ).....	204, 352
Bulb (バルブ撮影).....	108	PRE (プリセットマニュアル).....	121, 126
Capture NX 2.....	85, 236, 309	RAW.....	84, 274
CEC.....	214	RAW現像.....	274
CPU信号接点.....	293	RGBヒストグラム表示.....	170, 217
CPUレンズ.....	291, 293	S (画像サイズ).....	86
D-ライティング.....	264	SDカード.....	231, 311
DCF Version 2.0.....	352	sRGB (色空間).....	223
DPOFプリント.....	207, 209, 352	Time (タイム撮影).....	109
DPOF (Digital Print Order Format) .	209, 352	USBケーブル.....	200, 204, 308
Dタイプレンズ.....	293	ViewNX 2.....	197, 200, 240, 241
Exif Version 2.3.....	352		
Eye-Fi送信機能.....	259	ア	
Eタイプレンズ.....	293	アイピース.....	72
FINE.....	84	青強調 (フィルター効果).....	268
Fnボタンの機能.....	248, 256	アオリ効果.....	283
GPSユニット.....	257, 310	赤強調 (フィルター効果).....	268
Gタイプレンズ.....	293	赤目軽減発光 (フラッシュモード).....	89, 91
HDMI.....	213, 352	赤目補正.....	265
HDMI-CEC.....	214	明るさ (ピクチャーコントロール).....	136
HDRベインティング (スペシャルエ		アクセサリターミナル.....	256, 310
フェクト).....	54	アクセサリ (使用できるアクセサ	
Hi (感度).....	94	リ).....	307
H.264.....	349		
INDEXプリント.....	207		
ISO感度.....	94, 225		

アクティブD-ライティング	119	画像合成	271
後幕発光 (フラッシュモード)	91	画像コメント	241
位置情報	175, 257, 310	画像サイズ	86
位置情報表示	175	画像情報	168, 217
イメージセンサークリーニング	315	画像ファイル	247
イメージダストオフ	236	画像編集メニュー	261
色合い (色相) (ピクチャーコントロール)	136	傾き補正	278
色温度	123	カメラ内部を自動で掃除する	315
色空間	223	カラーカスタマイズ	270
色の濃さ (彩度) (ピクチャーコントロール)	136	カラースケッチ	282
印刷 (プリント)	204	カラースケッチ (スペシャルエフェクト)	51
インデックスプリント	207	カレンダー表示	177
インフォ画面	7, 8, 232, 235	かんたんパノラマ	63
ウォームトーン (フィルター効果)	268	簡単レタッチ	278
衛星による日時合わせ	257	感度自動制御	225, 226
液晶モニター	7, 139, 232	魚眼効果	280
オート (撮影モード)	24	距離基準マーク	83
オートエリアAF	77	記録可能コマ数	366
オートフォーカス	73	記録フォルダー設定	253
オートモード	4, 24	クイック調整 (ピクチャーコントロール)	136
オート (ホワイトバランス)	121	クール (モノトーン)	267
おまかせシーン	33	クラシックデザイン	232, 234
音量	160	グラフィックデザイン	7, 232
		クリーニングミラーアップ	318
		クリエイティブライティングシステム	300, 301

力

カードなし時リリース	250	クロススクリーン (フィルター効果)	268
カードの初期化 (フォーマット)	231	蛍光灯 (ホワイトバランス)	121
ガイドモード	40	言語 (Language)	240
外部マイク	152, 310	現在地の設定 (地域と日時)	239
開放F値	83, 345	格子線表示	146
画角	294	極彩色 (スペシャルエフェクト)	50
拡大表示	179	コマ送り	159
画質モード	84	コンティニューアスAFサーボ	73
風切り音低減	157	コントラスト (ピクチャーコントロール)	136
画像効果	196, 217		

サ

最近設定した項目	290
サイズ	86, 266
再生	166
再生画面設定	217
再生フォルダー設定	217
再生メニュー	216
先幕発光 (フラッシュモード)	91
削除	190
撮影画面サイズ	294
撮影情報	172
撮影直後の画像確認	218
撮影メニュー	219
撮影メニューのリセット	221
撮像素子前面をブローアで掃除する	318
サマータイム (夏時間)	239
サムネイル	176
シーンモード	5, 46
自動発光 (フラッシュモード)	89
自動ゆがみ補正	222
視度調節	19, 309
絞り値	104, 105
絞り優先オート	104
シャッタースピード	103, 105
シャッターボタン	26, 27
シャッター優先オート	103
常時AFサーボ	141
焦点距離	294
焦点距離目盛	359
初期化 (フォーマット)	22, 231
初期設定一覧	216, 219, 229
シルエット (スペシャルエフェクト)	53
白黒 (モノトーン)	267
シングルAFサーボ	73, 141
シングルポイントAF	77
シンクロナーターミナル	304
推奨SDカード	311
ズームリングボタン	17, 23, 25, 359
スカイライト (フィルター効果)	268
スタンダード (ピクチャーコントロール)	132
スタンダードi-TTL調光	228, 302
ステレオマイクrohon	152, 156, 310
スピーカー	1
スピードライト	300
スペシャルエフェクトモード	49
スポット測光 (測光モード)	111
スライドショー	194
スローシャッター (フラッシュモード)	89, 91
静音撮影	67, 70
制御上限感度 (感度自動制御)	225
晴天 (ホワイトバランス)	121
晴天日陰 (ホワイトバランス)	121
接眼補助レンズ	309
接眼目当て	72
セットアップメニュー	229
セットアップメニューのリセット	231
セピア (モノトーン)	267
セルフタイマー	67, 71, 243
セレクトカラー	285
セレクトカラー (スペシャルエフェクト)	52, 61
全押し (シャッターボタン)	27
全画像削除	191
選択画像削除	191
測光モード	111
外付けフラッシュ発光	228
ソフト (フィルター効果)	269

タ

タイマー	71, 242
タイム撮影 (長時間露出)	107, 109

ダイレクトプリント	204
縦位置自動回転	218
縦横位置情報の記録	240
誕生日カウンター	251, 252
地域と日時	239
チャージャー	14, 307
着脱指標	16, 353, 359
中央部重点測光 (測光モード)	111
調光範囲	93
調光補正	117
調色 (ピクチャーコントロール)	136, 138
通常発光オート (フラッシュモード)	89
低速限界設定 (感度自動制御)	225
デート写し込み設定	251
手ブレ補正スイッチ	22, 359, 360
デモモード	250
テレビ	211
電球 (ホワイトバランス)	121
電子音設定	244
トイカメラ風 (スペシャルエフェクト)	51, 58
動画	36, 151, 156, 159, 161
動画撮影ボタン	37, 152
動画の設定	156
動画の編集	161
動画のマニュアル設定	157
統合表示	174
時計用電池	23
トリミング	266
曇天 (ホワイトバランス)	121

ナ

内蔵AF補助光の照射設定	227
内蔵フラッシュ	88
内蔵フラッシュ発光	227
夏時間の設定 (地域と日時)	239

ニコンクリエイティブライティングシステム	300
日時の設定 (地域と日時)	239
ニュートラル (ピクチャーコントロール)	132
塗り絵	280
ノイズ低減	224

ハ

ハイキー (スペシャルエフェクト)	53
ハイビジョンテレビと接続する	213
ハイライト表示	169, 217
発光禁止 (フラッシュモード)	89
発光禁止オート (撮影モード)	4, 24
バッテリー	14, 307
パノラマ	63, 66
バルブ (長時間露出) 撮影	107
パワーオフ時間	242
パワーコネクター	307, 312
範囲指定 (PictBridge)	206
半押し (シャッターボタン)	26, 27
半押しタイマー	30, 242
非CPUレンズ	299
ピクチャーコントロール	132
ヒストグラム表示	170, 171, 217
日付選択 (PictBridge)	207
日付と時刻を設定する	18, 239
日付の表示順 (地域と日時)	239
日付プリント (PictBridge)	206
ビデオ出力	258
ビビッド (ピクチャーコントロール)	132
標準表示	169
ピント表示	26, 80, 83
ファームウェアバージョン	260
ファインダー (視度調節)	19, 309
ファンクションボタン	248
フィルター効果	136, 268

風景 (ピクチャーコントロール) ..	132
フォーカスエイド	83
フォーカスエイドインジケータ	245
フォーカスポイント	26, 32, 77, 79, 83, 143
フォーカスポイントを選ぶ	79
フォーカスモード	73, 82, 141
フォーカスモード切り換えスイッチ ...	82
フォーカスリング	82, 353, 359
フォーカスロック	80
フォーマット (カードの初期化) ...	22, 231
フォトイラスト	281
フォトイラスト (スペシャルエフェクト)	51, 56
フチ設定 (PictBridge)	206
フラッシュ	88, 117, 300
フラッシュ調光補正	117
フラッシュ発光量制御	117, 227
フラッシュモード	89, 91
フラッシュ (ホワイトバランス) ..	121
プリセットマニュアル (ホワイトバランス)	121, 126
フリッカー低減	238
プリント	204
プリント画像選択 (PictBridge) ..	207
プリント実行 (PictBridge) .	205, 208
プリント指定 (DPOF)	209
プリント設定 (PictBridge) .	205, 208
プログラムオート	101
プログラムシフト	102
プロテクト (保護)	181
ヘルプ	11
編集前後の画像表示	287
ポートレート (ピクチャーコントロール)	132
ボタン動作のオプション	248
ポップ (スペシャルエフェクト) ...	50

ボディーキャップ	2, 308
ホワイトバランス	121
ホワイトバランスの微調整	124

マ

マイク	152, 156
枚数指定 (PictBridge)	206
マニュアル (露出)	105
マニュアル発光モード (内蔵フラッシュ発光)	227
マニュアルフォーカス	73, 82, 141, 150
マルチセレクター	3, 11
マルチパターン測光 (測光モード)	111
マルチプログラムオート	101
緑強調 (フィルター効果)	268
ミニチュア効果	284
ミニチュア効果 (スペシャルエフェクト)	52, 59
ミラー	2, 318
メモリーカード	311
モードダイヤル	4
モノクローム (ピクチャーコントロール)	132
モノトーン	267

ヤ

ゆがみ補正	279
用紙設定 (PictBridge)	206
予測駆動フォーカス	74

ラ

ライブビュー	31, 139, 151
リセット	221, 231
リモートコード	110, 256, 310

リモコン	96, 244, 310
リモコン受光部	97
リモコン待機時間	244
輪郭強調 (ピクチャーコントロール) . 136	
レーティング	183
レディーライト	6, 30, 305
レリーズモード	67
レンズ.....	16, 291, 359
レンズマウント	2, 83
連続撮影.....	68
連続撮影可能コマ数	366
連番モード.....	246
ローキー (スペシャルエフェクト) 53	
録音設定.....	156
露出インジケータ 106	
露出補正.....	115

ワ

ワイヤレスモバイルアダプター ...	258, 308
ワイヤレスリモートコントローラー ...	98, 310

ニコンプラザのご案内

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。お客さまのデジタルイメージングの世界を拡げ、写真文化の普及、向上に資するよう目指しています。

※ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っています。

ニコンプラザ銀座

〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-1 ストラータ ギンザ 1・2階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第1土曜日とその翌日、8月の第2土曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ新宿

〒163-1528 東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー 28階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月11日・12日、8月の第3日曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ名古屋

〒461-0005 名古屋市東区東桜 1-13-3 NHK名古屋放送センタービル 2階

営業時間：10:30～18:30（日曜日、祝日、年末年始を除く毎日）

ニコンプラザ大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-2 ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー 13階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第3土曜日とその翌日、8月の第3土曜日とその翌日を除く毎日）



ニコンプラザショールーム（銀座・新宿・名古屋・大阪）ナビダイヤル

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター（銀座・新宿・名古屋・大阪）ナビダイヤル

0570-02-8060

音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

- ・ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター(03)6702-0577 におかけください。

補修用性能部品と修理可能期間について

補修用性能部品（機能維持に必要な部品）の保有期間内（製造打ち切り後7年を目安）を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合がありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

修理サービスのご案内

■修理のご依頼

ニコンサービス機関（修理センター、ニコンプラザサービスセンター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

- 修理センターについては以下で、ニコンプラザサービスセンターについては、前ページでご案内しています。
- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください（内蔵メモリーがあるカメラでは、メモリー内のデータが消去される場合があります）。
- 補修用性能部品と修理可能期間については、前ページをご覧ください。

■修理センター

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

- 修理センターでは、「ニコンピックアップサービス」などの宅配便のみをお受けします。
- ご来所の方の受付はございません。ご了承ください。



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、カスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。

■ニコンピックアップサービス

梱包資材のお届け・修理センターへのお引き取り、修理後のお届け・集金までをニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が一括して代行するサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。

<インターネットでのお申し込み>

<http://www.nikon-image.com/support/repair/>

「ニコンピックアップサービス」のお申し込み、見積もり金額やインターネットで申し込んだ修理の進捗状況や納期などの確認ができます。

<フリーダイヤルでのお申し込み>



ニコンピックアップサービス専用 フリーダイヤル（ヤマト運輸にて承ります）

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00（年末年始 12/29～1/4 を除く毎日）

製品の使い方に関するお問い合わせ

■ニコン カスタマーサポートセンター

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）



ニコン カスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

- ・ナビダイヤルは一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577 におかけください。
- ・ファクシミリは、(03)5977-7499 にお送りください。

■お問い合わせ時のお願い

- ・おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。
- ・ソフトウェアのトラブルは、おわかりになる範囲で「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OS名およびバージョン」、「CPU名およびメモリー容量」、「セキュリティーソフトウェア名」、「問題発生時の操作手順と症状」、エラーメッセージが表示されていたらメッセージ内容などをご確認のうえ、お問い合わせください。
- ・ファクシミリや郵送でのお問い合わせは、「ご住所」、「お名前（フリガナ）」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

ニコンイメージング（ウェブサイト）/サポートページ

<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

※修理に関するお問い合わせは、前ページの「修理サービスのご案内」もご参照ください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**